

總計							
考備							

「七年以内ノ者(當年ノ者ヲ含ム)欄ノ人員ハ徵兵表其二「逃亡失踪所在不明」欄ノ人員ト一致ス
 (キモトス)

〔参照〕

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日)抄録

第一條第一項

條例第四條第一項但書及同條第二項ニ依リ兵員徵集區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條第二項

前條ノ現役兵員鐵道隊、電信隊、氣球隊ノ兵員及縫工卒及靴工卒ヲ除クハ徵集師管ヲ管轄スル師團ノ同兵種ノ兵員ヲ通シテ之ヲ配賦シ近衛兵員ニ在リテハ各適當ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ兵員ニ在リテハ其ノ殘員中ニツキ徵集順序ニ從ヒ本籍師團兵ト交互之ニ充テ第十四師管ノ騎兵、砲兵ニ在リテハ本籍師團兵、第七師團兵及騎兵旅團又ハ砲兵旅團兵ノ順序ニ依ルモノトス

第三條第一項

島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ徵兵適齡者人員及前年假決ノ人員ヲ同月二十日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ其ノ人員ヲ取總メ二月一日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ二月十日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條

陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フノ外各兵種ノ任務ニ應ジ學力ヲ有スル者ト否ラサル者トヲ適當ニ配當スヘキモノトス但シ騎兵及輜重兵ニ在リテハ他兵種ニ比シ學力ヲ有スル者ノ割合ヲ多クスヘシ

第二十一條

身體検査ニ合格シタル壯丁中徵集算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條

入營兵集合地ハ附表ニ依ル

第三十七條

附表ニ掲グル諸兵入營ノ期ニ先チ當該師團司令部、臺灣總督府被服本廠同支廠及鎮守府ハ入營兵集合地ヨリ入營地ニ至ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

臺灣澎湖島ノ軍隊ニ入營スヘキ兵員及他ノ師管ヨリ十二月第七師團ニ入營スヘキ兵員ハ十日間以内ニ於テ二回若ハ三回ニ分チ入營セシムルコトヲ得但シ其ノ期日ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五十條 前二條ノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到達セサルトキハ其ノ年ノ検査及抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終

決ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十四條 現役兵又ハ補充兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレタル者正當ノ事故ナクシテ一年志願兵トシテ所定ノ期日ニ

入營セサルトキハ現役兵ニ在リテハ更ニ身體検査ヲ爲スコトナク直ニ徵集ノ手續ヲ爲シ補充兵ニ在リテハ補充兵ニ服

セン

現役兵又ハ補充兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレ一年志願兵條例ニ依リ一年志願兵トシテノ入營ヲ延期セラレタル者ハ

其ノ間現役兵ニ在リテハ入營延期ノ取扱ヲ爲シ補充兵ニ在リテハ補充兵役ニ服スルモノトス

第五十五條 聯隊區司令官、警備隊司令官ハ一年志願兵志願者ノ人名ヲ調査シ其ノ年徵兵検査ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ

結果ヲ師團長ニ報告スルノ外第五十四條ニ依リ取扱ノ資ニ供スヘシ

○陸軍省令第九號

陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月十日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第二十一條第七號中「修學ノ爲メ諸學校」ヲ「修學等ノ爲諸學校官衙」ニ改ム

第二十二條第九項中「給スルコトヲ得」ノ下ニ「演習旅行、陣營移轉及樺太清國韓國駐劄隊交代」ヲ除ク

ノ外隊伍ヲ爲シ旅行スルトキ及軍隊旅行ノ場合ニ於テ人員少數ノ爲同表定額ニ依リ難キトキ亦同

シヲ加フ

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ人員少數ノ爲第四表定額ニ依リ難キトキハ舟車馬賃ヲ除クノ外所屬長官ノ見

込ヲ以テ同表ノ倍額以内(第一表ノ定額ヲ超過スルヲ得スルヲ給スルコトヲ得

第二十八條中「若クハ召集ノ者」ヲ削ル

第二表 移轉料

階級	區分	運搬費				雜費
		汽車費	船費	車馬賃	雜費	
大將	高等官親任	七	六	六	四十	
中將	同	六	五	五	四十	
少將	同	五	四	四	三十	
大佐	同	五	四	四	三十	
中佐	同	四	三	三	二十	
少佐	同	三	二	二	二十	
大尉	同	三	二	二	二十	
中尉	同	二	一	一	十	
少尉	同	二	一	一	十	
准尉	同	二	一	一	十	
士官	同	二	一	一	十	
兵卒	同	二	一	一	十	

參謀總長 教育總監ノ職ニ在ル中將ハ大將ノ額ニ依ル
 北海道ハ毎年十一月ヨリ翌年三月迄五箇月間車馬賃ニ限り本表定額ノ八割ヲ増給ス
 家族ヲ携行スル者又ハ移轉セシムル場合ニハ所屬長官ノ證明ヲ要ス
 臺灣ニ在リテハ運搬費ニ限り本表定額ノ倍額ヲ給ス
 雇員傭人ハ特ニ赴任セシムル場合ニ限ル

第三表 旅費
 入學校 兵卒 歸郷 學術受驗
 汽車賃 船賃 車馬賃 宿泊料 日當

階級	汽車賃	船賃	車馬賃	宿泊料	日當
上長官以上	四	三	十	一圓三十錢	八十

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第十六號陸軍旅費規則(明治三十二年六月七日)抄錄
 第二十二條 左ノ各項ニ該ル者ニハ第三表ノ旅費ヲ給ス但シ第五項中被告事件ノ爲メ護送ヲ受クル者ニ在テハ定額内ヲ以テ實費トス

第八表 馬匹旅費

名	區分	汽 車 路				水 路		陸 路	
		百五十哩未満	百五十哩以上	三百哩以上	付	一哩	一哩	一哩	一哩
馬	匹	十	十	八	十	十	十	十	十

特ニ乘馬ニテ旅行ヲ命シタル者滞在在中ニ限リ馬匹一頭ニ付一日五十錢ヲ給ス
 本表旅費ニハ馬丁ノ旅費ヲ包含ス
 臺灣樺太清國及韓國行ノ者ニシテ馬匹等運ノトキ内地旅行間ハ本表ノ外馬糧ノ實費ヲ給ス
 本表ニ依リ算出シタル一日分ノ旅費額五十錢ニ滿タサルトキハ五十錢ヲ給ス
 汽車旅行ニ限リ馬匹二頭以上ハ一頭ヲ増ス毎ニ本表定額ノ五割ヲ増給ス

士 官 四 錢 三 錢 十 錢 一 圓 五十 錢
 准 士 官 三 錢 三 錢 十 錢 八 十 錢 四十 錢
 下 士 以下 一 錢 五 厘 一 錢 五 厘 六 錢 四 十 錢 二十 錢
 理事候補ハ准士官ノ額ニ依リ士官候補生、主計候補生、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及生徒ハ下士以下ノ額ニ依ル
 歸郷者ニシテ傷疾疾病ニ依リ歩行シ難キ者ハ車馬賃一里ニ付四錢ヲ増給ス
 北海道ハ毎年十一月ヨリ翌年三月迄五箇月間車馬賃ニ限り本表定額ノ八割ヲ増給ス但シ傷疾疾病ニ依リ歩行シ難キ者ノ割増ハ前項ノ增加額ヲ加算シテ算出スルモノトス

七 修學ノ爲メ諸學校へ召集又ハ軍隊へ派遣ノトキ其ノ他諸學校ノ學生生徒トナリ派遣ノトキ
 第二十二條第九項
 前各項中第一項第七項及第八項ニ依リ第四表ノ旅費ヲ給スルモノハ該定額内ヲ以テ實費支辨シ第三項乃至第六項ニ依リ
 第四表ノ旅費ヲ給スルモノハ舟車馬賃ヲ除クノ外所屬長官ノ見込ヲ以テ同表ノ倍額以内ニ定額ヲ給スルコトヲ
 得

第二十八條 諸學校軍隊等ニ修學ノ爲メ派遣者クハ召集ノ者又ハ事務習修ノ爲メ派遣ノ者及諸學校附ノ將校隊附勤務ノ爲
 メ派遣ノ者ハ其ノ滞在中日當及宿泊料ヲ給セス

○陸軍省令第十號

陸軍召集規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第七十六條及第九十二條中「依託學生月額金拾五圓」ヲ「依託學生月額金二十圓」ニ「依託生徒同金拾
 圓」ヲ「依託生徒同金十五圓」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第三十四號陸軍召集規則(明治三十二年十一月十五日)抄錄

第七十六條及第九十二條

依託學生及依託生徒ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支給ス

依託學生

依託生徒

月額金拾五圓
同金拾圓

○司法省令第八號

明治三十八年司法省令第十號中左ノ通改正ス

明治四十二年五月十八日

司法大臣 子爵岡部長職

別表中左ノ如ク改ム

〔新潟地方裁判所〕ノ項及〔福岡地方裁判所〕ノ項ヲ削ル

〔廣島地方裁判所〕ノ項中〔尾道區裁判所〕欄ヲ削ル

〔松江地方裁判所〕ノ項〔松江區裁判所〕欄中〔今市〕ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十八年三月二十七日司法省令第十號ハ區裁判所刑事事務ノ取扱ニ關スル件ナリ

○司法省令第九號

判事檢察官等俸給令第三條第一項ニ依リ左ノ區裁判所ヲ指定ス

東京區裁判所	橫濱區裁判所	土浦區裁判所
栃木區裁判所	熊谷區裁判所	高崎區裁判所
濱松區裁判所	松本區裁判所	長岡區裁判所
高田 ^{新潟地} 區裁判所	京都區裁判所	宮津區裁判所
大阪區裁判所	神戸區裁判所	姫路區裁判所
名古屋區裁判所	岡崎區裁判所	高岡區裁判所
廣島區裁判所	吳區裁判所	尾道區裁判所
赤間關區裁判所	津山區裁判所	米子區裁判所
長崎區裁判所	佐世保區裁判所	福岡 ^{福岡地} 區裁判所
久留米區裁判所	小倉區裁判所	中津區裁判所

熊本區裁判所
若松區裁判所
弘前區裁判所
小樽區裁判所
仙臺區裁判所
磐井區裁判所
札幌區裁判所
ウラジミロフカ區裁判所
古川區裁判所
横手區裁判所
旭川區裁判所
マウカ區裁判所

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年五月二十五日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省令第十號
佐賀地方裁判所管内佐賀區裁判所西尾出張所ヲ「佐賀區裁判所北茂安出張所」ト改稱ス
本令ハ明治四十二年六月十二日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年五月二十五日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省令第十一號
判事檢察官等俸給令第三條第六項ニ依リ左ノ地方裁判所支部ヲ指定ス
水戸地方裁判所土浦支部
浦和地方裁判所熊谷支部
静岡地方裁判所濱松支部
新潟地方裁判所長岡支部
京都地方裁判所宮津支部
名古屋地方裁判所岡崎支部
廣島地方裁判所尾道支部
岡山地方裁判所津山支部
長崎地方裁判所佐世保支部
宇都宮地方裁判所栃木支部
前橋地方裁判所高崎支部
長野地方裁判所松本支部
新潟地方裁判所高田支部
神戸地方裁判所姫路支部
富山地方裁判所高岡支部
山口地方裁判所赤間關支部
鳥取地方裁判所米子支部
福岡地方裁判所久留米支部

福岡地方裁判所小倉支部
仙臺地方裁判所古川支部
盛岡地方裁判所磐井支部
青森地方裁判所弘前支部
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年五月二十六日

司法大臣 子爵岡部長職

○文部省令第十四號
東京高等商業學校專攻部ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ專攻部ニ在學スル生徒及本年本科ヲ卒業シ專攻部ニ入學ヲ志望スル者ニ限り明治四十四年九月十日マテ仍ホ從前ノ規程ニ依ル
東京高等商業學校生徒ニシテ本科卒業ノ後尙其ノ學業ヲ研究セントスル者アルトキハ學校長ニ於テ必要ト認ムル場合ニ限り研究生トシテ一箇年以内在學ヲ許スコトヲ得
明治四十二年五月六日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省令第七號
道廳府縣種畜場規程第七條中「決算報告書及」ヲ削除シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年五月三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔参照〕

農商務省令第六號道廳府縣種畜場規程(明治三十五年四月三十日)抄錄
第七條第一項
道廳府縣種畜場前年度ノ決算報告書及業務功程ハ地方長官ヨリ毎會計年度後二箇月内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

○農商務省令第八號

種畜牧場種豚拂下規程中第十一條第一號ヲ削除シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

農商務省令第八號種畜牧場種豚拂下規程(明治三十八年三月十五日)抄録

第十一條 拂受人又ハ拂下種豚ノ所有者若ハ管理者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 拂受ケタル種豚ヲ讓渡シ若ハ貸付ケタルトキハ讓受人又ハ借受人ノ住所、氏名及其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

○農商務省令第九號

種畜牧場種牛拂下規程中第十一條第一號ヲ削除シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

農商務省令第五號種畜牧場種牛拂下規程(明治三十九年三月十日)抄録

第十一條 拂受人又ハ拂下種牛ノ所有者若ハ管理者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 拂受ケタル種牛ヲ讓渡シ若ハ貸付ケタルトキハ讓受人又ハ借受人ノ住所、氏名若ハ名稱及其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

○農商務省令第十號

地方農事試驗場及地方農事講習所規程中第十三條ヲ削リ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

農商務省令第二號地方農事試驗場及地方農事講習所規程(明治四十一年一月二十八日)抄録

第十三條 農事試驗場又ハ農事講習所ノ收支豫算書ハ毎年三月三十一日迄ニ郡市區立ニ在リテハ郡市區長ニ於テ地方長官

ニ道府縣立ニ在リテハ地方長官ニ於テ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス其ノ豫算ヲ變更シタルトキハ二十日以内ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國庫ノ補助ヲ受ケル農事試驗場又ハ農事講習所ニ之ヲ適用セス

○農商務省令第十一號

明治三十年農商務省令第十六號中左ノ通改正ス

明治四十二年五月十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第十二項第十八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十九 仲買人ノ身元保證金供託ニ關スル屆書

〔參照〕

農商務省令第十六號(明治三十年九月十四日)抄録

本大臣ニ提出スル左記ノ文書ハ自今地方廳ヲ經由スルヲ要セス

十二 取引所ヨリ提出スル左記ノ報告申請及屆書

○農商務省令第十二號

國有林野法施行規則中左ノ通改ム

明治四十二年五月十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第二十八條 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキ

ハ大林區署長ハ代之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ大林區署長其ノ附屬物收去ノ必要ナシト認メタルトキハ借受人カ之ヲ抛棄シ

タルモノト看做スコトヲ得

〔參照〕

農商務省令第二十五號國有林野法施行規則(明治三十二年八月三日)抄録

第二十八條 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキハ大林區署長之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

○農商務省令第十三號

明治三十四年農商務省令第十三號中左ノ通改正シ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加ヘ第一號以下順次繰下ク
一定款變更ノ認可ニ關スル件

〔參照〕

農商務省令第十三號(明治三十四年十二月二十五日)抄錄

第一條第一項

重要物產同業組合ニ關シ左ニ掲ケタル事項ハ之ヲ其主タル事務所所在地ノ地方長官ニ委任ス

○農商務省令第十四號

水産組合規則中左ノ通改正シ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第五條第二項中「與ヘムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ」ヲ「與ヘタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ」ニ改メ第三項ヲ削ル

〔參照〕

農商務省令第九號水産組合規則(明治三十五年五月十七日)抄錄

第五條第二項及第三項

地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
地方長官役員ノ選任並經費ノ豫算及徴收法ヲ認可シタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

○農商務省令第十五號

畜牛結核病豫防法施行規則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十八日

農商務大臣 男爵大浦兼武
內務大臣 法學博士 男爵平田東助

第二條第一項中第一號樣式ニ依リ及第三項中第二號樣式ニ依リヲ削ル
附屬樣式中第一號樣式第二號樣式ノ一及第二號樣式ノ二ヲ削ル

〔參照〕

農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則(明治三十六年五月三十日)抄錄

第二條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル検査期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年輪、毛色、用途及所在地ヲ第一號樣式ニ依リ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ届出ツヘシ

前項届出期間後新ニ検査未済ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以内ニ届出ツヘシ

検査未済ノ畜牛ニ關シ前二項ノ届出事項ニ變更アリタルトキハ第二號樣式ニ依リ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ但シ畜牛所所在地ノ變更ニシテ他ノ警察官署ノ管轄區域ニ互ルトキハ新舊兩地ノ警察官署ニ届出ツヘシ

○農商務省令第十六號

茶業組合規則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月二十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第四條 營業ノ種別ニ依リ各別ニ組合ヲ設クル必要アルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第七條中「聯合會議所ヲ設ケ」ヲ「聯合會議所ヲ、製茶外國貿易ノ發展ヲ圖ル爲メ」ニ改ム

第九條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第九條ノ二 地方長官ハ茶業組合又ハ聯合會議所ニ、農商務大臣ハ中央會議所ニ對シ規約又ハ區域ノ變更ヲ命シ其他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲナスコトアルヘシ

第九條ノ三 地方長官ニ於テ第九條ニ依リテ處分ヲナシタルトキハ規約又ハ豫算書ヲ添付シテ、第九條ノ二ニ依リテ處分ヲナシ若クハ命令ヲ發シ第二十四條ニ依リテ處分ヲナシ又ハ第三

十四條ニ依リテ議員ノ改選ヲ命シタルトキハ事情ヲ具シテ其都度之ヲ農商務大臣ニ報告スヘ

第九條ノ四 經費ノ決算及事業成績ハ次年度ニ於テ茶業組合及聯合會議所ニ在リテハ地方長官

ニ、中央會議所ニ在リテハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十八條中「事務員若干名」ヲ「會頭、副會頭各一名」ニ改ム

第十九條中「事務員」ヲ「役員」ニ、「中ヨリ」ヲ「ニ於テ」ニ改ム

第二十條中「事務員」ヲ「會頭、副會頭」ニ改ム

第二十一條中「事務員若干名」ヲ「會頭、副會頭、理事各一名及評議員五名乃至七名」ニ改ム

第二十二條中「事務員」ヲ「役員」ニ改ム

第二十三條中「事務員」ヲ「會頭、副會頭及理事」ニ改ム

第二十四條中「二」ヲ「三」ニ改メ「事務員」及「組長」ヲ各「役員」ニ改ム

第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十四條ノ二 茶業組合 聯合會議所又ハ中央會議所ニハ前數條ニ依ル役員ノ外規約ノ定ムル

所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十五條中「二週日」ヲ「七日」ニ、「一週日」ヲ「三日」ニ改ム

第二十七條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合ノ委員ニ於テ其組合員中ヨリ選舉スヘシ

中央會議ノ議員ハ聯合會議所議員、聯合會議所ナキ府縣ニ於ケル茶業組合ノ委員及農商務大臣

ノ指定スル茶業組合ノ委員ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第二十八條 削除

第二十九條 削除

第三十條 第二十七條ニ依ル指定並ニ中央會議ノ議員ノ總數及其配當ハ別ニ之ヲ告示ス

第三十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十條ノ二 地方長官ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル聯合會議特別議員ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル中央會議特別議員ヲ命スルコトアルヘシ

特別議員ハ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

特別議員ニ關スル費用ハ各其會議所ノ負擔トス

第三十一條中「議員ノ任期ハ二箇年」ヲ「議員及特別議員ノ任期ハ三箇年」ニ改ム

第三十八條中「事務員」ヲ「役員」ニ改ム

第三十九條第二號ヲ左ノ通改ム

一 製茶外國貿易ノ發展ヲ圖ル方法

同條中「事務員」ヲ「役員」ニ改ム

附 則

既設組合ハ明治四十二年九月三十日迄ニ聯合會議所ノ規約改正並ニ役員及中央會議議員ノ選舉ヲ

ナスヘシ

既設組合ハ明治四十二年十一月三十日迄ニ前項ニ依リ新ニ選舉セラレタル議員ノ會議ニ於テ中央

會議所ノ規約ヲ改正シ役員ヲ選舉シ其他必要ナル事項ヲ議決スヘシ

前項會議ノ會期ハ十日以内トス

前數項ニ依リテ選舉セラレタル役員ノ任期ハ明治四十五年三月三十一日迄、中央會議議員ノ任期

ハ明治四十六年三月三十一日迄トス

現ニ聯合會議所ノ事務員又ハ中央會議所ノ事務員又ハ議員タル者ノ任期ハ新ニ選舉セラレタル役

員又ハ議員ノ就任ノ日迄トス

〔參照〕

農商務省令第四號茶業組合規則(明治二十年十二月二十九日)抄録
 第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トヲ區別シテ組合ヲ設クルノ必要アルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設ケヘシ
 第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十四條 役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セサルトキハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ
 第二十五條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ
 但中央會議定時會ノ會期ハ二週日以内臨時會ノ會期ハ一週日以内トス若シ會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十七條 聯合會議ノ職員ハ部下各組合員若クハ組合委員之ヲ選定シ中央會議ノ職員ハ聯合會議職員之ヲ選定スヘシ
 第二十八條 中央會議ノ職員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限ル
 一 茶園一町歩以上ヲ所有シ栽培スルコト
 一 製茶五千斤以上ヲ製造スルコト
 一 製茶二万斤以上ヲ賣買スルコト
 第二十九條 前條ノ資格ニ該當スル者ナキ地方ニ於テハ其資格ニ最モ近キ者ヲ選出スヘシ
 第三十條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ職員ノ數ハ産額又ハ開港地ニ輸送額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第三十一條 職員ノ任期ハ二箇年トス補選職員ノ任期ハ前任職員ノ任期ニ依ルヘシ
 第三十九條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法

○農商務省令第十七號

明治三十二年農商務省令第七號ヲ左ノ通改メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月二十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

茶業組合規則ヲ施行スル必要ナシト認ムルトキハ其ノ府縣ニ限リ該規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ告示ヲ以テ其ノ府縣ヲ指定ス

茶業組合規則ヲ施行セサル府縣ノ茶業者之ヲ施行セル府縣ニ於テ製茶ノ販賣ヲ爲ストキハ其ノ地ノ茶業組合、聯合會議所及中央會議所ノ規約中製茶検査ノ規定並検査茶ニ對スル經費賦課徴收ノ規定ヲ遵守スヘシ

前項ノ規定ハ茶業組合規則ヲ施行セル府縣ノ茶業者カ同規則ヲ施行セル他ノ府縣ニ於テ製茶ノ販賣ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

○農商務省令第十八號

漁業組合規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ハ郡長島司又ハ市長ニ尙北海道ニ於テハ支廳長又ハ區長ニ沖繩縣ニ於テハ區長ニ之ヲ委任スルコトヲ得但シ第六條第一項、第七條第一項、第十三條第一項、第十九條第一項中第五號ヲ第六號ニ、第六號ニ第七號ニ、第七號ニ第八號ニ、第八號ニ第九號ニ改ム

〔參照〕

農商務省令第八號漁業組合規則(明治三十五年五月十七日)抄録
 第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ノ一部ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ下級行政官廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得
 第十九條 理事ハ總會ノ決議ニ依リニ非サルハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 五 組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付シ又ハ之ト入流ノ契約ヲ爲スコト
 六 組合員ヲ除名スルコト

第三十三條第一項

左ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

三 第十七條第十九條第二號乃至第六號及第五十八條ノ決議

○農商務省令第十九號
蠶業講習所蠶種配付規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十七日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第二條 蠶種ノ配付ヲ請求セントスル者ハ管轄道府縣廳ノ證明ヲ得テ毎年四月十五日迄ニ種名蠶
數及飼育ス可キ年度ヲ明記シ所轄蠶業講習所ニ出願ス可シ

第五條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記雛形ノ飼育成績表其蠶種ヨリ得タル繭一升及框製蠶種一
枚ヲ所轄蠶業講習所ニ提出ス可シ其提出期限ハ成績表及繭ニアリテハ飼育當年八月三十一日蠶
種ニアリテハ同十一月三十日限トス但シ數種類ノ配付ヲ受ケタル者ハ一種類毎ニ本文ノ手續ヲ
ナス可シ

第七條中「繭添付」ヲ「繭及蠶種」ニ改ム

〔參照〕

農商務省令第二十二號蠶業講習所蠶種配付規則(明治三十五年十一月十九日)抄録

第二條 蠶種ノ配付ヲ請求セムトスル者ハ管轄道府縣廳ノ證明ヲ得テ毎年四月十五日迄ニ種名及蠶數ヲ明記シ所轄蠶業
講習所ニ出願ス可シ

第五條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記雛形ノ飼育成績表ニ其ノ蠶種ヨリ得タル繭二升ヲ添付シ翌年八月三十一日限リ所
轄蠶業講習所ニ報告スヘシ但シ數種類ノ配付ヲ受ケタル者ハ一種類毎ニ本文ノ手續ヲナスヘシ

第七條 第一條第二號ニ該當スル者ノ出願ニ對シテハ第二條ノ證明及期日並第五條ノ繭添付ニ關スル規定ヲ適用セス

○農商務省令第二十號
國有林野產物製品質拂規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十八日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第二條第三條及第九條中「大林區署長」トアルヲ「當該官廳」ニ改ム

第一號書式中「何大林區署長官氏名宛」トアルヲ「林區署御中」ニ、第二號書式中「大林區署長」トアルヲ
「小林區署長」ニ、第三號及第四號書式中「何大林區署長官氏名宛」トアルヲ「何小林區署長官氏名宛」ニ
改ム

○遞信省令第十九號

明治三十三年九月遞信省令第四十五號郵便爲替規則第十條第一項中「及樺太ヲ樺太及韓國鬱陵島」ト
改ム

本令ハ來六月一日ヨリ施行ス

明治四十二年五月十一日

遞信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

遞信省令第四十五號郵便爲替規則(明治三十三年九月一日)抄録

第十條第一項

千島國琉球國小笠原島伊豆諸島臺灣及樺太ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有效期間ハ百二十日トス
但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此ノ限ニ在ラス

○遞信省令第二十號

明治三十九年十二月遞信省令第六十一號新聞電報規則中左ノ通改正シ明治四十二年六月一日ヨリ之
ヲ施行ス

明治四十二年五月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

第二條第一項及第二項ヲ左ノ通改ム

新聞電報料ハ左ノ如シ

一 内地 相互問

五十字以内毎ニ

金二十錢

二 内地臺灣樺太相互問

同

金四十錢

新聞電報ノ同文料ハ前項料金ノ半額トス
 第四條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ臺灣ニ往復スルモノハ大根占基隆間ニ限り通常私報ニ次ク
 第十九條 本令ハ小笠原島ト其ノ以外ノ本邦各地トノ間ニ往復スル電報ニ之ヲ適用セス

〔參照〕

遞信省令第六十一號新聞電報規則(明治三十九年十二月二十八日)抄錄
 第二條第一項及第二項
 新聞電報料金ハ五十字又ハ其ノ未滿毎ニ金二十錢トス
 其ノ同文料ハ前項ノ半額トス

第四條 新聞電報ノ傳達順序ハ通常私報ニ同シ
 第十九條 本令ハ小笠原島臺灣樺太ト其ノ以外ノ本邦各地トノ間及小笠原島臺灣樺太相互間ニ之ヲ適用セス

○遞信省令第二十一號

明治四十年^五遞信省令第二十號新聞電報料金豫納及後納規則第二十九條ニ左ノ一項ヲ加ヘ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

本令第二章ノ規定ハ内地臺灣樺太相互間ニ往復スル新聞電報ニ之ヲ適用セス

○遞信省令第二十二號

明治四十一年^八遞信省令第三十九號豫納新聞電報規則第二十五條ニ左ノ一項ヲ加ヘ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月二十日

遞信大臣 男爵後藤新平

本令ハ内地臺灣樺太相互間ニ往復スル新聞電報ニ之ヲ適用セス

○大藏省令第三十七號

明治四十二年^三大藏省令第十一號專賣官吏派出所名稱位置(一)中左ノ通改正ス
 本令ハ明治四十二年六月三日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

(イ) 仙臺專賣支局ノ欄三戸專賣官吏派出所ノ次ニ左ノ通追加ス

野蒜專賣官吏派出所	宮城縣桃生郡野蒜村
-----------	-----------

(ロ) 仙臺專賣支局ノ次ニ左ノ通追加ス

函 館	大泊專賣官吏派出所	樺太大泊
-----	-----------	------

(ハ) 高梁專賣支局ノ次ニ左ノ通追加ス

尾 道	三原專賣官吏派出所	廣島縣御調郡三原町
-----	-----------	-----------

○大藏省令第三十八號

煙草專賣法第六條ニ依リ鹿兒島專賣支局管内ノ一部ニ於ケル明治四十三年煙草耕作種類段別左ノ通之ヲ定ム

明治四十二年六月五日

大藏大臣 侯爵桂太郎

管轄支局	地 名		種 類	耕 作 段 別
	府 縣	郡 區 市 町 村		
鹿兒島專賣支局	沖繩縣	那覇區	オキナハ葉	二町歩以内
		首里區	同	六町歩以内
		島尻郡	同	十三町歩以内
		國頭郡	同	三十五町歩以内
		八重山郡	同	五十六町歩以内

○大藏省令第三十九號

神戸税關棧橋使用規則左ノ通定ム

明治四十二年六月五日

大藏大臣 侯爵桂太郎

神戸税關棧橋使用規則

- 第一條 神戸税關棧橋ニ繋留セムトスル船舶ハ登簿噸數一噸ニ付金一錢ノ割合ヲ以テ繋船料ヲ納ムヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ除棄ス
- 第二條 船舶繋留ノ時ヨリ起算シ二十四時ヲ過キ尙繋留セムトスルトキハ其ノ超過時間二十四時毎ニ第一條ノ繋船料半額ヲ納ムヘシ但シ二十四時未滿ノ端數ハ二十四時トシテ計算ス
- 前項ノ繋留時間ニハ船舶カ税關長ノ命令ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間及税關ノ休日ハ之ヲ算入セズ但シ税關ノ休日ト雖關税法第十七條ニ依リ貨物積卸ノ特許ヲ得タル場合ハ之ヲ算入ス
- 第三條 明治二十八年大藏省告示第十號橫濱税關棧橋使用規則ハ第二條第三條第八條第九條及第十三條ヲ除クノ外神戸税關棧橋ノ使用ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第四十號

明治三十一年七月大藏省令第十二號收入印紙ノ形式中左ノ通改正ス但シ從來ノ十錢乃至百圓ノ收入印紙ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

明治四十二年六月二十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

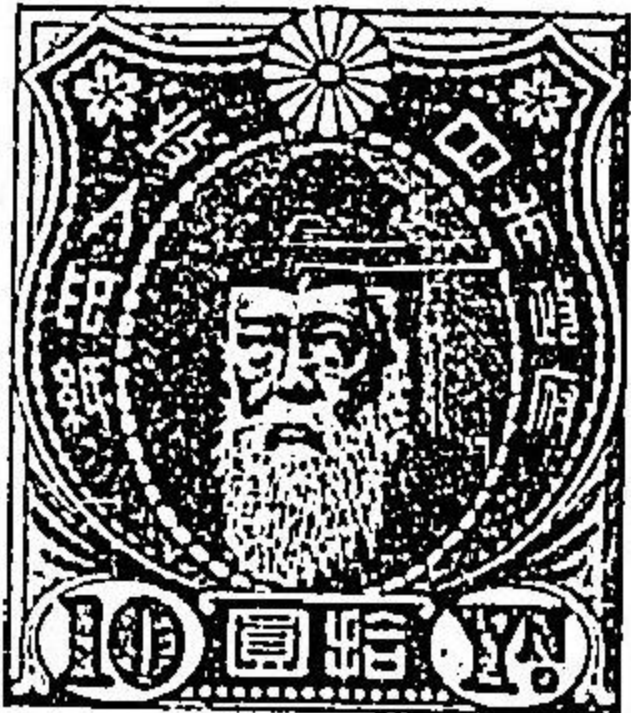
(雜形)



十 上模樣 赤色
錢 地紋 淡青色



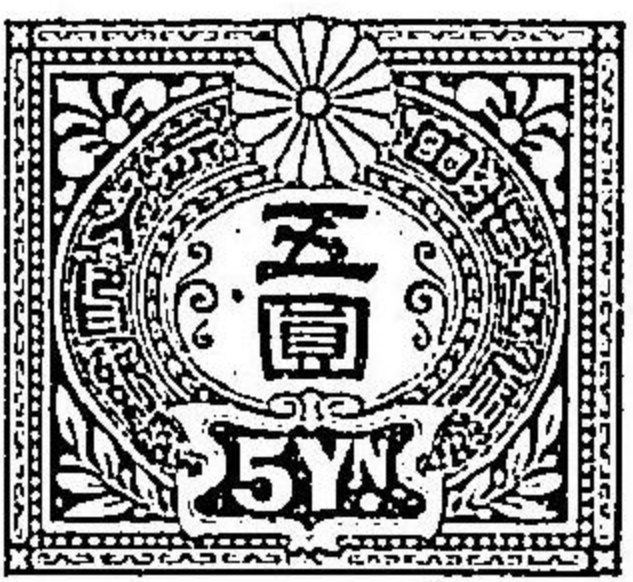
一 上模樣 赤色
圓 地紋 淡紫色



十 上模樣 赤色
圓 地紋 黃色



十五 上模樣 赤色
錢 地紋 黃色



五 上模樣 赤色
圓 地紋 淡綠色



十五 上模樣 赤色
圓 地紋 淡紫色



百 上模様 赤色
圓 地紋 淡綠色

○大藏省令第四十一號
明治四十二年大藏省令第十八號中「明治三十四年臺灣總督府令第四十號」ヲ「明治四十二年臺灣總督府令第四十五號」ニ改ム
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年六月二十三日
大藏大臣 侯爵桂太郎

〔參照〕

明治四十二年三月三日 大藏省令第十八號ハ臺灣總督府稅關ニ於テ關稅法施行規則ニ依リ納付セシムヘキ手數料進據方ナリ
○大藏省令第四十二號
明治四十二年四月大藏省令第二十七號煙草賣捌規則中左ノ通改正シ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月三十日
大藏大臣 侯爵桂太郎

- 第四條ノ二 專賣局長官煙草小賣人ヲ指定スルニ方リテハ左ノ順序ニ依ル
- 一 戰闘又ハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者
 - 二 戰闘又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

- 三 專賣局職工ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ專賣局現業員共濟組合規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者又ハ專賣局職工ノ遺族ニシテ同規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者
 - 四 專賣局職工ニシテ十年以上勤續セシ者
 - 五 引續キ三年以上煙草賣捌人タリシ者
 - 六 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ同一ノ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者
 - 七 其ノ他ノ者
- 第十六條 煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ第十條ニ依リ政府ヨリ買受ケタル價格ニ定價ノ百分ノ三ヲ加ヘタルモノヲ超ユルコトヲ得ス但シ專賣局長官カ地方ノ狀況又ハ煙草ノ種類ニ依リ已ムヲ得スト認メ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔參照〕

大藏省令第二十七號煙草賣捌規則(明治四十二年四月二十一日)抄錄
第十六條 煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ第十條ニ依リ政府ヨリ買受ケタル價格ニ定價ノ百分ノ三ヲ加ヘタルモノヲ超ユルコトヲ得ス但シ專賣局長官カ地方ノ狀況ニ依リ已ムヲ得スト認メ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○陸軍省令第十一號

營内居住下士以下歸鄉用被服貸與及返納手續中左ノ通改正ス
明治四十二年六月十八日
陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
前項ノ被服ハ歸郷後其ノ地市町村長ヲ經テ原所屬部隊獨立守備隊ニ屬スル者ニ在リテハ當ニ返納スヘキモノトス
該師充擔任師團長ノ指定シタル部隊ニ返

第十條中「大阪市」ノ下ニ「名古屋市」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第二十七號營内居住下士以下歸郷用被服貸與及返納手續(明治三十七年十月十二日)抄録

第一條 營内居住ノ下士以下現役ヲ離レ若ハ歸休ヲ命セラレ又ハ歸郷療養、召集解除、免官、免役、退學等ニ依リ歸郷ノ際普通被服ヲ所持セサルトキハ所屬部隊ニ於テ帽(第三)、衣袴、軍靴、襪、袴下、靴下申所要ノ被服ヲ貸與ス但シ免官免役及退學ノ者ニ貸與スル被服ハ徽章及記號ヲ除去スヘシ

前項ノ被服ハ歸郷後其ノ地市町村長ヲ經テ返納スヘキモノトス

第十條 本手續中市町村長トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長、市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキモノニ該當ス

○司法省令第十二號

判事檢事登用試験規則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月二日

司法大臣 子爵岡部長職

第八條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トシ尙身體検査ヲ行フ

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験及身體検査ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

身體検査ニ合格セサル者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス落第トス

第十四條中「口述試験」ノ下ニ「又ハ身體検査」ヲ加フ

第二十條中「一箇年間」ヲ「一年六箇月間」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

司法省令第三號判事檢事登用試験規則(明治二十四年五月十五日)抄録

第八條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十四條 志願者口述試験ニ兩席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第二十條 試験ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ修習日數ニ算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

○司法省令第十三號

辯護士試験規則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月二日

司法大臣 子爵岡部長職

第七條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トシ尙身體検査ヲ行フ

豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ行ハス

身體検査ニ合格セサル者ハ落第トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

司法省令第九號辯護士試験規則(明治二十六年五月十二日)抄録

第七條ノ二 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス

豫備試験ニ合格シタル者ニ非サレハ本試験ヲ行ハス

○文部省令第十五號

明治三十三年文部省令第十三號高等學校大學豫科學科課程中左ノ通改正ス

明治四十二年六月十四日

文部大臣 小松原英太郎

第三條第二項及第四項中「地質學科」ノ下ニ「礦物學科」ヲ加フ

第五條中第二部各學科每週授業時數表附記第一項中「地質學科」ノ下ニ「礦物學科」ヲ、農科大學ノ農

學科、農藝化學科ノ下ニ「林學科」ヲ加ヘ「圖畫」ヲ缺キ「圖畫」ヲ缺クニ改メ「農科大學林學科」志望者

ニハ英語ヲ缺クヲ削除ス

同附記第二項中「地質學科」ノ下ニ「礦物學科」ヲ加ヘ同項授業時數表中第三年ノ「四」ヲ「講義 四 六」ニ改ム

同附記第四項中「地質學科」ノ下ニ「礦物學科」ヲ加フ

本令ハ明治四十二年九月十一日ヨリ施行ス

〔參照〕

文部省令第十三號高等學校大學豫科學科課程(明治三十三年八月四日)抄錄

第三條 第二部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、數學、物理、化學、地質及礦物、圖畫、體操トス

前項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科、理學科、動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志望者ニハ動物及植物ヲ課シ工

科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、電氣工學科、探礦及冶金學科、工學科、造船學科、建築學科、理科大學及理

工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニハ測量ヲ課ス

外國語ハ英語ノ外獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工科大學及理工科大學ノ電氣工學科、應用化學科、製造化學科、探礦及冶金

學科並ニ農科大學志望者ハ必ス獨語ヲ選フヘキモノトス

第一項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科、理學科、動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志望者ニハ隨意科トシテ獨語ヲ課スルコトヲ得

○文部省令第十六號

韓國小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第二百四十四號小

學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

明治四十二年六月二十四日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省令第十七號

明治四十二年文部省令第十四號第一項但書ヲ左ノ通改正ス

但シ現ニ專攻部ニ在學スル生徒及明治四十六年九月迄ニ東京高等商業學校又ハ神戸高等商業學

校ノ本科ヲ卒業シ專攻部ニ入學ヲ志望スル者ニ關シテハ仍ホ從前ノ規程ニ依ル

明治四十二年六月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

〔參照〕

文部省令第十四號(明治四十二年五月六日)抄錄

第一項

東京高等商業學校專攻部ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ專攻部ニ在學スル生徒及本年本科ヲ卒業シ專攻部ニ入學ヲ志望スル者ニ限リ明治四十四年九月十日マテ仍ホ從前ノ規程ニ依ル

○農商務省令第二十一號

產牛獎勵規程中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月四日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條第三項中「規則書」ノ下「豫算書」ヲ加フ

第六條第一項中「所有」ノ下「又ハ管理」ヲ加フ

第七條中「所有者」ノ下「又ハ管理者」ヲ加フ

〔參照〕

農商務省令第十一號產牛獎勵規程(明治四十一年五月七日)抄錄

第一條 農商務大臣ハ道府縣聯合共進會ニ於テ發賣ヲ受ケタル畜牛ノ出品者ニ對シ本規程ニ依リ賞金ヲ授與ス

中央度量衡器檢定所大阪支所ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
中央度量衡器檢定所福岡支所 福岡市須崎裏町

〔参照〕

明治四十二年四月農商務省令第一號ハ中央度量衡器檢定所支所位置ナリ

○農商務省令第二十四號

鑛業法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第十一條第三項末尾ニ「但シ鑛業權設定ノ場合ニ於テハ登録稅納付書ニ代表者ヲ表示シタルトキハ之ヲ以テ代表者ノ届出ト看做ス」ヲ加フ

第二十九條ノ二 第三十六條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録稅ヲ納付スヘシ此ノ期間内ニ登録稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ在リテハ期間後ト雖更ニ登録稅ヲ納付スルコトヲ得

登録稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出願シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ第七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ登録稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
前四項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 鑛區ノ合併、分割、減區又ハ増減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ登録稅納付書ニ添附シテ差出スヘシ但シ鑛區ノ分合又ハ増減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ納付書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十七條 鑛區所在地ノ名稱、種目、境界基點又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

鑛山監督署長ハ前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖ヲ調査シ完備シタルモノト認メタルトキハ第三十六條第一項ニ準シ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

第三十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ登録稅納付書ヲ受理セス
一 第三十六條第四項又ハ第三十七條第三項ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ
二 第三十六條ノ二ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第三十九條第九號中「登録申請書」ヲ「登録稅納付書」ト改ム
第七十二條中「第二十七條ノ規定ニ依リテ命セラレタル期限内ニ登録申請ヲ爲ササル者」ヲ「第三十七條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ鑛區圖ヲ差出ササルトキ若ハ第三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者」ニ改ム

附則

本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

農商務省令第十七號鑛業法施行細則(明治三十八年六月十五日)抄録

第十一條 共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ願書ヲ差出スヘシ
共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得
前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ因リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ
出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ登録ヲ申請シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ在リテハ前項ノ期間後ト雖更ニ登録ヲ申請スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第三十七條 鑛區ノ境界又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添付スヘシ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書又ハ願書ヲ却下ス

九 第三十六條ニ規定シタル期間内ニ登録申請書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セザルトキ

第七十二條 第二十六條、第二十七條、第四十條乃至第四十三條、第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十五條、第六十一條、第六十三條、第六十七條、第七十條、第八十一條、第八十六條及第八十七條ノ規定ニ違背シタル者第二十四條ノ規定ニ基

ク指定ノ期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ説明ヲ爲ササル者第三十七條ノ規定ニ依リテ命セラレタル期限内ニ登録申請ヲ爲ササル者又ハ第六十六條、第九十條ノ規定ニ依リ扶助規則ヲ差出ササル者若ハ第八十九條ノ定規ニ依リ扶助規則ヲ改定セザル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○農商務省令第二十五號

鑛業登録令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登録番號並登録年月日ヲ記載シ登録番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第十六條 作成シ「下」餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ「下」加フ

第二十一條 第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前三項ノ規定ハ登録稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第二項中「變更及消滅」ヲ「變更消滅及鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ヲ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限」ニ改ム

第二十三條 第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鑛業登録令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登録ヲ爲スニハ前項ニ依ルノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十九條 末尾ニ「假登録ノ抹消」ノ申請アリタルトキ亦同シ「下」加フ

第三十二條 第一項中「順位番號」ノ下各登録ノ年月日ヲ加ヘ但書ヲ削除ス

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ爲ス登録又ハ申請ニ登録原因ヲ證スル書面ヲ要セザルモノノ登録ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添付スヘシ同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル

第三十二條ノ二 鑛業登録令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ完了シタルトキハ前

條第一項ニ掲ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山

監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ交付スヘシ

第二十八條 鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録用紙中表示欄ニ爲

シタル登録ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第二十九條 第一項中「移轉」ニ關スル登録ノ申請ニ付「下」移轉ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テ「下」改ム

第四十四條ノ二 鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ鑛業權ノ登録番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登録用紙中表示欄ニ鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ鑛業權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ消滅ニ係ル登録事項ヲ抹消スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權消滅ノ登録ヲ爲ストキハ前項ノ手續ヲ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第四十五條ノ二 追加抵當權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第四十五條ノ三 抵當權ノ目的タル採掘權カ追加抵當權ノ目的タル採掘權ト同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬セサルトキハ追加抵當權ノ登録ヲ爲シタル鑛山監督署ハ他ノ鑛山監督署ニ追加抵當權ノ設定ノ事由及登録年月日竝採掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條中「前條ノ場合」ヲ「數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合」ニ改ム

第四十六條ノ二 前條ノ場合ニ於テ採掘權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外鑛業登録令第二十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル採掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ三 第四十五條ノ三ノ規定ハ登録令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル抵當權ニ

關シ之ヲ準用ス

第四十七條第一項中「申請書受附」ヲ「登録」ト改メ第二項中「前條」ヲ「第四十六條」ニ改ム

附則

本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行以前ニ於テ鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依リ鑛業權ノ設定又ハ變更ヲ登録シタルモノニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ第四十四條ノ二第一項ノ規定ニ準シテ各鑛業權ノ登録用紙ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

〔參照〕

- 農商務省令第十八號鑛業登録令施行細則(明治三十八年六月二十一日)抄録
- 第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ申請書受附ノ年月日及受附番號並登録番號ヲ記載シ登録番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ
- 第十六條 第一項 鑛業原簿ノ附本ハ鑛業原簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛山監督署長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ
- 此ノ附本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス
- 第二十二條 第二項 表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ
- 第二十九條 假登録ヲ爲シタル後本登録ノ申請アリタルトキハ假登録ノ左側ノ餘白ニ其ノ登録ヲ爲スヘシ
- 第三十二條 登録ヲ完了シタルトキハ登録原因ヲ證スル書面ニ登録番號、申請書受附ノ年月日、順位番號及登録済ノ旨ヲ記載シ鑛山監督署ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録權利者ニ還付シ且登録義務者ニハ登録番號、登録ノ原因及其ノ日附、登録ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號及登録済ノ旨ヲ記載シ鑛山監督署ノ印ヲ捺捺シタル書面ヲ交付スヘシ但シ登録義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル
- 鑛業ニ關スル出願ノ許可ニ因ル登録ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ノ通知書ニ前項ニ準シタル記載ヲ爲シ鑛山監督署ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録權利者ニ交付スヘシ

第三十八條 登錄ノ申請書ニ圖面ヲ添附シタル場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條 第一項 鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ關スル登錄ノ申請ニ付登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ
第四十六條 前條ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ探掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ
第四十七條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ關スル數箇ノ探掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛山監督署長ハ關係鑛山監督署長ニ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

○農商務省令第二十六號 砂鑛法施行細則左ノ通相定ム

明治四十二年六月二十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

砂鑛法施行細則

- 第一條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ砂鑛願書ニ土地所有者ノ承諾書ヲ添附スヘシ若シ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第二條 土地所有者カ砂鑛權ノ出願ヲ承諾セサルトキハ鑛山監督署長ハ土地所有者ニ砂鑛願書ノ提出ヲ命スヘシ
- 土地所有者カ前項ノ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ砂鑛願書ヲ差出ササルトキハ砂鑛權ノ出願ヲ承諾シタルモノト看做ス
- 第三條 砂鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定ム但シ河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 直線ヲ以テ砂鑛區ノ境界ヲ定ムル場合ニ於テハ砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ様式第九號

ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲グル事項ヲ明示スヘシ

- 一 出願地ノ名稱及種目
- 二 出願地ノ面積
- 三 南北線
- 四 縮尺
- 五 二箇以上ノ不動基點並其ノ名稱及特徵
- 六 出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點並其ノ番號
- 七 境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
- 八 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスル砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ様式第十號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲グル事項ヲ明示スヘシ
- 一 出願河川ノ名稱及河川ニ沿ヘル土地ノ名稱種目
- 二 出願區域ノ總延長並幹流及支流ノ各延長
- 三 南北線
- 四 縮尺
- 五 出願區域ノ各端
- 六 各端ニ關スル不動基點並其ノ特徵及名稱
- 七 基點ト各端ノ測點トノ間ノ間數及其ノ方位
- 八 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
- 九 河床ノ全幅ヲ出願區域ト爲ササルモノニ付テハ河床中ノ境界線
- 前二項ノ圖面ニハ其ノ出願地ヲ實測シタル測量者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ但シ鑛山監督

- 署ニ於テ實測シタル圖面ニ適合スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 砂鑛法第十一條第二項ノ規定ニ依ル減區又ハ増減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ
- 第六條 砂鑛出願地ノ實測ニ因リテ手数料ノ不足ヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ追納ヲ命スルコトヲ得
- 出願人ハ前項ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ手数料ヲ納付スヘシ
- 第七條 砂鑛ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ
- 出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録稅ヲ納付スヘシ此ノ期間内ニ登録稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ在リテハ期間後ト雖モ更ニ登録稅ヲ納付スルコトヲ得
- 登録稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ鑛業法施行細則第七條ノ規定ヲ準用ス
- 前項ノ登録稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書、申請書又ハ届書ヲ受理セス
 - 一 砂鑛出願地ノ全部カ所轄鑛山監督署ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ
 - 二 出願ノ砂鑛カ砂鑛法第一條ノ規定ニ該當セサルトキ
 - 三 圖面ヲ添附スヘキ砂鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
 - 四 手数料ヲ納付セサルトキ
 - 五 鑛業法施行細則第十四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

- 六 鑛業法施行細則第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
- 七 鑛業法施行細則第二十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ新舊出願人違署セサルトキ
- 八 鑛業法施行細則第三十一條第二項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
- 九 第一條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附セサルトキ
- 十 第五條ノ規定ニ違背シ承諾書ヲ添附セサルトキ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ登録稅納付書ヲ受理セス
 - 一 第七條第四項又ハ鑛業法施行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ
 - 二 鑛業法施行細則第三十六條ノ二ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書又ハ届書ヲ却下ス
 - 一 實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ鑛業法施行細則第二十四條第一項ノ規定ニ準シテ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハサルトキ
 - 二 出願人ノ指示スル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ
 - 三 鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
 - 四 鑛業法施行細則第十六條ノ規定ヲ準用スル場合ニ期限内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ

- 五 鑛業法施行細則第十七條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ差出ササルトキ
- 六 鑛業法施行細則第二十二條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ
- 七 鑛業法施行細則第二十三條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ原圖野帳若ハ其ノ寫又ハ測量ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ差出ササルトキ
- 八 鑛業法施行細則第二十四條ノ規定ニ準シテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
- 九 第六條ニ規定シタル期限内ニ手数料ヲ納付セサルトキ
- 十 第七條ニ規定シタル期限内ニ登録稅納付書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
- 十一 砂鑛權者其ノ砂鑛區内ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 十二 鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ砂鑛權者ニ砂鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトヲ得
- 十三 砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業事務所ニ備置クヘシ
- 十四 砂鑛權者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量其ノ販賣高販賣代價行業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ
- 砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ
- 前二項ノ規定ニ依リテ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
- 十五 二箇以上ノ砂鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ砂鑛業明細表ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

- 十六 砂鑛法第五條第二項ノ規定ニ依ル裁決申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル鑛床ノ關係圖及鑛業權者又ハ砂鑛權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得
- 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
- 二 鑛業權者又ハ砂鑛權者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 三 砂鑛權及鑛業權ノ登録番號
- 四 申請ノ目的及理由
- 鑛山監督署長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ交付スヘシ
- 鑛業權者又ハ砂鑛權者ハ申請書ヲ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ
- 鑛業權者又ハ砂鑛權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ鑛山監督署長ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得申請書ヲ交付スルコト能ハサルトキ亦同シ
- 申請人鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期間内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス
- 裁決書ニハ理由ヲ附シテ鑛山監督署長之ヲ當事者雙方ニ交付スヘシ
- 十七 砂鑛法第五條第三項ノ規定ニ依ル訴願ニハ鑛山監督署長ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ
- 前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 十八 砂鑛法第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ第十六條ノ規定ヲ準用ス
- 十九 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ準シテ爲ス處分又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十條ノ規定ニ依ル却下ニ付テハ鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス
- 二十 第十一條第十三條第十四條ノ規定ニ違背シタル者鑛業法施行細則第二十六條第四十

條第四十一條、第四十三條、第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ砂鑛區圖ヲ差出ササルトキ又ハ第三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者、第十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ設計書ヲ差出ササル者又ハ鑛業警察規則第六條、第九條、第三十二條、第四十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 鑛業法施行細則第一條乃至第八條、第十一條乃至第十四條、第十六條、第十七條、第二十一條乃至第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條、第三十四條、第三十六條ノ二、第三十七條、第四十條、第四十一條、第四十三條、第五十四條、第五十七條乃至第六十三條、第六十八條乃至第七十條、第七十三條鑛業警察規則第六條、第九條、第三十二條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第二十二條 本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 本則施行前砂鑛採取法施行細則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十四條 本則施行前ニ二人以上共同シテ砂鑛採取ノ出願ヲ爲シタルトキ又ハ本則施行前ヨリ二人以上共同シテ砂鑛採取業ヲ爲ストキハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ連署シタル代表者選定ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十五條 砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛採取地ノ合併、分割、減區又ハ増減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ合併、分割又ハ減少前

ノ砂鑛權ニ付登録上利害關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ差出スヘシ

前項ノ期限内ニ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ差出ササルトキハ出願ハ之ヲ却下ス

第二十六條 本則施行前砂鑛採取ノ許可ヲ得タル者ニ付鑛業法施行細則第四十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ該條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 砂鑛法第二十六條ノ規定ニ依ル届書ニハ鑛業願書ヲ發送シタル年月日、出願人ノ氏名又ハ名稱及住所、出願地ノ名稱及届出ノ目的ヲ記載シテ届出人ノ署名捺印スヘシ

前項ノ届書ハ本法施行後六十日以内ニ差出ササルトキハ之ヲ受理セス

鑛業法施行細則第十四條ノ規定ハ第一項ノ届書ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 砂鑛法第二十七條ノ規定ニ依ル砂鑛權設定ノ登録申請ハ本法施行後九十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 鑛業法施行細則第八十一條及鑛業警察規則第四十一條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

様式第一號(正副二通)

砂(金、鐵、錫)採取願

何府縣郡市町村大字何(何川筋)
而積何坪(延長何里)
右箇所ニ於テ砂(金、鐵、錫)存在候ニ付採取致度候間許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

住所

農商務大臣氏名殿

出願人 氏名(名稱)印

様式第一號(正副二通)

砂鑛出願地増減區(増區、減區)願

何年何月何日出願

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)

増區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

減區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

合計(又ハ差引)何坪(延長何里)

右砂鑛出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所

出願人 氏名(名稱) 印

注意(一) 圖面五葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
(二) 共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

様式第二號(正副二通)

砂鑛區増減區(増區、減區)願

何府縣砂鑛權登錄第何號

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)

増區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

減區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

合計(又ハ差引)何坪(延長何里)

右砂鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所

砂鑛權者 氏名(名稱) 印

注意事項(様式第二號ニ同シ)

様式第四號(正副二通)

砂鑛區改正願

何府縣砂鑛權登錄第何號

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)

増區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

減區 何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

合計(又ハ差引)何坪(延長何里)

右砂鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所

砂鑛權者 氏名(名稱) 印

注意 圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

様式第五號(正副二通)

砂鑛區合併願

一何府縣砂鑛權登錄第何號

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)

一何府縣砂鑛權登錄第何號

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)

合計何坪(延長何里)

右砂鑛區合併許可相成度圖面並合併理由書相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所
砂鑛權者 氏名(名稱) 印

注意

- 一 圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
- 二 抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
- 三 以上ノ抵當權ノ登録アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
- 四 代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

様式第六號(正副二通) 砂鑛區分割願

何府縣砂鑛權登錄第何號

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)

此ノ分割

何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

何府縣郡市町村大字何(何川筋)

面積何坪(延長何里)

右砂鑛區分割許可相成度圖面并分割理由書相添此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所
砂鑛權者 氏名(名稱) 印

注意

- 一 圖面ハ分割區域毎ニ各四葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ
- 二 其ノ他ノ注意事項ハ様式第五號中二、三、四號ニ同シ

様式第七號(正副二通) 砂鑛出願人相續屆

何年何月何日出願

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)
右採取出願人何某死亡(其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續致候間戶籍謄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段屆出候也

年月日

何鐵山監督署長氏名殿

住所
相續人 氏名 名印

様式第八號(正副二通) 砂鑛出願人變更屆

何年何月何日出願

何府縣郡市町村(何川筋)砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)
右採取出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也

年月日

農商務大臣氏名殿

住所
舊出願人 氏名(名稱) 印
新出願人 氏名(名稱) 印

注意

- 一 新出願人二人以上ナル場合ニハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ願書ヲ差出ス
- 二 舊出願人代表者ニテ願書ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得
- 三 舊出願人代表者ニテ届出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

様式第九號(五通) 砂(金、鐵、錫)鑛區圖

縮尺 何分ノ一

明治 年 月 日出願

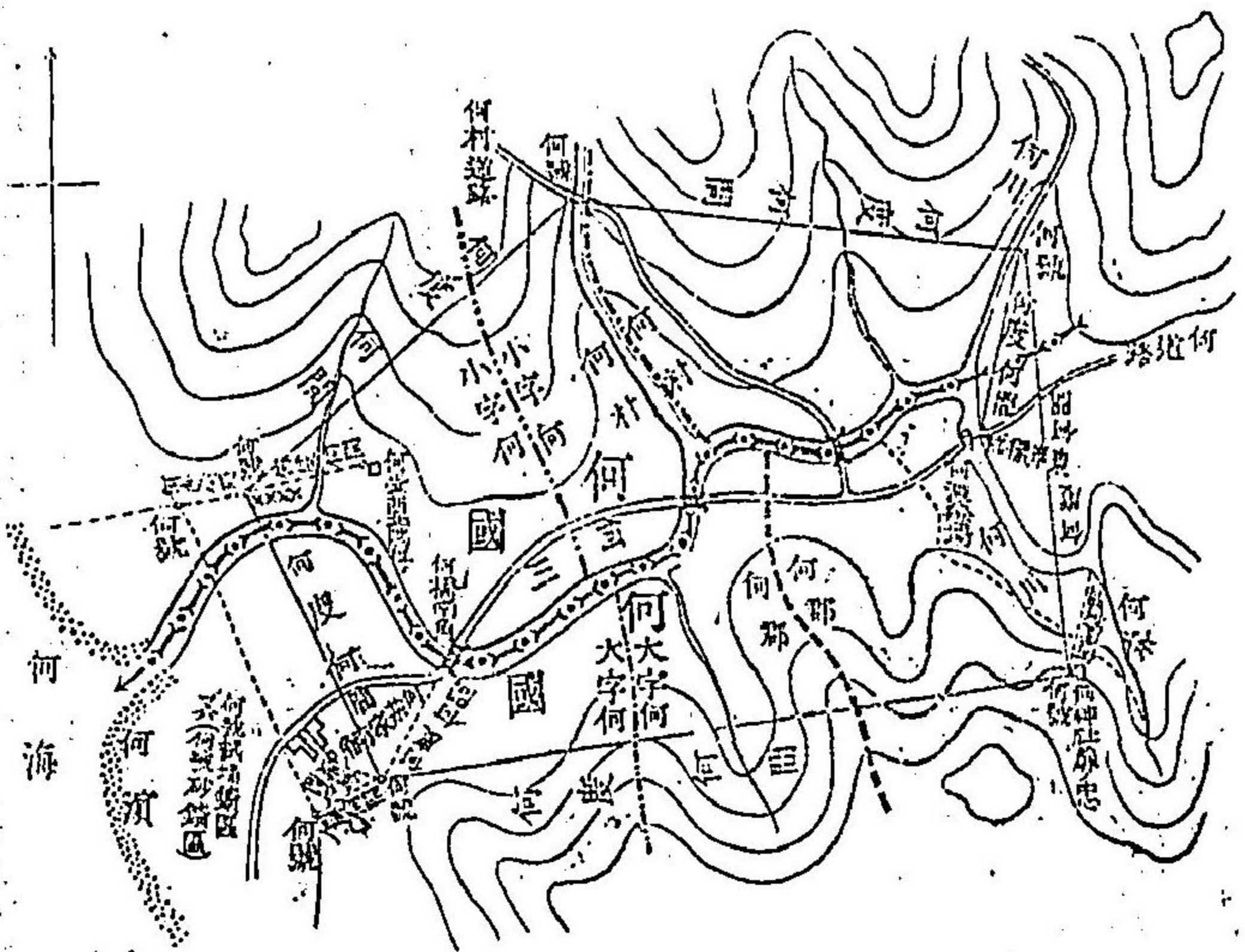
住所 氏名 名印

住所 氏名 名印

住所 測量者 氏名 名印

何坪

川	山	神	堤	家	道	渡	橋	官	小	大	村	郡	國	境	砂	符
(淡藍)	(褐色)	社	防	屋	路	場	梁	民	字	字	界	界	界	界	界	號
								地	界	界	界	界	界	界	區	



注意

- 一 圖面用紙ハ變水引美濃紙ヲ用ユヘシ
- 二 基點ハ不動物體又ハ特稱アル橋梁家辻、川股、標石其ノ他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
- 三 鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス
- 四 縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ユヘシ

様式第十號(五通)

何砂(金)錫(鐵)鑛區圖 縮尺 何分ノ一

明治 年 月 日出願

住所族籍

氏 名印

住所

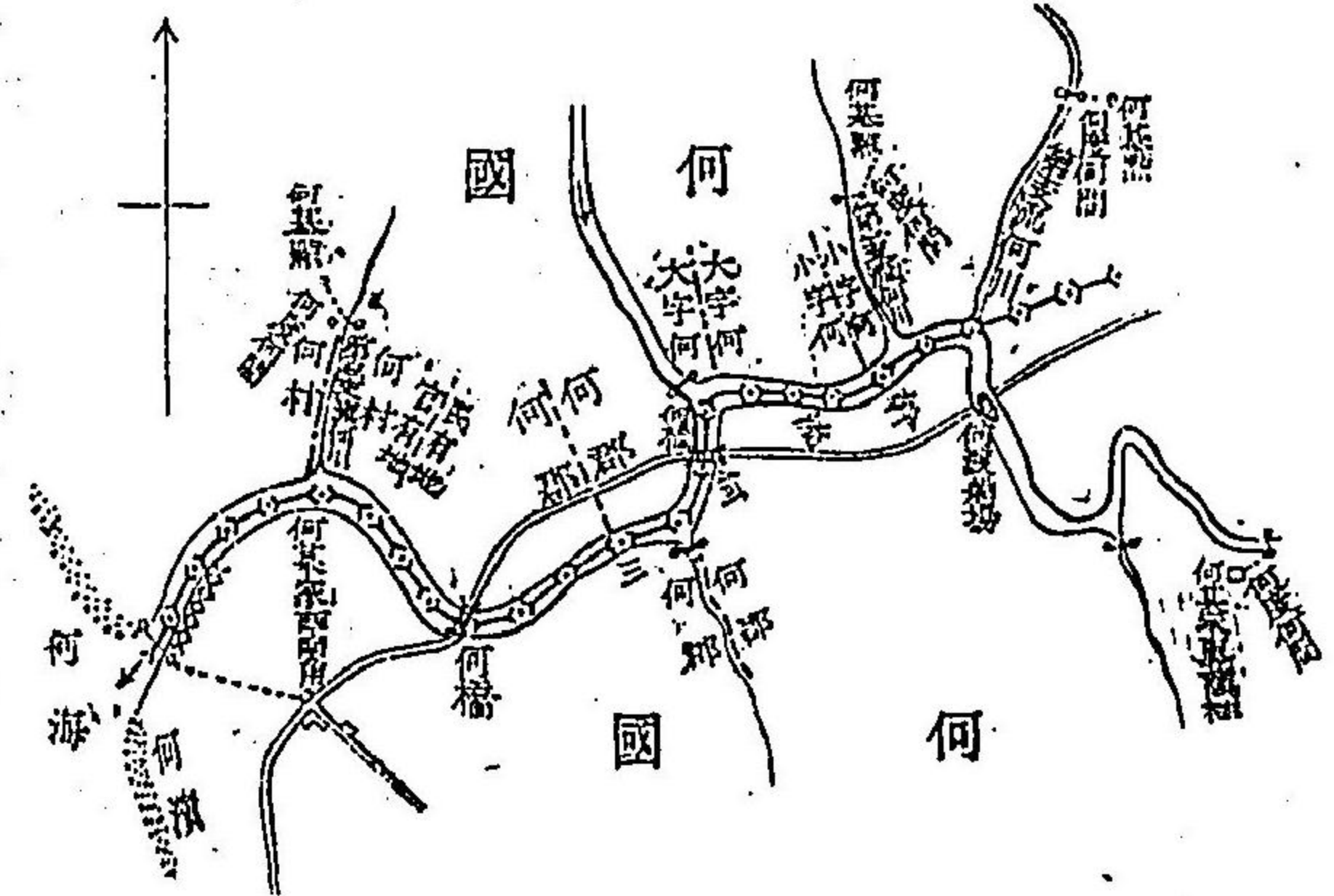
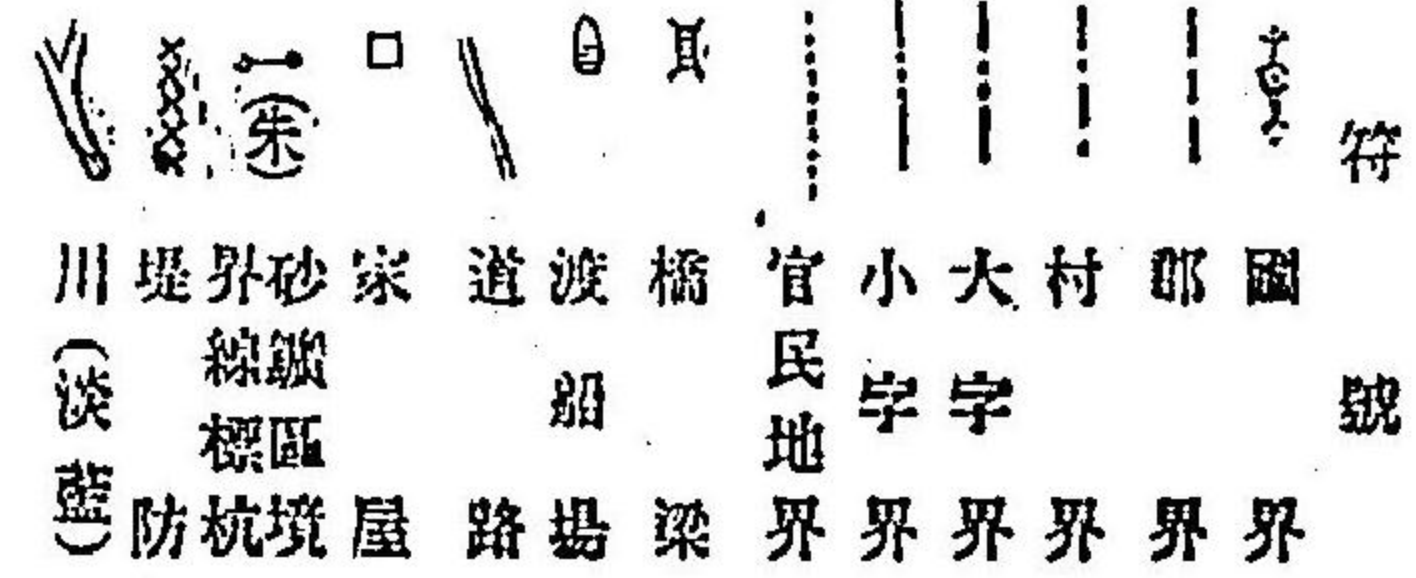
氏 名印

測量者

氏

何縣何國何郡何町何市 大字何
 何縣何國何郡何町何市 何河筋
 何縣何國何郡何町何市 大字何

延長何里何町何間
 內幹流何河何里何町何間
 第一支流何川何里何町何間
 第二支流何川何里何町何間
 第三支流何川何里何町何間



注意

一 圖面用紙ハ膠水引美濾紙ヲ用ユヘシ

- 二 基點ハ幹流ノ上流下流及各支流ノ上流ニ各一箇所ツ、假ケ特稱アル橋梁家注、川股、標石其ノ他近傍ニアル顯著ニシテ移動セサルモノヲ擇フヘシ
 - 三 鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス
 - 四 縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一、又ハ六千分ノ一ヲ用ユヘシ
 - 五 支流ノ番號ハ出願ニ係ルモノノミヲ掲クヘシ
 - 六 圖面ニ肩書スル府縣郡市町村大字小字ハ砂鑛區ノ兩岸ニ接スル分ヲ記載スヘシ
- 様式第十一號

明治 年砂鑛業明細表

事 記	部ノ鍊製		部ノ取採		種 類	位 置	府 縣	郡 村 大字 (又ハ何川筋)	砂 鑛 權 者 (又ハ代表者)	住 所	某 印	
	工 數	種 別	工 數	種 別								越 高
		越 高		越 高								
		製 出 高										
		平 均 品 位										
		工 業 日 數										
		現 在 使 役 人 員										
		月 末 日										
		現 在 使 役 人 員										
		月 末 日										
		現 在 使 役 人 員										
		月 末 日										

注意

- 一 種別ノ欄ニハ採取ノ部ニ於テハ砂鑛ノ種類、製鍊ノ部ニ於テハ製品ノ種類(例ヘハ金、錫、銻、鐵、銅、鐵等ノ如シ)ヲ記載スヘシ
- 二 採取ノ部砂金ハ勿論、他ハ貫ヲ單位トシ製鍊ノ部金ハ匁、錫ハ斤、鐵ハ貫ヲ單位トス
- 三 使役人員ハ十二月末日現在數、土地ノ狀況ニ依リ冬季節事業ヲ休止スルモノニ在リテハ六月末日現在數ヲ記入スヘシ

○農商務省令第二十七號

砂鑛業ノ登録ニ關スル細則左ノ通相定ム

明治四十二年六月二十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

砂鑛業ノ登録ニ關スル細則

- 第一條 砂鑛原簿ハ第一號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 砂鑛業共同人名簿ハ第二號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第三條 登録番號欄ニハ各砂鑛區ニ付砂鑛原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ
- 表示欄ニハ砂鑛權ノ表示ヲ爲シ、並其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ、表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ
- 甲區事項欄ニハ砂鑛權ノ設定、移轉、處分ノ制限ニ關スル事項ヲ乙區事項欄ニハ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ、順位番號欄ニハ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第四條 鑛業登録令施行細則第二條、第三條、第五條、第六條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條

乃至第四十四條、第四十五條乃至第五十條ノ規定ハ、砂鑛業ニ關スル登録ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附則

第五條 本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 鑛業登録令第六十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ舊砂鑛原簿ヨリ登録ヲ移シタルトキ

ハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ舊砂鑛原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ、擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊砂鑛原簿ニ砂鑛原簿第何册第何丁ニ移シタル旨其ノ登録番號及年月日ヲ記載シ、擔當職員捺印スヘシ

様式第一號

何府縣(國、郡)

砂鑛原簿 第何册

何鑛山監督署

紙數表紙ヲ除キ 枚

年月日

何鑛山監督署長 何 某印

<p>甲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> </table>		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄	<p>部 題 表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">表示欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">表示欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">表示欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">表示欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">表示欄</td></tr> </table>		表示欄		表示欄		表示欄		表示欄		表示欄
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	表示欄																				
	表示欄																				
	表示欄																				
	表示欄																				
	表示欄																				
砂鑛原簿																					
<p>乙</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> </table>		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄	<p>區</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">事項欄</td></tr> </table>		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄		事項欄
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
	事項欄																				
砂鑛原簿																					

様式第二號

<p>何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡) 何府縣(國、郡)</p> <p>砂鑛業共同人名簿 第何冊</p> <p style="text-align: right;">何嶺山監督署</p>	<p>紙數表紙ヲ除キ 枚</p> <p>年 月 日</p> <p style="text-align: right;">何嶺山監督署長 何 某印</p>
--	--

<p>番號 代表者欄</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> </table> <p>備考</p>		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄	<p>砂鑛業共同人名簿</p> <p>番號 代表者欄</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> <tr><td style="height: 20px;"></td><td style="text-align: center;">共同人名欄</td></tr> </table> <p>備考</p>		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄		共同人名欄
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				
	共同人名欄																				

○農商務省令第二十八號

度量衡法施行細則左ノ通告正ス

明治四十二年六月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

度量衡法施行細則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ製作者ト稱スルハ度量衡器ノ製作ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ修覆者ト稱スルハ度量衡器ノ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ販賣者ト稱スルハ度量衡器ノ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

第二條 農商務大臣ニ出願又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ營業所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ其工場所在地カ營業所所在地ノ地方長官ノ管轄ニ屬セサル場合ニ於テハ尙工場所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 地方長官出願ニ付處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テ工場ノ所在地カ其ノ管轄ニ屬セサルトキハ其ノ工場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ協議スヘシ

第二章 免許

第四條 度量衡器ノ製作又ハ修覆ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ工場ノ圖面ヲ添附シテ差出スヘシ

一 營業所及工場ノ位置

二 製作又ハ修覆セムトスル度量衡器ノ種類

三 製作又ハ修覆ノ用ニ供スル重ナル機械ノ名稱及員數

度量衡器ノ販賣ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ營業所ノ位置ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

前二項ノ願書ニハ度量衡法施行令第三條第一項及第二項ニ關スル證明書及法人ニ在リテハ定款

ヲ添附スヘシ

第五條 行政官廳ニ於テ度量衡器ノ製作又ハ修覆ノ免許ヲ與ヘムトスルトキハ身元保證金ノ供託通告書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人供託通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ日附ヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ供託スヘシ

出願人前項ノ期間内ニ身元保證金ヲ供託セサルトキハ行政官廳ハ其ノ出願ヲ無効トス

第六條 出願人身元保證金ヲ供託シタルトキハ其ノ受領證ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ受領證ヲ受取リタルトキハ受取證ヲ出願人ニ交付シ其ノ受領證ヲ保管スヘシ

地方長官度量衡器ノ製作ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ對シ前項ノ受取證ヲ交付シタルトキ又ハ前

條第二項ノ期間内ニ身元保證金ヲ供託セサル者アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 度量衡法施行令第四條第二項ニ依リ身元保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 地方債券

二 政府ニ於テ特ニ官吏ヲ置キ監視ヲ爲サシムル株式會社ノ株券又ハ債券
前項ノ有價證券ノ代用價格ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 身元保證金ノ供託アリタルトキハ行政官廳ハ免許狀ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條 身元保證金ニ不足ヲ生シタルトキハ地方長官ハ填補通告書ヲ供託者ニ送付スヘシ

供託者填補通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ日附ヨリ二十日以内ニ其ノ不足額ヲ供託スヘシ

第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 製作者又ハ修覆者ニシテ營業所若ハ工場ノ位置ヲ變更シ又ハ工場ヲ新設シ販賣者ニシテ營業所ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

工場ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第十一條 製作者、修覆者又ハ販賣者ノ相續人ニシテ度量衡法施行令第三條第一項ニ該當セサル者ハ被相續人ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

前項ニ依リ營業ヲ承繼シタル者ハ願書ニ免許狀、相續人タルコトヲ證明スヘキ戸籍謄本及度量衡法施行令第三條第一項及第二項ニ關スル證明書ヲ添へ相續ノ日ヨリ六十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ出願スヘシ

第十二條 製作者、修覆者又ハ販賣者ノ相續人被相續人ノ營業ヲ承繼セス若ハ承繼スルコトヲ得サルトキハ六十日以内ニ其旨ヲ行政官廳ニ届出テ免許狀ヲ返納スヘシ但シ隱居ニ因ル相續ノ場合ニ於テ被相續人カ其ノ營業ヲ留保シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 免許狀ヲ汚損又ハ亡失シタルトキハ遲滞ナク其ノ再下付ヲ行政官廳ニ出願スヘシ氏名又ハ名稱ニ變更アリタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添へ遲滞ナク免許狀ノ更正ヲ行政官廳ニ出願スヘシ

第十四條 製作者、修覆者又ハ販賣者ノ法定代理人ニ變更アリタルトキハ新法定代理人ヨリ之ヲ證スル書面及度量衡法施行令第三條第二項ニ關スル證明書ヲ添へ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

法定代理人其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添へ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

第十五條 製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ營業ヲ廢止シ又ハ營業免許ノ消滅シタルトキハ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出テ免許狀ヲ返納スヘシ

第十六條 製作者又ハ販賣者其營業ヲ廢止シ又ハ營業免許カ消滅シ若ハ第十二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ營業上所持シタル度量衡器ノ殘存スルモノアルトキハ其ノ處分ノ方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 製作者、修覆者及販賣者ハ其ノ製作、輸入、移入又ハ修覆シタル度量衡器ナルコトヲ表示スル爲營業所所在地ノ地方名ヲ附記シタル記號ヲ定メ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ同ニ若ハ類似ノ記號ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 製作者又ハ修覆者ハ其ノ工場外ニ於テ度量衡器ノ製作又ハ修覆ヲ爲スコトヲ得ス但シ土地又ハ建物等ニ取付ケテ使用スルモノ其ノ他特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス前項但書ニ依リ工場外ニ於テ製作又ハ修覆ヲ爲サムトスルトキハ其ノ製作又ハ修覆ヲ爲ス場所ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 製作者又ハ販賣者ハ其ノ營業所外ニ於テ度量衡器ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ス但シ博覽會、共進會又ハ其ノ賣店ニ於テ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ營業所外ニ於テ販賣セムトスルトキハ其ノ販賣ヲ爲ス場所ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 製作者、修覆者又ハ販賣者度量衡法施行令第九條但書ニ依リ許可ヲ受ケタル度量衡器ヲ輸出、移出又ハ販賣セムトスルトキハ其ノ度量衡器ノ種類、物質、箇數、讓受人ノ住所氏名若ハ仕向地及荷受人ノ住所氏名輸出若ハ移出ヲ爲ス場所及其ノ年月日ヲ記載シ之ニ許可書ノ謄本ヲ添へ營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官及輸出若ハ移出ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十一條 販賣者度量衡法施行令第六條第二項ニ依リ修覆ノ業ヲ營マムトスルトキハ其ノ旨ヲ

地方長官ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ修覆ノ業ヲ營ム者ハ秤架竝一厘乃至五貫及「センチグラム」乃至五百「グラム」ノ各種ノ分銅ヲ備付クヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ「センチグラム」乃至五百「グラム」ノ分銅ハ之ヲ備付ケサルコトヲ得

第二十二條 地方長官ハ隨時前條第二項ニ依リ販賣者ノ備付ケタル分銅ヲ検査シ其ノ器差度量衡法施行令第三表ノ公差ノ二分ノ一ヲ超エタルモノニ付テハ其使用ヲ停止シ又ハ修覆ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 製作者、修覆者又ハ販賣者秤秤ノ取緒、皿紐、鉤紐又ハ錘絲ニシテ金屬ニ係ラサルモノノミノ修覆ノ依頼ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ桿秤カ第四十九條ノ構造ニ適合セズ又ハ其ノ器差度量衡法施行令第十六條ニ規定スル公差ヲ超ユルモノナルトキハ其ノ修覆ヲ爲スコトヲ得ス
前項ニ依リ修覆ヲ爲ササリシ桿秤ニ付テハ其ノ修覆ヲ依頼シタル者ノ住所氏名、其ノ桿秤ノ秤量、箇數、修覆ヲ爲ササリシ事由及依頼者ニ還付シタル年月日ヲ記載シ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三章 構造

第二十四條 度量衡法施行令第十條ノ度量衡器ノ構造ハ本章ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 度量衡器又ハ秤ノ目盛ハ度又ハ量ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍又ハ其ノ倍數ノ二分ノ一、十分ノ一、百分ノ一若ハ千分ノ一ト爲スヘシ但シ縮尺ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

秤ノ目盛ハ衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍又ハ其ノ倍數ノ十分ノ一、十倍若ハ百倍ト爲スヘシ但シ斤ノ名稱ニ依ルモノニ付テハ其ノ四分ノ一、八分ノ一又ハ十六分ノ一ト爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ之ヲ「ヤード、ポンド」法度量衡器ニ適用セス

第二十六條 度量衡器ニハ損傷ナク且損傷及伸縮シ難キ材料ヲ用ウヘシ

第二十七條 度量衡器ニ爲ス目盛及表記ハ容易ニ消滅セサル方法ニ依リ明瞭ニ之ヲ附スヘシ

第二十八條 第三十七條ニ依リ檢定證印ヲ附スヘキ度量衡器ノ部分ハ附印ニ妨ナキ構造ト爲シ若シ其ノ部分カ附印シ難キ物質ナルトキハ其ノ部分ニ容易ニ離脱セサル方法ニ依リ眞鍮片ヲ緊著スヘシ

第二十九條 度量衡器ニ表記スヘキ度量衡ノ名稱ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ略字ヲ用ウルコトヲ得

「メートル」法度量衡

名 稱

略 字

「ミリメートル」

「ミ」

「センチメートル」

「セ」

「デシメートル」

「デ」

「メートル」

「メ」

「キロメートル」

「キ」

十分ノ一「センチリットル」

「CC」

「センチリットル」

「CL」

「デシリットル」

「DL」

「リットル」

「L」

衡		度		名		略字	
「ミリグラム」	「センチグラム」	「インチ」	「フット」	「ヤード」	「チェーン」	「マイル」	「ゲレーン」
「デシグラム」	「グラム」	「オンス」	「ポンド」	「ヤード、ポンド」	「法度量衡」		
「キログラム」							
「應又ハ」	「應又ハ」	「吋又ハ」	「呎又ハ」	「碼又ハ」	「鎖」	「哩	「噸
CGM	DG	in	ft	yd		oz gr	lb
KG	G						

第三十條 製作者、修覆者又ハ販賣者其ノ製作輸入、移入又ハ修覆シタル度量衡器ニハ第十七條ニ依リ届出テタル記號ヲ表記スヘシ但シ板狀分銅及修覆シタル錘若ハ増錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ依リ記號ヲ表記スル場合ニ於テ其ノ輸入又ハ移入シタルモノニハゆノ文字ヲ記號ニ附記ス

第三十一條 度量衡器ノ構造ハ前六條ノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

スヘシ

一 度量器ノ材料ハ曲リ尺ニ在リテハ彈性アル木又ハ金屬直尺、縮尺及盤尺ニ在リテハ玻璃、象牙、骨、セルロイド又ハ彈性アル竹、木若ハ金屬卷尺ニ在リテハ鋼鐵、麻又ハ竹、鏈尺ニ在リテハ鋼鐵ヲ用ウヘシ但シ「セルロイド」ハ竹又ハ木ニ緊著スル場合ニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得

二 木製又ハ竹製ノ度量器ノ厚ハ其ノ最モ厚キ部分ニ於テ盤尺、卷尺及縮尺ニ在リテハ五厘以上其ノ他ノモノニ在リテハ全長一尺以上、三「デシメートル」以上、縮尺一尺以上又ハ「フット」以上ノモノハ七厘以上全長二尺以上、六「デシメートル」以上、縮尺二尺以上又ハ「フット」以上ノモノハ一分二厘以上ト爲スヘシ

三 徑ヲ度ルニ用ウル直尺ノ本枝、副枝及曲リ尺ノ角度ハ之ヲ直角形ト爲スヘシ

四 麻製卷尺ハ其ノ全長十八尺、五「メートル」、縮尺十八尺又ハ十八「フット」ヲ超ユタルモノニ在リテハ十八尺又ハ五「メートル」、縮尺十八尺又ハ十八「フット」ニ付五百匁ノ重量ヲ以テ張力ヲ加フルモ三分五厘以上ノ伸張ヲ生セサル構造ト爲スヘシ

五 分離シ得サル構造ノ盤尺ノ連接部ハ容易ニ緩ミ難キ構造ト爲スヘシ

六 鏈尺及線狀ノ卷尺ノ目盛又ハ目盛ノ標識ハ離脱セサル方法ニ依リ金屬片ヲ附著シテ之ヲ爲スヘシ

七 縮尺ニハ其ノ目盛ノ表示スル値ヲ其ノ目盛ニ縮尺以外ノ度量器ニハ其ノ全長ヲ其ノ目盛ノ各段ノ一端ニ表記スヘシ但シ各段ノ目盛ノ表示スル値カ同一ナルトキ又ハ其ノ全長カ同一ナルトキハ之ヲ其ノ中央部一箇所ニ表記スヘシ

八 分離シ得ヘキ構造ノ度量器ニハ番號ヲ附スヘシ其ノ番號ハ各部分同一ナルコトヲ要ス

量器

枡及斗概

- 一 枡ノ材料ニハ金屬、陶器、磁器、玻璃、檜、榧、羅漢柏又ハ姫子松ヲ用ウヘシ但シ全量五勺未満又ハ「デシリットル」未滿ノモノニ在リテハ木材木製液用枡ニシテ漆塗リニ非サルモノニ在リテハ榧、羅漢柏、姫子松又ハ板目ノ板ヲ用ウルコトヲ得ス
- 二 斗概ノ材料ニハ櫨又ハ櫨ノ如キ堅キ木材ヲ用ウヘシ
- 三 木製液用枡ノ材料ハ液類ノ浸透シ難キモノヲ用ウヘシ
- 四 玻璃製枡ノ材料ニハ溫度ノ變化ニ依リ容易ニ破損シ難キモノ及明瞭ニ水際ヲ視定シ得ルモノヲ用ウヘシ
- 五 木製枡ノ材料ノ厚ハ全量二升以上又ハ五「リットル」以上ノモノニ在リテハ五分以上(雜用枡ヲ除ク)全量一升以下又ハ二「リットル」以下ノモノニ在リテハ二分五厘以上全量一合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノモノニ在リテハ二分以上ト爲スヘシ
- 六 木製方形枡ニハ斜合セサル板ヲ用ウヘシ
- 七 木製枡ノ木材ハ同種ノモノヲ用ウヘシ但シ穀用又ハ雜用ノモノノ底板ハ此ノ限ニ在ラス
- 八 五合以上又ハ一「リットル」以上ノ金屬製枡ノ厚ハ三厘以上ト爲スヘシ但シ材料ヲ二重ト爲ス場合ニ在リテハ各其ノ厚一厘五毛以上ノモノヲ用ウルコトヲ得
- 九 枡ノ形狀ハ圓錐形ト爲スヘシ但シ陶器、磁器又ハ玻璃製ノモノニ在リテハ圓錐形、全量一升以下ノ木製ノモノニ在リテハ方形ト爲スコトヲ得
- 十 玻璃製以外ノ圓錐形枡ノ全量ヲ示ス位置ニ於ケル徑及深ハ之ヲ同一ト爲スヘシ但シ徑ノ寸法ハ一分以下又ハ二「ミリメートル」以下ヲ増減シ及全量一升以下又ハ二「リットル」以下ノ金屬製枡ノ徑ハ深ノ二分ノ一全量一合五勺以下又ハ五「デシリットル」以下ノ金屬製枡、陶器枡

及磁器枡ノ徑ハ深ノ二倍ト爲スコトヲ得

- 十一 目盛ナキ玻璃製ノ圓錐形枡ノ徑及深ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用ス
- 十二 目盛アル玻璃製枡、目盛ナキ玻璃製ノ圓錐形枡、陶器若ハ磁器ノ圓錐形枡ノ徑ハ全量ヲ表示スル目盛ノ位置ニ於テ其ノ深ヨリ大ニスルコトヲ得ス
- 十三 方形枡ノ方ノ寸法ハ左ノ定限ニ依ルヘシ但シ其ノ寸法ハ五厘以下ノ増減ヲ爲スコトヲ得

種類	方ノ寸法
五勺	一寸六分
一合	二寸一分
二合	二寸八分七厘
- 十四 斗槩ノ寸法ハ左ノ定限ニ依ルヘシ

種類	小		中		大	
	長	徑又ハ厚	長	徑又ハ厚	長	徑又ハ厚
圓錐狀	三寸乃至七分乃至	六寸乃至一寸一分	八寸乃至一寸一分	一尺二寸乃至一寸九分	一尺二寸乃至一寸九分	一尺二寸乃至一寸九分
板狀	三寸乃至二分乃至	六寸乃至六寸四分乃至	八寸乃至八寸五分	一尺二寸乃至一尺二寸七分	一尺二寸乃至一尺二寸七分	一尺二寸乃至一尺二寸七分

- 十五 枡ノ口縁側面及底部ハ容易ニ變形セサル構造ト爲シ其ノ口縁ヲ以テ全量ト爲スモノニ在リテハ其ノ口縁ハ之ヲ平滑ト爲スヘシ
- 十六 銅製又ハ銅ノ合金製ノ枡及鐵製枡ハ其ノ内面ニ錫、ニッケル、アルミニウム又ハ珪瑯ヲ鍍著スヘシ
- 十七 木製穀類用枡ハ其ノ全量ヲ一斗以下又ハ二「リットル」以下ト爲スヘシ
- 十八 全量五升以上又ハ十「リットル」以上ノ木製圓錐形枡ノ側板又ハ底板ヲ繼合ハストキハ合

釘ヲ用ウヘシ

十九 木製圓形穀類用枡ノ口縁ヨリ外側ノ上部ニハ容易ニ離脱セサル方法ニ依リ繼目ナキ鐵板ヲ被ヒ其ノ底板ヲ嵌メ込ミタル位置ニ於ケル外側ニハ鐵帶ヲ緊束シ側板ヲ通シテ底板ニ之ヲ釘著シ全量五升以上又ハ十リットル以上ノモノニ在リテハ尙其ノ底ノ外面ニハ繼目ナキ二箇ノ鐵帶ヲ交又セシメ其ノ各鐵帶ノ兩端ハ外側ヲ通シテ其上部ニ於ケル鐵板ノ下ニ挿入シテ之ヲ緊著シ又ハ之ト同等以上ノ耐力ヲ保チ得ヘキ方法ニ依リ底部ヲ堅牢ナル構造ト爲スヘシ

二十 木製方形穀類用枡ノ口縁ハ鐵板ヲ以テ之ヲ被ヒ其ノ鐵板ノ一端ハ之ヲ四隅ノ外側ニ折曲ケテ緊著シ其ノ口縁ノ四隅ニ於ケル鐵板ノ接觸部ハ堅牢ニ之ヲ嵌接シ其ノ全量一升ノモノニ在リテハ尙鐵帶ヲ四隅ニ於ケル外側ヲ通シテ底部ニ折曲ケテ之ヲ緊著スヘシ

二十一 前二號ノ鐵線又ハ鐵帶ノ厚ハ全量一斗以下又ハ二十リットル以下ノモノニ在リテハ鐵線五厘以上鐵帶三厘以上全量二升以下又ハ五リットル以下ノモノニ在リテハ鐵線四厘以上鐵帶二厘以上全量二合五勺以下又ハ五デシリットル以下ノモノニ在リテハ鐵線三厘以上鐵帶二厘以上ト爲スヘシ

二十二 鐵線又ハ鐵帶ヲ附著スル爲螺旋釘ヲ用ウルトキハ振戻シ難キ構造ト爲スヘシ

二十三 金屬製枡、陶器枡又ハ磁器枡ニハ其ノ内面ニ目盛ヲ爲スコトヲ得但シ金屬製枡ノ全量以外ノ目盛ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二十四 金屬製又ハ木製ノ液用枡ニハ其ノ側板ニ幅一寸以上ノ玻璃板ヲ挿入シテ之ニ目盛ヲ爲シ又ハ堅牢ナル構造ニ依リ玻璃管ヲ連結シ之ニ目盛ヲ爲スコトヲ得

二十五 枡ニ玻璃管ヲ連結シテ目盛ヲ爲シタル場合ニ在リテハ玻璃管以外ノ部分ノ徑及深ハ其ノ枡ノ全量ニ付第十號ノ寸法ヲ下ラサルコトヲ要ス

二十六 枡ノ底部ニ排出口ヲ設ケタルモノニ在リテハ零位ヲ表示スル目盛ヲ附スヘシ

二十七 全量五合以上又ハ一リットル以上ノ枡ノ全量ノ目盛ハ其ノ全周又ハ其ノ周ノ三分ノ一毎ニ之ヲ附スヘシ但シ水平ヲ定ムル裝置アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二十八 全量五合未満又ハ一リットル未満ノ枡ノ全量ノ目盛ハ其ノ全周ノ五分ノ一以上ニ之ヲ附スヘシ

二十九 枡ノ最小目盛間ノ距離ハ一分以上ト爲スヘシ

三十 枡ニハ注口、把手又ハ趾ヲ附スルコトヲ得其ノ注口ヲ附スル場合ニ在リテハ注口ノ容量ハ全量五斗以下又ハ二十リットル以下ノモノニ在リテハ全量ノ百分ノ一以下全量一升以下又ハ二リットル以下ノモノニ在リテハ全量ノ十分ノ一以下ト爲スヘシ

三十一 枡ニ注口ヲ附スル場合ニ在リテハ注口ノ容量ノ割合ニ應シテ第十號ニ依ル深ヲ減シ其ノ注口ノ口縁ハ枡ノ口縁ノ高ト同一ト爲スヘシ但シ全量ノ目盛アル枡ニ注口ヲ附スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十二 枡ノ口縁ニ接觸スル斗槩ノ面ハ之ヲ平滑ト爲スヘシ

三十三 枡ニハ外側ニ其ノ全量ヲ表記スヘシ其ノ木製枡ノ穀類用、液類用又ハ雜用ノモノニハ左ノ様式ニ依リ之ヲ表記スヘシ

一穀類用 用一斗 <small>(何升又ハ何リットル)</small>	一液類用 用一斗 <small>(何升又ハ何リットル)</small>	一雜用 一斗 <small>(何升又ハ何リットル)</small>
--	--	--------------------------------------

三十四 斗槩ノ切口ニハ第十四號ノ區分ニ從ヒ大中又ハ小ノ文字ヲ表記スヘシ

化學用量器

一 化學用量器ノ容量ハ其ノ量器カ攝氏十五度ノ溫度ヲ有スル場合ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

- 二 化學用量器ニ用ウル玻璃ハ溫度ノ變化ニ依リ容易ニ破損シ難キモノ及明瞭ニ水際ヲ視定シ得ルモノヲ用ウヘシ
- 三 化學用量器ノ目盛ヲ爲ス部分ハ之ヲ圓錐形ト爲スヘシ
- 四 「メスフラスコ」及「メスシリンドル」ハ之ヲ水平面上ニ置キタルトキ其ノ目盛ヲ爲セル部分カ鉛直トナルコトヲ要ス
- 五 化學用量器ノ内側面ハ排水ノ場合ニ於テ殘溜ヲ生セサル構造ト爲スヘシ
- 六 「メスフラスコ」ノ目盛アル部分ノ内徑ハ五「ミリメートル」以上ニシテ左ノ定限以内ナルコトヲ要ス

種類	「リットル」	「デシリットル」	「センチリットル」
内徑	二五、二〇、一五	一〇、〇五、〇二	八、八
- 七 全量ノミノ目盛アル「ピベット」ノ吸入管ノ長ハ「一」デシメートル以上其ノ排出管ニシテ目盛アルモノノ長ハ六「センチメートル」以上三「デシメートル」以下其ノ目盛ナキモノノ長ハ三「センチメートル」以上二「デシメートル」以下ト爲スヘシ
- 八 全量ノミノ目盛アル「ピベット」ノ吸入管及排出管ノ目盛アル部分ノ内徑ハ六「ミリメートル」以下ト爲スヘシ
- 九 全量ノミノ目盛アル「ピベット」ハ其ノ全量「一」センチリットル未滿ノモノニ在リテハ十二秒以上一分以内全量「一」デシリットル未滿ノモノニ在リテハ二十秒以上一分以内全量「一」デシリットル以上ノモノニ在リテハ三十秒以上一分以内ニ其ノ全量ノ水ヲ排出スル構造ト爲スヘシ
- 十 「ピュレット」、「ピベット」及「メスシリンドル」ノ目盛ハ左ノ定限ニ依ルヘシ但シ「ピベット」ニハ

全量ノミノ目盛全量五分ノ「一」センチリットル以下ノモノニ在リテハ千分ノ「一」センチリットルノ目盛メスシリンドルニシテ全量ノ二分ノ「一」センチリットルノモノニ在リテハ百分ノ「一」センチリットルノ目盛全量「一」センチリットルノモノニ在リテハ五十分ノ「一」センチリットルノ目盛ヲ爲スコトヲ得

種類	目盛
二分ノ「一」センチリットル以下	「センチリットル」ノ五分ノ「一」又ハ二分ノ「一」
「一」センチリットル以下	「センチリットル」ノ二分ノ「一」又ハ百分ノ「一」
五「センチリットル」以下	「センチリットル」ノ百分ノ「一」又ハ五十分ノ「一」
「一」デシリットル以下	「センチリットル」ノ五分ノ「一」又ハ十分ノ「一」
二「デシリットル」以下	「センチリットル」ノ十分ノ「一」又ハ五分ノ「一」又ハ二分ノ「一」
五「デシリットル」以下	「センチリットル」ノ二分ノ「一」又ハ「一」センチリットル
「一」リットル以下	「センチリットル」
二「リットル」以下	「センチリットル」又ハ二「センチリットル」

- 十一 化學用量器ノ目盛ニハ色ヲ施シ其ノ最小目盛間ノ距離ハ「一」ミリメートル以上ト爲スヘシ
- 十二 化學用量器ノ目盛ノ幅ハ最小目盛間ノ距離ノ十分ノ「一」以下ト爲シ〇・二「ミリメートル」以上ト爲スヘシ但シ全量ノミノ目盛アルモノニ在リテハ〇・四「ミリメートル」以下〇・二「ミリメートル」以上ト爲スヘシ
- 十三 化學用量器ノ全量ノ目盛ハ「メスフラスコ」及全量ノミノ目盛アル「ピベット」ニ在リテハ之ヲ全周ニ附シ其ノ他ノモノニ在リテハ全量及十箇毎ノ目盛ハ之ヲ全周ノ五分ノ「一」以上ニ附スヘシ
- 十四 「メスフラスコ」ノ目盛ハ全量「一」デシリットル以上ノモノニ在リテハ其ノ頸部ノ上端ヨリ六「センチメートル」以上下端ヨリ二「センチメートル」以上ノ場所ニ全量「一」デシリットル未

- 満ノモノニ在リテハ其ノ頸部ノ上端ヨリ二「センチメートル」以上下端ヨリ一「センチメートル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ
- 十五 全量ノミノ目盛アル「ビベット」ノ吸入管ニ於ケル目盛ハ其ノ管ノ上端ヨリ十「センチメートル」以上其ノ下端ヨリ一「センチメートル」以上ノ場所ニ排出管ニ於ケル目盛ハ其ノ管ノ兩端ヨリ三「センチメートル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ
- 十六 全量及全量以外ノ目盛アル「ビベット」及「ビレット」ノ最高ノ目盛ハ管ノ上端ヨリ五「センチメートル」以上最低ノ目盛ハ「ビベット」ニ在リテハ其ノ尖端ヨリ「ビレット」ニ在リテハ其ノ排栓ノ連接部ヨリ各二「センチメートル」以上ノ場所ニ之ヲ附スヘシ
- 十七 化學用量器ニハ外側ニ其ノ全量ヲ表記スヘシ
- 十八 「メスフラスコ」ニシテ受用ノモノニハ受又ハE其ノ出用ノモノニハ出又ハHノ文字ヲ附記スヘシ

衡器

- 一 秤ノ桿及之ニ附屬スル槓杆ニハ強硬ナル金屬ヲ用ウヘシ但シ度量衡法第三條又ハ第四條ノ名稱ニ依ル桿秤ニ在リテハ黒檀、紫檀、樺骨又ハ象牙度量衡法施行令第一條ノ名稱ニ依ル桿秤ニ在リテハ骨又ハ象牙ヲ用ウルコトヲ得
- 二 秤ノ桿及之ニ附屬スル槓杆上ニ於ケル支點ヲ爲ス刃、刃受、承軸及關節又ハ刃蓋ニハ之ニ負フ重量ノ大小及秤ノ秤量ノ大小ニ應ジテ適當ナル硬度ヲ有スル鋼鐵又ハ石ヲ用ウヘシ
- 三 諸紐ノ材料ニハ金屬、革又ハ強韌ナル絹絲、麻絲若ハ綿絲ヲ用ウヘシ
- 四 分銅、錘又ハ増錘ノ物質ハ白金、金、銀、アルミニウム、「ニッケル」、白銅、真鍮、青銅、銅、鐵又ハ玻璃ヲ用ウヘシ但シ重量五十匁未満、二百「グラム」未満又ハ八「オンス」未満ノモノニハ鐵ヲ用ウルコトヲ得ス

- 五 分銅ノ形状ハ之ヲ臺形又ハ圓錐形ト爲スヘシ但シ重量二分以下、五「デシグラム」以下「グレイン」分銅ニシテ重量二「グレイン」以下「オンス」分銅ニシテ重量〇、〇五「オンス」以下ノモノ及玻璃製ノモノニ在リテハ之ヲ板狀ト爲スコトヲ得
- 六 桿、槓桿又ハ盛ニ嵌スル刃、刃受、承軸ハ容易ニ離脱又ハ移動セサル構造ト爲スヘシ
- 七 刃ハ凹凸ナク刃受ノ面ハ平滑ナルコトヲ要ス
- 八 刃受ヲ圓形トナス場合ニ在リテハ縱目ナキ構造ト爲スヘシ
- 九 目盛アル秤ニハ直線又ハ標點一箇以上ヲ其ノ桿上又ハ見易キ位置ニ表示スヘシ但シ秤量二百匁以上、千二百匁以上、五百「キログラム」以上又ハ千五百「ポンド」以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十 秤ニハ桿ノ位置又ハ感量ヲ規定スル爲度表若ハ腕ミヲ設クヘシ但シ桿休メアルモノ又ハ桿秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十一 秤ニハ調子玉ヲ附スヘシ但シ木製又ハ金屬製桿秤、自働秤、上皿天秤及刃受ヲ懸垂シテ使用スル構造ノ天秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十二 調子玉ハ目盛又ハ度表ノ最小目盛ノ二度目以上度表又ハ目盛ナキ秤ニ在リテハ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ秤量ノ公差ノ二倍以上ヲ加減シ得ル構造ト爲スヘシ
- 十三 調子玉ハ遊動セサル構造ト爲スヘシ
- 十四 調子玉ナキ秤ハ其ノ空懸ケ又ハ錘ヲ直懸ニ懸ケタル場合ニ於テ其ノ腕ミカ一致シ若ハ其ノ桿カ水平トナリ又ハ其ノ指針カ直線若ハ標點ヲ指ス構造ト爲スヘシ但シ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ秤量ノ公差ノ四分ノ一以內掛量アルモノニ在リテハ其ノ公差ノ四分ノ一以內ノ重量ヲ加減シテ其ノ腕ミカ一致シ若ハ桿カ水平トナリ又ハ其ノ指針カ直線若ハ標點ヲ指スモ妨ナシ

- 十五 調子玉アル秤ノ支點ハ之ヲ一箇ト爲スヘシ
- 十六 天秤、臺秤及上皿桿秤ニハ、水準ヲ定ムル裝置ヲ爲スヘシ但シ刃受ヲ懸垂シテ使用スル構造ノ天秤又ハ土地若ハ建物等ニ取附ケ使用シ又ハ其ノ臺ヲ傾斜スルモ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差以上ノ器差ヲ生セサル構造ノ臺秤ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十七 十分秤ハ其ノ兩臂ノ比ヲ十分ノ一又ハ百分ノ一ト爲スヘシ
- 十八 桿秤ノ支點ハ之ヲ二箇以下ト爲シ其ノ二箇ノ場合ニ在リテハ桿ノ表裏ニ之ヲ設ケ其ノ刃受ハ支點毎ニ之ヲ附スヘシ
- 十九 桿秤ノ刃及刃受ハ其ノ桿ヲ上下各四十五度ニ捲ルモ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差以上ノ器差ヲ生セサル構造ト爲スヘシ
- 二十 秤ノ最小目盛間ノ距離ハ臺秤ニ在リテハ之ヲ五厘以上上皿桿秤及秤量二百匁、一斤、五百グラム又ハ一、五ポンドヲ超エタル金屬製桿秤ニ在リテハ之ヲ三厘以上骨製若ハ象牙製桿秤及秤量二百匁以下、一斤以下、五百グラム以下又ハ一、五ポンド以下ノ金屬製桿秤ニ在リテハ之ヲ二厘以上ト爲スヘシ
- 二十一 木製桿秤ノ桿ノ長ハ其ノ秤量ニ從ヒ左ノ定限以上ト爲シ之ニ附屬スル錘ノ重量ハ紫檀製又ハ黒檀製ノ秤ニ在リテハ其ノ秤量ノ十分ノ一以上其ノ他ノ秤ニシテ秤量四十貫未満又ハ二百五十斤未満ノモノニ在リテハ其ノ秤量ノ十分ノ一以上秤量四十貫以上又ハ二百五十斤以上及皿附ノモノニシテ秤量二貫以下一貫六百匁以上又ハ十二斤以下十斤以上ノモノニ在リテハ其ノ秤量二十五分ノ一以上ト爲スヘシ但シ定量錘ノ重量ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

檜製桿秤

三十六貫以上又ハ二百二十斤以上

桿長 五尺

- 二十五貫以上又ハ百五十斤以上 四尺五寸
 - 二十貫以上又ハ百二十斤以上 四尺
 - 十六貫以上又ハ百斤以上 三尺五寸
 - 八貫以上又ハ五十斤以上 三尺
 - 五貫以上又ハ三十斤以上 二尺五寸
 - 四貫以上又ハ二十五斤以上 二尺
 - 一貫六百匁以上又ハ十斤以上 一尺八寸
 - 一貫以上又ハ六斤以上 一尺六寸
 - 六百匁以上又ハ三斤二分ノ一以上 一尺四寸
 - 二百匁以上又ハ一斤以上 一尺二寸
- 紫檀製又ハ黒檀製桿秤
- 一貫六百匁以上又ハ十斤以上 桿長 一尺三寸
 - 一貫六百匁未満又ハ十斤未満 一尺二寸
 - 一貫二百匁未満又ハ七斤二分ノ一未満 一尺
- 二十二 分銅錘、増錘及増錘臺ニハ其ノ重量ヲ齊整スル爲容易ニ脱出セサル方法ニ依リ金屬ヲ填充スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ填充物ノ重量ハ増錘臺ヲ除クノ外重量ノ二十分ノ一ヲ超エサルコトヲ要ス
 - 二十三 前號ニ依ル填充物ノ穿孔ハ容易ニ離脱シ又ハ振戻シ得サル方法ニ依リ之ヲ緊塞スヘシ
 - 二十四 分銅錘、増錘又ハ増錘臺ニ證印ヲ附シ若ハ填充物ノ穿孔ヲ緊塞スル爲メ爲シタル象眼ノ面ハ其ノ周圍ノ面ヨリ隆起セシメサルコトヲ要ス
 - 二十五 定量錘附木製桿秤ノ秤量ハ其ノ定量錘ノ重量ニ從ヒ左ノ定限ニ依ルヘシ
- 檜製桿秤(皿附ノモノヲ除ク)
- 定量錘ノ重量 一貫六百匁
 - 秤 三十二貫又ハ二百斤

一貫三百匁	二十六貫又八百六十斤
一貫	二十貫又八百二十斤
八百匁	十六貫又八百斤
六百匁	十二貫又八七十五斤
四百匁	八貫又八十五斤
三百五十匁	六貫又八三十五斤
二百五十匁	四貫又八二十五斤
百二十匁	二貫又八十二斤
百匁	一貫六百匁又八十斤
六十匁	一貫又八十六斤
定盤錘ノ重量	秤 量
八十匁	一貫六百匁又八十斤
六十匁	一貫二百匁又八七斤二分ノ一
五十匁	六百匁又八三斤二分ノ一
二十五匁	四百匁又八二斤二分ノ一

紫檀製又ハ黒檀製桿秤
定盤錘ノ重量
六十匁

二十六 秤ハ度量衡法施行令第三表又ハ第四表ノ公差ニ相當スル重量ヲ感シ臺秤及上皿桿秤ニ在リテハ桿ノ末端ニ於テ上下各一分以上桿秤ニ在リテハ其ノ勾配三十分ノ一以上度表アルモノ又ハ自働秤ニ在リテハ其ノ指針カ標點ノ左右又ハ上下ニ於テ最小目盛ノ各二分ノ一以上度表ナクシテ腕ミノ設ケアル天秤、上皿天秤又ハ十分秤ニ在リテハ其ノ腕ミカ五厘以上ノ移動ヲ其ノ静止體ニ於テ認メ得ル構造ト爲スヘシ

二十七 秤ニハ製作、輸入又ハ移入ノ番號其ノ修履シタルモノニ付テハ製作、輸入又ハ移入シタル番號ノ明瞭ナラサル場合ニ限リ修履ノ番號ヲ其ノ桿ニ附スヘシ但シ天秤、上皿天秤、十分秤及自働秤ニハ支柱又ハ臺ニ之ヲ附スルコトヲ得

二十八 天秤及上皿天秤ニハ其ノ秤量及感量ヲ臺ノ上面若ハ側面又ハ支柱ニ表記スヘシ

二十九 臺秤ニハ其ノ秤量ヲ臺ノ上面ノ縁ニ表記スヘシ此場合ニ於テ其ノ定量増錘附ノモノニシテ其ノ増錘ノ重量ト掛量トノ比カ二百分ノ一ノモノニ在リテハ大共ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字ヲ附記スヘシ

三十 上皿桿秤ニハ秤量ヲ其ノ桿ニ盛止量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ桿秤ニハ盛出量、秤量及掛量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛ニ自働秤ニハ秤量ヲ其ノ量ヲ表示スル目盛又ハ其ノ臺ニ之ヲ附記スヘシ但シ桿秤ノ秤量ハ之ヲ盛出量ト併記スルコトヲ得

三十一 十分秤ニハ兩臂ノ比、秤量及感量ヲ支柱又ハ臺ニ表記スヘシ

三十二 木製桿秤ニシテ定量錘附ニ非サルモノニハラノ文字ヲ其ノ桿ニ表記スヘシ

三十三 分銅ニハ其ノ重量ヲ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ文字ヲ重量五毛以下ノモノニ在リテハ「一、二、五、其ノ五」ミリグラム以下ノモノニ在リテハ「1、2、5」ト省略スルコトヲ得但シ左ノ重量及形狀ニ依ルモノニ在リテハ重量ノ表記ヲ要セス

五、ミリグラム 六角形

二、ミリグラム 三角形

一、ミリグラム 四角形

三十四 増錘ニハ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ定量増錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十五 桿ヨリ分離シ得ヘキ錘、増錘、増錘臺及皿ニハ桿ト同一ノ番號ヲ表記スヘシ但シ定量錘及定量増錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十六 前號ノ錘ニハ其ノ附屬スル秤ノ秤量及木製桿秤ニ附屬スルモノニ在リテハラノ文字ヲ

其ノ側面ニ表記スヘシ但シ定量錘ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三十七 定量増錘ニハ其ノ掛量及錘ノ重量ト掛量トノ比カニ百分ノ一ノモノニ在リテハ大其ノ百分ノ一ノモノニ在リテハ中其ノ五十分ノ一ノモノニ在リテハ小ノ文字定量錘ニハ其ノ錘ノ附屬スル秤ノ秤量ヲ其ノ上面又ハ側面ニ表記スヘシ此ノ場合ニ於テ尙檯製皿附ノ桿秤ニシテ秤量一貫六百匁又ハ十斤ノモノニ附屬スルモノニ在リテハさノ文字紫檯製又ハ黒檯製ノ桿秤ニ附屬スルモノニ在リテハ尙ホノ文字ヲ附記スヘシ

第四章 檢定

第三十二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ定ムル書式ニ依リ檢定請求書ヲ作リ之ニ度量衡器ヲ添ヘ甲種檢定ニ在リテハ中央度量衡器檢定所ニ乙種檢定ニシテ其ノ請求者カ製作者、修覆者又ハ販賣者ナル場合ニ在リテハ其ノ營業所ノ所在地其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ノ定ムル檢定所ニ之ヲ差出スヘシ

第三十三條 度量衡器カ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタルモノナル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ甲種檢定ニ在リテハ農商務大臣乙種檢定ニ在リテハ度量衡器ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ニ檢定請求書ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ之ヲ中央度量衡器檢定所ニ提出スヘシ

第一項ノ出願ヲ許可セラレタル者ハ當該官吏ノ旅費其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第三十四條 行政官廳ハ檢定ノ請求アリタル度量衡器ニ付必要アリト認ムルトキハ前條ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ其ノ請求者ニ命スルコトヲ得

第三十五條 度量衡法施行令第九條但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ度量衡器ノ種類、物質、箇數、許可ヲ受ケムトスル事由及其ノ輸出若ハ移出セムトスルモノニ在リテハ注文者又ハ荷受人ノ住所氏名、輸出若ハ移出ノ時期ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ出願ニ付其ノ度量衡器ノ標本、製作材料其ノ他必要ナル物件又ハ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

出願人第一項ニ依ル出願ニ對スル許可ノ條件ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十六條 製作者、修覆者及販賣者外ノ者ト雖度量衡器ヲ所有又ハ所持スル者ハ其ノ檢定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 檢定證印ハ度量衡器ノ左ノ部分ニ之ヲ附ス

- 一 一度器
 - 目盛ノ各段ノ一端(帶狀麻製ノモノハ麻ノ部分)及分離シ得ル構造ノモノニ在リテハ其ノ各部分ノ中央部
- 二 枰及化學用量器
 - 全量ヲ表記シタル傍及金屬製枰若ハ木製枰ニシテ注口ヲ附シタルモノニ在リテハ其ノ注口
 - 大、中又ハ小ノ文字ヲ表記シタル傍
- 三 斗槩
 - 桿ノ中央部又ハ其ノ附近
- 四 天秤、上皿天秤及十分秤
 - 桿ノ末端、秤量ヲ表記シタル傍、休ミノ把手ノ中央部、比例螺旋ノ緊著部及增錘臺ノ上面
- 五 臺秤
 - 桿ノ末端及增錘臺ノ上面
- 六 上皿桿秤
 - 金屬製ノモノニ在リテハ直點ノ傍又ハ桿ノ末端、象牙、骨、黒檯又ハ紫檯製ノモノニ在リテハ桿ノ兩端(檯製ノモノニシテ鐵製ノ頭金具ヲ附シタルモノニ在リテハ其傍及他ノ一端)
- 七 桿秤

八 自働秤 目盛盤又ハ其ノ縁及桿カ外部ニ現ハレタルモノニ在リテハ其ノ桿
九 分銅 上面側面又ハ底面
十 錘又ハ増錘 上面又ハ側面

第三十八條 甲種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

打込印及押印
大一分二厘平方
中六厘平方
小四厘平方
摺附印
大四分平方
中二分平方
小一分平方

第三十九條 乙種檢定ニ合格シタル度量衡器ニ附スル檢定證印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

打込印及押印
大一分二厘平方
小六厘平方
烙印及摺附印
大四分平方
小二分平方

第四十條 檢定消印ノ雛形及種類ヲ定ムルコト左ノ如シ
打込印又烙印

第四十一條 修覆シ又ハ第三十六條ニ依リ請求アリタル衡器ノ檢定ノ場合ニ於テ檢定證印アル板狀分銅錘、増錘又ハ増錘臺ニハ更ニ檢定證印ヲ附セズ

第五章 使用ノ制限

第四十二條 鯨尺ハ布帛ヲ度ル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
第四十三條 木製枱ハ穀類用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ穀類ノ計量ニ液類

用ノモノニ付爲シタル表記アルモノニ非サレハ之ヲ液類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第四十四條 五斗以上又ハ百リットル以上ノ穀類ヲ計量スル場合ニハ全量一斗未満又ハ二十リットル未満ノ枱ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十五條 枱ヲ以テ穀類ヲ計量スル場合ニ於テハ圓錐狀斗概ヲ使用スルコトヲ要ス但シ其ノ二合五勺以下又ハ五デシリットル以下ノ枱ニハ小ノ表記アルモノニ二升以下又ハ五リットル以下ノ枱ニハ中ノ表記アルモノ一斗以下又ハ二十リットル以下ノ枱ニハ大ノ表記アルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第四十六條 桿ト分離シ得ヘキ錘、増錘、増錘臺又ハ皿ニ附シタル表記ト桿ニ附シタル表記ト異ル秤ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條 水平ヲ定ムル裝置アル秤ハ其ノ臺ヲ水平ト爲スニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六章 取締

第四十八條 地方長官官吏ヲシテ第一種取締ヲ執行セシムル場合ニ於テハ其ノ取締ヲ執行スル區域内ニ於ケル度量衡器ノ使用者ニ對シ日時及場所ヲ指定シテ檢査ヲ受クヘキ度量衡器ヲ提出セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ豫メ取締ヲ執行セシムル區域、度量衡器ヲ提出セシムヘキ日時及場所ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ハ公務所ニ於ケル度量衡器並水量「メートル」瓦斯「メートル」及特ニ地方長官ノ指定シタル度量衡器ニハ之ヲ適用セズ

第四十九條 度量衡法第八條第五號ノ構造ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノナルコトヲ要ス
一 度量衡器ニシテ其要部カ毀損磨滅又ハ腐蝕シタルモノ
二 度量衡器ニシテ檢定證印、記號其ノ他表記ノ文字又ハ目盛ノ識別シ難キニ至リタルモノ
三 度器ニシテ桿槓又ハ綴レアルモノ

- 四 端目盛ノ度器ニシテ其ノ端ニ於ケル角カ最小目盛ノ一度目以上磨滅シタルモノ其ノ端目盛ニ非サルモノニ在リテハ最端ノ目盛ヲ超ユルニ至ル迄磨滅シタルモノ
- 五 材料ヲ剝合セ又ハ繼合セテ作リタル度器及連接部ヲ分離シ得サル構造ノ疊尺ニシテ其ノ目盛アル部分ニ於ケル材料ノ繼目ニ間隙ヲ生シ且材料又ハ連接部カ分離シ易キニ至リタルモノ
- 六 麻製度器ニシテ目盛アル部分カ切斷シ易キニ至リタルモノ
- 七 度器ニシテ其ノ目盛アル部分カ缺損シ又ハ甚シク割レタルモノ
- 八 曲リ尺又ハ徑ヲ度ルニ用ウル直尺ニシテ其ノ角度ノ著シク差ヲ生スルニ至リタルモノ又ハ副枝ノ緩ミタルモノ
- 九 枱ニシテ甚シク變形シ又ハ其ノ口縁ニ緊著シタル材料又ハ鐵帶ニ緩ミヲ生シ又ハ其ノ口縁ノ缺損(全量ノ目盛アルモノニシテ其ノ口縁ノ缺損カ全量ノ目盛ニ達セサルモノヲ除ク)シタルモノ若ハ金屬製枱ノ繼目ノ離レタルモノ
- 十 枱ニシテ其ノ口縁又ハ内面カ著シク磨滅シ若ハ反リヲ生シ又ハ其ノ内面ニ於ケル塗料ノ剝落シタルモノ
- 十一 液類ノ計量ニ使用スル枱ニシテ漏水スルニ至リタルモノ又ハ材料ヲ二重トシタル金屬製枱ニシテ其ノ内面漏水スルニ至リタルモノ
- 十二 斗槩ニシテ反リ又ハ著シク凹凸ヲ生シタルモノ
- 十三 化學用量器ニシテ重要ナル缺損アルモノ
- 十四 秤ニシテ桿カ枉撓シタルモノ
- 十五 秤ニシテ其ノ刃、刃受、承軸、刃蓋又ハ桿ニ於ケル金具カ離脱シ又ハ刃及桿ニ於ケル金具カ移動シ易キニ至リタルモノ

- 十六 秤ニシテ調子玉ノ遊動シ易キニ至リタルモノ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノ
- 十七 調子玉ナキ秤ニシテ其ノ空掛ケ又ハ錘ヲ直點ニ懸ケタル場合ニ於テ之ニ度量衡法施行令第十六條ニ規定スル秤量ノ公差ノ四分ノ一以內ノ重量ヲ加減スルモ其ノ睨ミカ一致セス若ハ其ノ桿カ水平トナラス又ハ其ノ指針カ直點若ハ標點ヲ指ササルニ至リタルモノ
- 十八 水平ヲ定ムル裝置アル秤ニシテ其ノ裝置カ水平ヲ定ムルノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノ
- 十九 秤ニシテ度量衡法施行令第十六條ニ規定スル公差ニ相當スル重量ヲ感セサルニ至リタルモノ
- 第五十條 第一種取締ニ於テ合格シタル度量衡器ニ附スヘキ検査済印ノ雛形及ヒ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

②	(輪廓内ノ數字ハ 毎年其ノ年ノ下 位ノ數字ヲ用フ)	大徑 一分五厘 中徑 一分 小徑 五厘
---	---------------------------------	---------------------------
- 検査済印ハ度量衡器ノ見易キ部分ニ之ヲ附ス
- 第五十一條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス
- 第五十二條 度量衡器ノ取締ヲ執行スル官吏ノ携帶スヘキ證票ノ様式ヲ定ムルコト左ノ如シ
用紙厚質白紙四寸横二寸五分

第 號	官 氏 名	農商務省
	度量衡器取締官吏章	(道廳) 府 縣 印
		農商務省 (道廳) 府 縣 印

第七章 罰則

第五十三條 第十條第一項、第十六條又ハ第二十條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ二十五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十一條第二項、第十四條第一項、第十八條又ハ第十九條ニ違反シタル者
二 業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル場合ニ於テ第四十三條又ハ第四十四條ニ違反シタル者

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第十條第二項、第十二條、第十三條、第十四條第二項、第十五條、第二十一條又ハ第二十三條ニ違反シタル者

二 業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル場合ニ於テ第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ニ違反シタル者但シ第四十五條但書ノ場合ヲ除ク

三 第四十八條第一項ニ依リ指定シタル日時及場所ニ度量衡器ノ提出ヲ怠リタル者

附則

第五十六條 本則ハ度量衡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 第三十一條度量器ノ第四號、第七號但書、量器ノ枱及斗槩ノ第二號、第八號、第十八號、第十九號、第二十七號乃至第二十九號及第三十二號、第三十三號、第三十四號、第三十五號、第三十六號、第三十八號、第二十號、第二十一號、第二十四號、第二十五號、第二十九號、第三十二號、第三十五號乃至第三十七號ノ規定及第二十七號中十分秤及自働秤以外ノ秤ニ關スル規定ハ「ヤード、ポンド」法度量衡器ヲ除クノ外明治四十二年十二月三十一日迄ニ度量衡器ノ檢定ヲ請求スル者ノ申請アリタル場合ニ限り其ノ檢定ニ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ明治三十六年農商務省令第十號、第十三條、第十七條、第十八條第一項、第二項、第二十三條第二項、第二十四條、第二十六條第二項、第二

十八條ノ規定及第十五條第一項中圓錐形枱ニ關スル規定ヲ適用ス

第五十八條 木製枱ノ檢定ニ付テハ明治四十二年十二月三十一日迄檢定ヲ請求スルモノニ限り左ノ各號ニ依ルコトヲ得

一 第三十一條中量器ノ枱及斗槩ノ第一號ニ規定シタル材料ノ外液用枱ノ材料ニハ榧、姫子松又ハ銀杏、其ノ他ノ枱ノ材料ニハ銀杏ヲ用ウルコトヲ得

二 木製枱ハ全量一升ノモノノ外全量一升以上一斗以下ノモノニ在リテモ左ノ寸法ニ依リ之ヲ方形ト爲スコトヲ得但シ其ノ寸法ハ五厘以下ノ増減アルヲ妨ケス

種類
方ノ寸法
二升ノモノ 六寸一分七厘
五升ノモノ 八寸三分四厘
一斗ノモノ 一尺五分

前項第二號ノ枱ニシテ穀類用ノモノニハ鐵帶ヲ四隅ニ於ケル外側ヲ通シテ底部ニ折曲ケ之ヲ緊著スヘシ
前二項ノ規定ハ明治四十二年十二月三十一日以前ニ檢定ヲ請求シテ合格シタル木製枱ニシテ檢定證印アルモノノ檢定ニ付明治四十七年六月三十日迄之ヲ適用ス

第五十九條 度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依ル檢査ハ業務上取引若ハ證明ノ爲使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル度量衡器ニ付之ヲ行フヘシ

前項ニ依リ檢査ヲ行ヒタル度量衡器ニシテ度量衡法施行令第二表ノ種類ニ屬シ其ノ器差同令第十六條ノ公差ヲ超エス且第四十九條ノ規定ニ適合スルモノニ限り之ヲ合格トシ之ニ附スヘキ證印ハ第三十九條ノ離形及種類ニ依ルヘシ

第六十條 第四十八條第一項ノ規定ハ前條ノ檢査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依リ檢査ヲ受クヘキ「ヤード、ポンド」法度量衡器ニシテ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタルモノナル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量

衡器ノ所在地ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ハ明治四十四年四月三十日迄ニ其ノ事由ヲ詳記シテ願書ヲ其ノ度量衡器ノ所在地ラ管轄スル地方長官ニ差出スヘシ

第三十三條第三項ノ規定ハ前項ノ出願ノ許可アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第三十四條ノ規定ハ度量衡法施行令第二十三條第二項ニ依ル検査ニ之ヲ準用ス

第一號書式

度量檢定請求書

貼付シタル收入印紙ノ額金何圓

種類	全長	物質	目盛	目盛ノ段數	檢定請求事由別箇數	
					製作修理輸入ノモノ	何々計
直尺	何尺	何竹、鋼	三厘以下、二分、三厘、四厘、五分、六厘、七厘、八厘、九厘、一分、一分二厘、一分三厘、一分四厘、一分五厘、一分六厘、一分七厘、一分八厘、一分九厘、二分	何段	何段	何段
又ハ	何尺	何鐵、鋼	三厘以下、二分、三厘、四厘、五分、六厘、七厘、八厘、九厘、一分、一分二厘、一分三厘、一分四厘、一分五厘、一分六厘、一分七厘、一分八厘、一分九厘、二分	何段	何段	何段
何尺	何尺	何鐵、鋼	三厘以下、二分、三厘、四厘、五分、六厘、七厘、八厘、九厘、一分、一分二厘、一分三厘、一分四厘、一分五厘、一分六厘、一分七厘、一分八厘、一分九厘、二分	何段	何段	何段
何尺	何尺	何鐵、鋼	三厘以下、二分、三厘、四厘、五分、六厘、七厘、八厘、九厘、一分、一分二厘、一分三厘、一分四厘、一分五厘、一分六厘、一分七厘、一分八厘、一分九厘、二分	何段	何段	何段
計						
何圓						

右檢定及請求候也

營業所(住所)

製作者、修覆者又ハ販賣者氏名又ハ名稱 印

農商務大臣(道廳長官)宛

注意

一 物質種類、全長、目盛及目盛ノ段數ノ異ナルモノハ各別欄ニ之ヲ記載スヘシ以下各號之ニ準ス

一 目盛ノ欄ニハ二厘以下、二分ノ一、三厘、四厘、五分、六厘、七厘、八厘、九厘、一分、一分二厘、一分三厘、一分四厘、一分五厘、一分六厘、一分七厘、一分八厘、一分九厘、二分以下又ハ六十四分ノ一、インチ以下ノ目盛アルモノニ限リ其ノ目盛及其ノ目盛アル部分ノ長ヲ記載スヘシ

一 異種ノ度ノ名稱ノ目盛ヲ併セ盛リタルモノハ全長ノ欄ニハ其ノ名稱及全長、目盛ノ欄ニハ其ノ名稱及目盛ヲ記載スヘシ以下各號之ニ準ス

一 製作者、修覆者又ハ販賣者以外ノ者ニ在リテハ其ノ住所ヲ氏名又ハ名稱ニ肩書スヘシ以下各號之ニ準ス

第二號書式

量器檢定請求書

貼付シタル收入印紙ノ額金何圓

枰及化學用量器

種類	全量	目盛	用途	檢定請求事由別箇數	
				製作修理輸入ノモノ	何々計
圓形者ハ	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
何形者ハ	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
又ハ何形者ハ	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
製枰	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
化學用量器	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
又ハ何形者ハ	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
何々	何リットル	五分ノ一、一分、二分、三分、四分、五分、六分、七分、八分、九分、一分	液用	何圓	何圓
計					
何圓					

右檢定及請求候也

年月日

農商務大臣(道廳長官)宛

營業所(住所)

製作者、修覆者又ハ販賣者氏名又ハ名稱 印

明治四十二年六月二十八日

農商務大臣 男爵大浦兼武
逓信大臣 男爵後藤新平

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所又ハ業務執

行ノ爲設ケタル事務所ノ所在地ノ管轄地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル業務目論見書

二 總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢查證書寫、總噸數二十噸未滿ノ

船舶ニ付テハ船鑑札寫

出願人カ法人ナルトキハ前項書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及

組合員ノ名簿ヲ願書ニ添付スヘシ但シ定款又ハ契約書ニ於テ其ノ法人又ハ組合ハ帝國臣民ノミ

ヲ以テ組織スルモノナルコトヲ明示セル場合ニ於テハ社員名簿、株主名簿又ハ組合員名簿ヲ添

付スルコトヲ要セス

第一項ノ出願ハ使用セムトスル船舶ノ製造中ト雖書式第三號ニ依ル願書ヲ差出シテ之ヲ爲スコ

トヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項第二號ノ書類ハ船舶檢查證書及船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受ケ

タル後遲滞ナク之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ願書ニ第二條第二號ノ書類ヲ添付スヘシ但シ第二條ニ依リ漁船獎勵金

下付ノ出願ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所ノ管轄地方

長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添付書類ハ各二通ヲ要ス

一 第一條第一號ノ書類

二 書式第五號ニ依ル船舶件名書

三 船圖

四 製造据付仕様書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號船圖ハ船舶ヲ新造スル者ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面圖、船體中心線縱截
面圖、船體各甲板平面圖、船內平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖若ハ冷藏裝置圖船舶ニ
新造ノ機關若ハ冷藏機械ヲ据付クル者ニ在リテハ、機關室又ハ冷藏機械室ノ橫截面圖、冷藏裝置
圖、船體各甲板平面圖、船內平面圖、裝帆圖、汽機圖及汽罐圖又ハ發動機圖ノ各種ニ分チ其ノ寸法
ヲ附記シ汽機圖ニハ汽機縱橫平面各截面並冷汽器附屬筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱橫截面、前面
及背面ヲ記入スヘシ

第一項ノ出願人ニシテ遠洋漁業獎勵法第五條第二項ニ依ルモノハ船體、機關、器具ノ製造ニ要スル經

費豫算書ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 農商務大臣第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ其ノ指定シタル官吏ヲシテ遠洋

漁船檢查規程ニ依リ業務設備ヲ檢查セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ遠洋漁船檢查規程ニ依リ船舶ヲ檢查スル必要アルトキハ主務大臣ハ管海官廳

又ハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

前二項ノ檢查ニ合格シタルトキハ農商務大臣ハ地方長官ヲ經テ漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ

出願人ニ交付スヘシ

第四條 農商務大臣第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ地方長官ヲ

經テ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第五條 前條ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農商務大臣ノ指定シタル時期ニ於テ船舶ノ新造、機關

又ハ冷藏機械ノ据付ニ關シ遠洋漁船檢查規程ニ依リ管海官廳又ハ主務大臣ノ指定シタル官吏ノ

検査ヲ受クヘシ

第六條 第四條ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造、機關又ハ冷蔵機械ノ据付ニ關スル仕様ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ検査官吏カ其ノ變更ニ因リ船體、機關又ハ冷蔵機械ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船獎勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條 第五條ニ依ル検査ヲ終リタルトキハ検査官吏ハ書式第六號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第八條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎業務期ノ始ニ於テ期日及場所ヲ定メ業務設備検査ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
農商務大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認ムルトキハ再検査ヲ受クヘキ旨ヲ申請人ニ命スルコトヲ得

漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニ對シテハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間ハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第九條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實ノアリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

- 一 業務ヲ廢止シタルトキ
- 二 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタルトキ
- 三 船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ
- 四 船舶カ滅失、沈没シ若ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

五 船體、機關又ハ冷蔵機械ノ現狀ニ重要ナル變更ヲ爲シタルトキ

六 船舶検査證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ

七 前各號ノ外獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨農商務大臣ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク書式第七號ニ依ル届書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務ニ従事スルトキハ其ノ開始ノトキ及碇泊日數五日以上ニ亙ルトキハ帝國ニ在リテハ警察本分署又ハ町村役場、外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易事務官若ハ理事廳ニ届出テ其ノ證明ヲ受クヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ證明ヲ受クルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者毎業務期間ニ於ケル業務ヲ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ハ帝國ニ在リテハ警察本分署又ハ町村役場、外國ニ在リテハ帝國領事又ハ帝國貿易

事務官若ハ理事廳ニ業務日誌ヲ差出シ其ノ證明ヲ受クヘシ

第十五條 業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農商務大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十六條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ其ノ業務ニ從事シタル者ニシテ業務期間ヲ終リタルトキハ書式第八號ニ依ル請求書ニ業務日誌ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ竣工證明書ヲ受ケタルトキハ書式第九號ニ依ル請求書ニ其ノ證明書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 業務主カ毎業務期間ヲ終リタルトキハ其ノ船舶ニ乗組ミタル漁獵職員ハ其ノ業務主ヲ代理人ト爲シ書式第十號ニ依ル請求書ヲ農商務大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 遠洋漁業獎勵法第七條第一項但書及第二項但書ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ事由ヲ推定スヘキ證據書類ヲ添ヘ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ死亡シ又ハ行衛不明トナリタル漁獵職員ニ對スル獎勵金ハ其ノ正當相續人タルヘキ者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ請求人ハ其ノ親族關係ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第二十條 遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十一條 漁獵職員試験ハ農商務大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ執行ス

第二十二條 漁獵職員試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日迄ニ書式第十一號ニ依ル願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

漁獵職員免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二箇年間免狀ノ行使停止中

ノ者又ハ第二十六條第二項ニ依リ免狀ノ返納ヲ命セラレタル者ハ前條ノ試験ヲ受クルコトヲ得

第二十三條 漁獵職員試験ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且漁獵長試験ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ年齡滿二十年以上、漁獵手試験ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ年齡滿十八年以上タルコトヲ要ス但シ上級漁獵職員試験ヲ受クル履歴ヲ有スル者ハ下級漁獵職員試験ヲ受クルコトヲ得

甲種漁獵長試験

一 乙種漁獵長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ其ノ職ヲ執リタルコト

二 各種船長、各甲種一等運轉士、各甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ當テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 前號船舶職員ノ試験ヲ受クルニ適合スル履歴ヲ有シ内二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

四 水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シ當テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

乙種漁獵長試験

一 丙種漁獵長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵長又ハ漁獵手ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種二等運轉士又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 前號船舶職員ノ試験ヲ受クルニ適合スル履歴ヲ有シ内二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

四 水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シ當テ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

丙種漁獵長試験

一 漁獵手免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ其ノ職ヲ執リタルコト

二 三箇年以上航洋帆船ニ乗組ミ運航ニ從事シ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

三 四箇年以上沖合漁業ニ從事シ及一箇年以上航洋帆船ニ乗組ミ運航ニ從事シタルコト

四 道府縣立學校又ハ講習所ノ遠洋漁業科卒業證書ヲ有シ當テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シタルコト

五 道府縣水産試験場ニ於テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵航海ニ關スル技術ヲ練習シタルコト

漁獵手試験

一 二箇年以上航洋船ニ乗組ミ運航ニ從事シ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組ミ漁獵ニ從事シ又ハ四箇年以上沖合漁業ニ從事シタルコト

第二十四條 農商務大臣ハ漁獵職員試験ニ合格シタル者ニ對シ相當ノ免狀ヲ交付スヘシ

第二十五條 農商務大臣ハ遠洋漁業練習生ノ修業證書又ハ水産講習所遠洋漁業科ノ修業證書ヲ有スル者ニ對シ試験ヲ用非スシテ相當ノ免狀ヲ交付スルコトヲ得

農商務大臣ハ允當ト認ムル道府縣立學校又ハ講習所ノ遠洋漁業科ノ卒業證書ヲ有スル年齢滿二十年以上ノ者ニ對シ試験ヲ用非スシテ丙種漁獵長免狀ヲ交付スルコトヲ得

第二十六條 農商務大臣ハ漁獵職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ免狀ノ行使ヲ停止シ又ハ免狀ノ返納ヲ命スルコトヲ得

一 遠洋漁業獎勵法又ハ同法ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者

二 海員懲戒法ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタル者

詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スヘシ

第二十七條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期間ヲ終リタル日ヨリ二箇月以内ニ業務收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二箇月以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ毎年一回其ノ收支計算書及業務報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ其ノ業務主ニシテ前條ノ適用ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間内漁船獎勵金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ

農商務大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年内ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第三十一條 遠洋漁業獎勵法十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長及漁獵長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滞ナク其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十二條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第三十三條 第九條乃至第十二條、第二十七條乃至第三十條ノ規程ニ違反シ若ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行以前ニ於テ獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ在ル者ハ舊施行細則

第二十一條、第二十二條乃至第二十五條ノ規定ニ依ルコトヲ妨ケス

本則施行ノ際船舶カ現ニ受有スル遠洋漁船検査證書ハ之ニ記載スル航行期間内ニ限り仍効力ヲ有ス

前項ニ掲クル遠洋漁船検査證書ノ返納、書換及再交付ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

(書式)

第一號

漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ所有(何縣何郡何村何番地何某所有)ノ汽(帆)船何丸ヲ以テ漁獵業(漁獲物處理運搬業)ニ從事致候ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣爵氏名殿

追テ検査ノ義ハ何月何日何地ニ於テ相受度候也

族籍住所

氏名

第二號

業務目論見書

- 一 業務ノ種類(漁獵業ニ在リテハ漁獵ノ種類)
- 二 漁獲物種類(處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ種類及處理運搬ノ方法)
- 三 漁獵具(處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ漁獵具)

族籍住所

氏名

四 業務期間

業務場所(處理運搬業ニ在リテハ航路ヲ定メタルトキハ其ノ航路)

六 船員職務別及員數(漁業獎勵金下付出願ノ場合ニハ漁獵職員免狀又ハ海技免狀ヲ有スル船員ノ免狀ノ種類、番號及氏名ヲ記シ又船員中外國人アルトキハ其ノ員數)

七 業務採算

- 一 起業費
- 二 收支
- 三 損益

第三號

漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ何地ニ於テ製造中ノ所有(何縣何郡何村何番地何某所有)ノ汽(帆)船ヲ以テ漁獵業(漁獲物處理運搬業)ニ從事可致ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣爵氏名殿

追テ検査ノ義ハ何月何日何地ニ於テ相受度候也

族籍住所

氏名

第四號

漁船獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造(新造機關又ハ冷藏機械ヲ据付)候ニ付漁船獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣爵氏名殿

族籍住所

氏名

第五號

船舶件名書

甲號(船舶ヲ新造スルモノ)

一 船種及豫定ノ資格
 二 外板及船骨材料
 三 計畫總噸數
 四 計畫速力(機關ヲ有スルモノ)
 五 機關ノ種類及數(同上)
 六 推進器ノ數(同上)
 七 計畫馬力又ハ純馬力(同上)
 八 冷蔵機械ノ種類、計畫冷却力製氷量(冷蔵機械ヲ有スルモノ)
 九 豫定起工年月日
 十 豫定竣工年月日
 十一 造船所又ハ製造者ノ住所、氏名若ハ名稱
 乙號(新造機關又ハ冷蔵機械ヲ据付クルモノ)
 一 船種、船名、機關又ハ冷蔵機械ヲ据付ク(キ船舶)
 二 所有者ノ住所、氏名(同上)
 三 總噸數(同上)
 四 計畫速力(新造機關ヲ据付クルモノ)
 五 機關ノ種類及數(同上)
 六 推進器ノ數(同上)
 七 計畫馬力又ハ純馬力(同上)
 八 冷蔵機械ノ種類、計畫冷却力製氷量(冷蔵機械ヲ据付クルモノ)
 九 豫定起工年月日
 十 豫定竣工年月日
 十一 機關又ハ冷蔵機械ノ製造者ノ住所、氏名若ハ名稱及据付場所

第六號 竣工證明書

一 船種、船名及資格
 二 總噸數
 三 機關ノ種類、數(機關ヲ有スルモノ)

四 推進器ノ數(同上)
 五 實馬力又ハ純馬力(同上)
 六 冷蔵機械ノ種類及冷却力製氷量(冷蔵機械ヲ有スルモノ)
 七 竣工年月日
 八 製造者ノ住所、氏名若ハ名稱
 九 所有者ノ住所、氏名若ハ名稱
 右検査ヲ遂ケ遠洋漁業検査規程ニ合格セルコトヲ証ス

第七號 船舶所有權移轉屆

一 本船番號(船舶検査證書又ハ船鑑札記載ノ番號)
 二 船種、船名
 右ハ年月日遠洋漁業獎勵法ニ依リ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御届候也

年月日

族籍住所 (賣主) 氏 名 印
 族籍住所 (買主) 氏 名 印

検査官吏名 印

第八號 漁業獎勵金請求書

一金 圓 漁業獎勵金

但 自何年何月何日 一 發給期間ニ對スル分
 至何年何月何日 汽(帆)船何丸 總噸數何噸

農商務大臣爵氏名殿

右何年何月何日何地ニ於テ業務設備検査ヲ受ケ何月何日何地出帆漁獲業(處理運搬業)ニ從事シ何年何月何日何地ニ歸著業務ヲ終了致候間前記獎勵金御支給相成度別紙業務日誌相添此段及請求候也

住所

氏名[㊦]

第九號

農商務大臣爵氏名殿

漁船獎勵金請求書

一金 圓 漁船獎勵金

内

金 圓

何丸船體總噸數何噸ニ對スル分

金 圓

何丸機關馬力(純馬力)何馬力ニ對スル分

金 圓

何丸冷蔵機械冷却力製氷量何噸ニ對スル分

右何年何月何日付第何號許可指令若クハ何年何月何日起工何年何月何日竣工致候間前記ノ漁船獎勵金御支給相成度竣工證明書相添此段及請求候也

住所

氏名[㊦]

第十號

農商務大臣爵氏名殿

漁獵職員獎勵金請求書

一金 圓 漁獵職員獎勵金

但 自何年何月何日

至何年何月何日

内

金 圓

漁獵長一人ニ對スル分

金 圓

漁獵手何人ニ對スル分

右何年何月何日何地ヲ發シ何年何月何日何地ニ歸著セル何某ノ使用汽(帆)船何丸ニ乘組成規ノ期間漁獵ニ從事致候ニ付前記獎勵金御支給相成度別紙委任狀相添此段及請求候也

年月日

農商務大臣爵氏名殿

第十一號

漁獵職員試驗願

何丸乘組漁獵職員代

住所

氏名[㊦]

族籍住所

氏名

生年月日

氏名[㊦]

年月日

農商務大臣爵氏名殿

(別紙)

履歷書

一 漁獵又ハ航海ニ關スル事項

二 學校講習所等ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫

三 海技免狀ヲ有スル者ハ其ノ寫

○農商務省令第三十號

種畜牧場種畜拂下規程左ノ通相定ム

明治四十二年六月二十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

種畜牧場種畜拂下規程

第一條 本規程ニ於テ種畜ト稱スルハ種牛、種豚、種細羊ヲ謂フ

第二條 種畜ヲ拂受ケムトスル者ハ別記書式ニ依リ隨時種畜牧場長ニ拂下願書ヲ提出スヘシ

第三條 前條ノ出願アリタルトキハ種畜牧場長ハ現ニ拂下クヘキ種畜ノ種類、性、生年月日及拂

下代價ヲ出願人ニ通知シ期間ヲ指定シテ拂受希望ノ種畜ヲ選定シテ之ヲ届出テシムヘシ
 出願人ニ於テ指定期間内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ
 第四條 種畜牧場長出願ヲ許可シタルトキハ代金納付ノ期限及種畜引渡ノ期間ヲ指定シ拂下許可證ヲ下付スヘシ
 第五條 拂受人正當ノ事由ナクシテ前條指定期限迄ニ拂下代金ヲ納付セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
 第六條 拂受人種畜ノ引渡ヲ請求スルトキハ拂下許可證及代金納付ノ證書ヲ種畜牧場長ニ呈示スヘシ
 拂受人前項ノ書面ヲ呈示セサルトキト雖種畜牧場長ニ於テ其ノ拂下許可ヲ受ケ且拂下代金ヲ納付シタル者ナルコトヲ認メタルトキハ引渡ヲ爲スコトヲ得
 種畜牧場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ拂受人ニ通知シテ種畜引渡ノ期間ヲ變更スルコトヲ得
 第七條 拂受人引渡期間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ期間後一頭ニ付種牛ニ在リテハ一日金五十錢種豚、種細羊ニ在リテハ一日金十五錢ノ割合ヲ以テ飼養費ヲ引渡請求ノ際納付スヘシ
 第八條 拂受人引渡期間後二週内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ既納ノ代金ハ之ヲ還付セス
 第九條 引渡前ニ於テ拂下ノ目的タル種畜カ滅失シ又ハ廢疾ニ罹リタルトキハ拂受人ノ請求ニ依リ代金ヲ還付スヘシ
 拂受人ハ隠レタル瑕疵ヲ事由トシテ拂下許可ノ取消、代金ノ減額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
 第十條 種畜牧場長ハ拂受人ニ種畜引渡ノ際其ノ血統證ヲ交付スヘシ

第十一條 拂下種畜ノ所有者又ハ管理者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 一 拂受ケタル種畜斃死若ハ逸走シ又ハ之ヲ屠殺若ハ撲殺シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ種畜牧場長ニ届出テ同時ニ血統證ヲ返納スヘシ
 二 前年ニ於ケル拂受種畜ノ交尾蕃殖ノ狀況、仔畜ノ生育、改良ノ成績等ヲ毎年一月三十一日迄ニ種畜牧場長ニ報告スヘシ
 三 種畜ノ飼養管理及改良上ニ關シ農商務大臣又ハ種畜牧場長ヨリ諮問アリタルトキハ遲滯ナク之ニ答申スヘシ

附 則

種牛牧場種豚拂下規程及種牛牧場種牛拂下規程ハ之ヲ廢止ス

(別記書式)

種牛(豚)(細羊)拂下願	種牛(豚)(細羊)頭
一何々種	同
一何々種	同
右種畜牧場種畜拂下規程ヲ遵守シ牛(豚)(細羊)ノ改良蕃殖ニ從事致度候間御拂下相成度此段相願候也	住所職業
年 月 日	

何々種畜牧場長宛

氏 名

○逓信省令第二十三號

逓信官署職員共濟組合規則左ノ通相定ム

明治四十二年六月八日

逓信大臣 男爵後藤新平

通信官署職員共濟組合規則

第一章 總則

第一條 本組合ハ逓信官署職員共濟組合ト稱シ逓信大臣之ヲ監督ス
 第二條 通信局長ハ組合ニ關スル事務ヲ統理シ郵便爲替貯金管理所長及一等郵便局長ハ各其所管内ニ於ケル組合ノ事務ヲ掌理ス

第二章 組合員

第三條 明治四十二年勅令第五百一十一號第一條ノ現業員ハ別ニ之ヲ指定ス
 第四條 臨時ニ使役スル者、給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス
 第五條 組合員ハ左ノ場合ニ限り脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退職シタルトキ

三 通信官署外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ

四 第三條ニ依リ指定スル職員以外ノ逓信官署職員ニ轉シタルトキ

五 第四條ニ該當スルニ至リタルトキ

第六條 組合員及組合員タリシモノハ本規則ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 明治四十二年勅令第五百一十一號第四條ニ依ル組合員ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第三章 掛金

第八條 組合員ハ掛金トシテ毎月給料月額ノ千分ノ三十六ヲ支拂フヘシ

日給ヲ受クル者ニ在リテハ本給日額ノ三十日分ヲ以テ前項ノ給料月額トス
 特別ノ勞務又ハ缺勤其他臨時ノ事故ニ因リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルモ掛金額ヲ増減セス

第九條 掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

給料ヲ受ケサル月及給料ヲ受クルモ其受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回給料受領ノトキ之ヲ支拂フモノトス

第十條 掛金ノ額ニ異動ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ第一回ノ掛金ヲナシタル月ニ應當スル月ニ於テ其前月末ノ給料額ニ依リ掛金ノ額ヲ改定ス

第四章 救濟

第十一條 救濟金ハ左ノ七種トス

- 一 傷痰給與金
- 二 疾病給與金
- 三 療養給與金
- 四 死亡給與金
- 五 災害給與金
- 六 脱退給與金
- 七 勤續給與金

第十二條 傷痰給與金ハ組合員カ自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痰ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其等級ニ應シ別表第一號ニ依リ給與スルモノトス

第一等 重傷死ニ至リタルトキ

第二等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷痰ヲ受ケタルトキ

第三等 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖モ終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷痰ヲ受ケタルトキ

第四等 自用ヲ辨シ並業務ニ就クコトヲ得ルト雖モ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退職シタルトキ

第五等 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖モ職務ニ堪ユルトキ

第十三條 疾病給與金ハ組合員カ自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上疾病ニ罹リタルトキ前條ニ準シ給與スルモノトス

第十四條 療養給與金ハ組合員カ自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル爲メ療養ヲ爲シタルトキ之ニ要セシ相當額ヲ給與スルモノトス

第十五條 死亡給與金ハ第三條ニ依リ指定スル職員トナリ在職六箇月以上ヲ經過シタル組合員死亡シタルトキ別表第二號ニ依リ給與スルモノトス

第十六條 災害給與金ハ組合員カ水火震災其他非常ノ災害ニ罹リタルトキ給料二箇月分以内ヲ給與スルモノトス

第十七條 脫退給與金ハ組合員トナリタル後六箇月以上ヲ經過シタル者脫退シタルトキ左ノ區別ニ依リ給與スルモノトス

- 一 六箇月以上一箇年未満ノ者ニハ別表第三號ニ依ル金額ノ十分ノ八
 - 二 一箇年以上二箇年未満ノ者ニハ別表第三號ニ依ル金額ノ十分ノ九
 - 三 二箇年以上ノ者ニハ別表第三號ニ依ル金額
- 死亡又ハ職務上ノ傷痍若ハ疾病ニ因リ又ハ廢廳廢職其他逕信官署事務上ノ都合ニ依リ第五條第二號乃至第五號ニ該當シ脫退シタルモノニハ組合員トナリタル後六箇月以上ヲ經過シタルトキ否トヲ問ハズ別表第三號ニ依ル金額ヲ給與ス
- 第十八條 勤續給與金ハ組合員トナリタル後三箇年以上ヲ經過シタルモノカ脫退シタルトキ別表第四號ニ依リ給與スルモノトス

第十九條 傷痍給與金又ハ疾病給與金ヲ受ケスシテ脫退シタル者脫退後一箇年内ニ加入中ノ公務ニ起因シ第十二條又ハ第十三條ニ該當スルニ至リタルトキハ傷痍給與金又ハ疾病給與金ヲ給與ス

傷痍給與金又ハ疾病給與金ヲ受ケ脱退シタルモノト雖モ前項ノ期間内ニ加入中ノ公務ニ起因シ第十二條又ハ第十三條ニ該當シ上級給與金ヲ給與スヘキ事由アルニ至リタルトキハ其差額ヲ給與ス

第二十條 第十二條乃至第十九條ニ規定スル救濟金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給與金ヲ併給ス

第二十一條 傷痍給與金、疾病給與金、死亡給與金及災害給與金ハ救濟ノ事由發生ノ時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス但シ第十九條ノ場合ニ於テハ脫退ノ時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依ル

第二十二條 脫退給與金及勤續給與金ハ掛金額ニ基キ之ヲ算定ス
掛金額ニ異動アリタルトキハ異動前ノ掛金額ニ基キ全加入年數ニ對スル給與金額ヲ算定シ之ニ異動後ノ加入年數ニ對シ掛金ノ差額ニ基キ計算シタル給與金額ヲ併算ス
二回以上掛金額ニ異動アリタル場合ハ前項ノ計算方法ニ準ス

脫退給與金ニ關スル期間ハ加入又ハ掛金異動ノ月ヨリ脫退ノ月迄ノ月數ヲ以テ計算スルモノトス

第二十三條 救濟金給與ノトキ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ニ加ヘ又ハ之ヨリ減ス
第二十四條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキハ救濟金ヲ給與セス
刑事裁判ノ爲メ訴追セラレタル者ニ對シテハ其裁判確定ニ至ル迄救濟金ノ支給ヲ停止シ有罪ノ

判決確定シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 組合員第十二條乃至第十六條及第十九條ノ場合ニ該當シタルトキハ本人又ハ其戸主家族若ハ代理人ヨリ直ニ之ヲ所屬局所課長ニ申告スヘシ

第二十二條乃至第十六條及第十九條ノ場合ニ於テハ本人又ハ其戸主及家族ハ組合ノ醫師ノ臨檢診察若ハ治療又ハ職員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 組合員又ハ其戸主若ハ家族前條ノ規定ニ違反シタルトキハ救濟金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第二十七條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スヘキ者及其順位左ノ如シ
但シ組合員カ死亡前特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 兄弟姊妹

第六 他家ニ在ル直系卑屬

第七 他家ニ在ル直系尊屬

第八 扶養ヲ受ケタル者

前項第二號第五號及第六號ニ該當スル者數人アルトキ其順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號及第七號ニ該當スル者數人アルトキ其順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス
第一項第二號第三號第五號及第八號ニ該當スルモノハ組合員死亡ノトキ其家ニ在ルコトヲ要ス

第二十八條 前條第一項第六號乃至第八號ノ者ニ對シテハ救濟金ノ半額ヲ給與ス

第二十九條 第二十七條ニ依リ救濟金ヲ受領スル者ナキトキハ組合ハ救濟金ノ半額迄ヲ死亡者ノ爲メニ處分スルコトヲ得

第三十條 故意ニ組合員又ハ救濟金ノ給與ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ訴追セラレタル者ニ對シテハ其裁判確定ニ至ルマテ救濟金ノ支給ヲ停止シ有罪ノ判決確定シタルトキハ救濟金ヲ給與セス

第五章 審査會

第三十一條 加入、脱退、救濟金額ノ決定其他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ逓信大臣ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 審査會ハ議長一名審査委員十名ヲ以テ組織ス

第三十三條 議長及委員ハ逓信省又ハ逓信官署ノ高等官ヨリ之ヲ指定ス

第三十四條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

第三十五條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十六條 議長又ハ委員ハ自己ニ關スル審査ニ與ルコトヲ得ス

第三十七條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ逓信大臣ニ具申シ且ツ之ヲ逓信局長及審査請求者ニ通知スヘシ

第三十八條 逓信大臣ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認メタルトキハ再審査ヲ命ス

第三十九條 審查會ノ決議ハ組合ヲ縛束ス

第六章 會計

第四十條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十一條 本組合ノ財産ハ郵便貯金ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債券若ハ地方債券ヲ購入スルコトヲ得

前項ニ依ルノ外組合財産ノ管理方法ハ逓信大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

附則

第四十二條 本規則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

第一號表 (傷疾給與金)

等級	給與金額
第一等	給料 二箇年六箇月分
第二等	給料 一箇年七箇月分以上二箇年六箇月分以内
第三等	給料 一箇年一箇月分以上一箇年六箇月分以内
第四等	給料 七箇月分以上一箇年分以内
第五等	給料 一箇月分以上六箇月分以内

本表ノ給料ハ日給三十日分ヲ以テ一箇月ノ額トシ其十二倍ヲ以テ一箇年ノ額トス

第二號表 (死亡給與金)

加入期間	給與金額	加入期間	給與金額
一箇年未満	給料六箇月分	一箇年以上二箇年未満	給料六箇月十五日分

一 二箇年以上ハ一年未満ヲ増ス毎ニ給料十五日分宛ヲ加給ス
 二 本表ノ給料ハ日給三十日分ヲ以テ一箇月ノ額トシ月給ヲ受クル者ニ在リテハ月給ノ二分ノ一ヲ以テ十五日ノ額トス

第三號表 (脱退給與金)

加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脱退ノ時迄ノ年數	掛金毎月一圓ニ對スル給與額	加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脱退ノ時迄ノ年數	掛金毎月一圓ニ對スル給與額
一 年	一一・三三	九 年	一三〇・八二
二 年	二五・〇七	十 年	一五三・七六
三 年	三八・五五	一 年	一七三・七〇
四 年	五二・七〇	二 年	一九四・六一
五 年	六七・五六	三 年	二一六・五七
六 年	八三・一六	四 年	二三九・六二
七 年	九九・五五	五 年	二六三・八三
八 年	一二六・七五		

一 十五箇年ヲ超ユルトキハ十五箇年ニ對スル金額ト其以後ノ掛金額トニ脱退ノ前月迄年五朱ノ複利ヲ附シタルモノヲ積算ス
 二 年數ノ計算ニ於テ端數ノ月數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ對シテ受クヘキ金額ニ其金額ト其年數ヨリ一年ヲ經過シタルトキニ受クヘキ金額トノ差ヲ十二分シ之レニ端數ノ月數ヲ乘シタルモノヲ加ヘ給與ス

第四號表 (勤績給與金)

加入後一	加入後二	加入後三	加入後四	加入後五	加入後六	加入後七	加入後八	加入後九	加入後十	加入後十一	加入後十二	加入後十三	加入後十四	加入後十五	加入後十六	加入後十七	加入後十八	加入後十九	加入後二十	加入後二十一	加入後二十二	加入後二十三	加入後二十四	加入後二十五	
同十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同七年	同六年	同五年	同四年	同三年	同二年	同一年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
...

對	ス	ル	モ	ノ
同十五年
同十六年
同十七年
同十八年
同十九年
同二十年
同二十一年
同二十二年
同二十三年
同二十四年

- 一 本表ハ掛金又ハ其異動差額金壹圓ニ對スル給與金額ヲ掲ク
- 二 二十五年以後ハ二十五年ニ對スル給與金額二年五朱ノ複利ヲ付シタルモノヲ積算ス
- 三 年數ノ計算ニ於テ端數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ於テ受クヘキ金額ヲ給與ス

○逓信省令第二十四號

明治四十一年十月逓信省令第四十六號第一項ヲ左ノ通改正シ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 逓信大臣 男爵後藤新平

帝國海軍艦船ト帝國無線電信船舶局及帝國內通信官署トノ間並帝國海軍艦船ト韓國及滿洲內帝國通信官署トノ間ニ發著スル無線電報(海軍用電報)ノ取扱ニ關シテハ明治四十一年四月逓信省令第十六號無線電報規則及明治三十三年四月逓信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則ヲ夫夫準用ス但シ海軍

艦船ノ取扱ニ對スル船舶料及左記海岸局ノ取扱ニ對スル海岸料ハ之ヲ課セス
潮岬無線電信局 大瀬崎無線電信局

〔參照〕

遞信省令第四十六號(明治四十一年十月二十二日)抄録
明治四十一年四月遞信省令第十六號無線電報規則ハ通信官署帝國海軍艦船間ノ無線電信ニ依リ發受スル電報ニ之ヲ準用ス但
シ海軍艦船ノ取扱ニ對スル料金及左記海岸局ニ發受スル場合ニ於テ該海岸局料金ハ之ヲ課セス
潮岬無線電信局 大瀬崎無線電信局

○遞信省令第二十五號

明治四十二年四月遞信省令第十七號ノ規定ハ電信法第二條第三號ノ電話ヲ施設スル公署カ其ノ電話
線ヲ遞信省ニ無償引渡シタル場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テ引渡ヲ爲シタル公署カ一郡内ニ二箇以上アルトキハ之ヲ一公署ト看做ス
本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月二十二日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省令第二十六號

外國電報規則左ノ通相定ム

明治四十二年六月二十九日

遞信大臣 男爵後藤新平

外國電報規則

第一章 總則

第一條 外國電報トハ聖彼得爾堡萬國電信條約書又ハ特別ノ國際協定ニ依ル電報ヲ謂フ
第二條 萬國電信條約書及同附屬業務規則ニ基キ外國電信主管廳ニ於テ定ムル隨意規定事項及外
國電報ノ取扱ニ關スル制限ニシテ必要アルモノハ之ヲ告示ス

第三條 明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則第七條ノ規定ハ之ヲ外國電報ニ準用ス

第二章 電報ノ書法

第四條 業務規則第七條第三項ニ依リ日本語ヲ普通語ノ外國電報ニ使用スルコトヲ得ル國語ト指
定ス

第五條 外國電報ニ使用スル文字ハ羅馬字ニ數字ハ亞刺比亞數字ニ限ル

第六條 商業太平洋海底電信會社ノ線路ヲ經過スル外國電報ニハ音符ヲ附シタル文字ヲ使用スル
コトヲ得ス

第七條 商業太平洋海底電信會社ノ線路ヲ經過スル外國電報ノ願信ノ日附及時刻ハ本文ニ記載シ
タルトキニ限リ之ヲ傳送ス

第八條 全部又ハ一部暗語ヲ以テ記載シタル私報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第九條 帝國ト大不列顛及其ノ屬地、北亞米利加合衆國及其ノ屬地並清國トノ間ニ發著スル外國
電報ノ指定ハ英語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得

第十條 業務規則第十四條第四項ニ規定シタル署名ノ證明ノ傳送ハ發信ニ於テ之ヲ取扱ハス

第十一條 電報規則第二十六條ノ規定ハ之ヲ外國電報ニ準用ス

第三章 料金

第十二條 帝國發外國電報ニ關スル料金ハ之ヲ告示ス

第十三條 外國電報一通ノ料金ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ但シ前納返信料ハ原
電報ノ料金ト區別シテ之ヲ計算ス

第十四條 一等郵便局、二等郵便局及電信局(無線電信)ニ納付スヘキ外國電報ニ關スル料金ハ通貨
ヲ以テ之ヲ納付スヘシ但シ左ノ料金ハ此ノ限ニ在ラス

一 追納スヘキ料金

二 郵便課金事務報(電信課金事務報ニ)ノ料金
 三 電報謄本ノ料金
 四 電報受取證ノ料金
 第十五條 前條ニ掲ケタル局ニ外國電報ヲ頼信セムトスル者ハ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ發信局ニ豫納スルコトヲ得
 前項ノ豫納金ハ一回ニ付百圓ヲ下ルコトヲ得ス
 第十六條 發信局ニ於テ新ニ前條ノ豫納金ヲ受領シタルトキハ其ノ金額ヲ記入シタル豫納金通帳ヲ發信人ニ交付ス
 再度以後ノ豫納ハ該通帳交付局ニ之ヲ爲シ通帳ニ其ノ金額ノ記入ヲ受クヘシ
 第十七條 豫納金通帳ニ依リ外國電報ヲ發送セムトスル者ハ通帳ト共ニ之ヲ該通帳交付局ニ差出スヘシ
 發信局ニ於テハ該電報ニ關スル料金ヲ豫納金ヨリ徴收シ通帳ニ其ノ金額ヲ記入シテ發信人ニ返付ス
 第十八條 豫納金通帳ヲ有スル者該通帳交付局ニ假納スヘキ料金アルトキハ通帳ニ依リ之ヲ假納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ假納金中還付スヘキモノアルトキハ其ノ金額ヲ豫納金トシテ通帳ニ記入ス
 第十九條 發信人豫納金通帳ヲ著シ汚損若ハ毀損シタルトキハ其ノ金額ヲ豫納金トシテ通帳ニ記入スナキニ至リタルトキハ該通帳交付局ニ對シ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ汚損毀損又ハ亡失ノ場合ニ於テハ通帳一冊ニ付二十錢ヲ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ
 第二十條 外國電報ノ受取證ハ發信人ノ請求ニ依リ電報一通毎ニ之ヲ交付ス其ノ料金ハ受取證一通ニ付三錢トス

第二十一條 外國電報ニ關スル料金ノ還付ノ請求ニ對シテハ料金ヲ徴收セス
 第二十二條 發信人又ハ受信人ノ請求ニ依リ帝國內ニ於テ發受スル課金事務報ノ料金ハ一語ニ付五錢トス
 第二十三條 外國電報ニ關スル料金ヲ還付スル場合ニ於テ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス
 第二十四條 傳送前發信人カ取消シタル外國電報ニ對シ控除スル料金ハ五錢トス
 第二十五條 電報規則第四十五條第五十一條及第五十三條ノ規定ハ之ヲ外國電報ニ準用ス
 第四章 電報ノ頼信
 第二十六條 外國電報ヲ發送セムトスルトキハ時ニ定ムル場合ヲ除クノ外電信事務ヲ取扱フ通信官署ニ之ヲ頼信スヘシ
 第五章 電報ノ交付
 第二十七條 電報直配達區域外ニ宛テタル外國電報ノ別使配達ハ之ヲ取扱フ
 第二十八條 電報規則第六十七條ノ規定ハ外國電報ノ別使配達料ニ之ヲ準用ス
 艦船ニ宛テタル外國電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノニ付テハ其ノ配達料ヲ二十錢トス但シ陸路直配達區域外ニ互ルトキハ陸路ノ別使配達料ヲ加フ
 第二十九條 電報直配達區域外ニ宛テタル外國電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノ又ハ郵便若ハ書留郵便ノ指定アルモノノ受信人ハ豫メ著信局ニ請求シテ別使ニ依リ其ノ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受クルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ
 配達方ノ指定ナキモノ又ハ郵便ノ指定アルモノノ書留郵便ニ依ル配達ノ請求ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス
 第三十條 艦船ニ宛テタル外國電報ニシテ配達方ノ指定ナク且別使ニ依ルニ非サレハ其ノ受信

人ノ上陸前又ハ其ノ艦船ノ出帆前之ヲ配達スルコト能ハスト認ムルモノハ別使ニ依リ之ヲ配達ス

前項ノ場合ニ於テ別使配達料ハ受信人ヨリ之ヲ徴收ス

第三十一條 外國電報ノ無絨交付ハ之ヲ取扱フ

第三十二條 外國電報ノ本人直渡ハ之ヲ取扱ハス

第三十三條 第六章ニ依ル場合ヲ除クノ外外國電報ノ電話交付ハ之ヲ取扱ハス

第三十四條 同一集合中文字及數字ヲ混用シタル名宛ノ略號ハ之カ登記ヲ受クルコトヲ得ス

第三十五條 留置郵便又ハ留置電信ノ指定アル外國電報ニシテ文字又ハ數字ノ集合ヲ以テ其ノ名宛ヲ略記シタルモノノ交付ハ之ヲ取扱フ文字及數字ノ混用ヲ以テ記載シタルモノハ之ヲ取扱ハス

第三十六條 電報規則第八十一條、第八十二條及第八十五條乃至第九十六條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第六章 電線託送

第三十七條 電線託送ニ依ル外國電報ノ頼信ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外豫納金通帳ヲ有スル者ニ限ル

第三十八條 前條ニ依リ頼信シタル外國電報ニ關スル料金ハ頼信ノ都度豫納金ヨリ之ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於テ發信人ハ頼信ノ日ヨリ一箇月以内ニ豫納金通帳ヲ發信局ニ差出シ徴收金額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十九條 電報規則第七十五條、第七十六條及第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第七章 特別電報

第四十條 至急私報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第四十一條 返信料前納證券ハ一通ヲ以テ電報二通以上ノ料金ニ若ハ二通以上ヲ以テ電報一通ノ料金ニ充テ又ハ前納返信料ニ充ツルコトヲ得ス

第四十二條 受信人ハ返信料前納證券ノ再度證券ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十三條 電報規則第二百一十一條、第二百一十二條、第二百一十四條及第二百二十三條ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第八章 新聞電報

第四十四條 新聞電報ハ發信及著信ニ於テモ之ヲ取扱フ

第四十五條 新聞紙定期刊行物又ハ通信社ノ通信員新聞電報ヲ發送セムトスルトキハ左記ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ差出シ豫メ其ノ認可ヲ受クヘシ

一 電報ヲ宛ツル新聞紙若ハ定期刊行物ノ發行所又ハ通信社ノ名稱及所在地

二 電報ニ用フル名宛

三 電報ノ發著局名

四 申請者ノ住所氏名

前項ノ認可ヲ受ケタル後其ノ各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四十六條 前條第一項ノ認可ヲ與フルトキハ申請者ニ新聞電報發信證票ヲ交付ス

前條第二項ノ認可ヲ與フルトキハ先ニ交付シタル證票ト引換ニ新證票ヲ交付ス

通信員新聞電報ヲ發送セムトスルトキハ發信局ニ其ノ證票ヲ呈示スヘシ

第四十七條 新聞電報ノ受信人ハ之ヲ掲載シタル新聞紙又ハ定期刊行物一部ヲ直ニ著信局ニ差出スヘシ

第四十八條 新聞電報ハ電報取扱時間中之ヲ取扱フ但シ通信ノ輻輳ニ因リ一般電報ノ傳送ニ妨アリト認ムルトキハ其ノ傳送ヲ遅延シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四十九條 新聞電報ヲ發送又ハ受領スル者ハ特ニ告示スル通信官署ニ發著スルモノニ限り遞信大臣ノ許可ヲ得テ料金受信人拂ノ取扱ヲ受クルコトヲ得但シ關係外國電信主管廳ニ於テ其ノ取扱ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 發信人前條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ第四十五條第一項各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ

受信人前條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ

- 一 電報ヲ發スル通信員ノ住所氏名
- 二 電報ニ用フル名宛
- 三 電報ノ發著局名
- 四 電報ヲ受ケル新聞紙若ハ定期刊行物ノ發行所又ハ通信社ノ名稱及所在地

前條ノ許可ヲ受ケタル後前二項ノ申請書ニ記載シタル各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ申請書ヲ差出シテ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五十一條 發信ニ關シ第四十九條ノ許可ヲ與フルトキハ料金受信人拂許可ノ旨ヲ記載シタル新聞電報發信證書ヲ申請者ニ交付ス

第四十六條第二項ノ規定ハ發信ニ關スル第五十條第三項ノ許可ヲ與フルトキニ之ヲ準用ス

受信ニ關シ第四十九條又ハ第五十條第三項ノ許可ヲ與フルトキハ其ノ旨申請者ニ通知ス

通信員料金受信人拂新聞電報ヲ發送セムトスルトキハ發信局ニ其ノ證書ヲ呈示スヘシ

第五十二條 受信人前條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ指定ノ保證金ヲ著信局ニ納付スヘシ但シ先ニ料金受信人拂ノ取扱ニ對シ保證金ヲ納付シタル者ニ在リテハ指定ノ増額ヲ納付スヘシ

保證金額改定ノ爲其ノ追納方ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同シ

受信ニ關スル料金受信人拂取扱ノ許可ハ第一項ノ保證金ノ納付ニ因リ其ノ効力ヲ生ス

第五十三條 料金受信人拂新聞電報ヲ頼信スルトキハ頼信紙局用記事欄「REPLY」ト記載スヘシ

第五十四條 受信人拂ノ新聞電報料金ハ一箇月分毎ニ計算シ受信人ニ之ヲ通知ス

受信人ハ前項通知ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ料金ヲ著信局ニ納付スヘシ

第五十五條 受信人前條ノ期間内ニ料金ヲ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

前項ニ依リ生シタル保證金ノ闕額ハ直ニ之ヲ填補セシム

第五十六條 第五十二條第二項ノ場合ニ於テ保證金ノ追納ヲ爲ササルトキ又ハ前條第二項ノ場合ニ於テ保證金ノ填補ヲ爲ササルトキハ料金受信人拂ノ取扱ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

第五十七條 新聞電報ノ證書ヲ有スル者其ノ使用ノ要ナキニ至リタルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ届出テ之ヲ返納スヘシ

附 則

第五十八條 本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年^六月^六遞信省令第十八號外國新聞電報規則同二十三年^九月^九遞信省令第六十二號同三十七年^六月^六遞信省令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

第五十九條 本令施行ノ際發信人ニ於テ使用スル料金豫納ノ通帳ハ本令ニ依ル豫納金通帳ト看做ス

第六十條 本令施行ノ際明治三十年^六月^六遞信省令第十八號外國新聞電報規則ニ依リ新聞電報ノ發信人タル者ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月間ヲ限リ本令ニ依リ認可ヲ受ケタル新聞電報ノ發信人ト看做ス

第四十六條第三項ノ規定ハ前項ノ發信人ニ之ヲ適用セス

第六十一條 本令施行ノ際料金受信人拂新聞電報ノ發送又ハ受領ノ許可ヲ有スル者ハ本令ニ依リ新聞電報料金受信人拂取扱ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ發信人ニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ一箇月以內ニ逓信大臣ニ申請シテ第五十一條ノ證票ノ交付ヲ受クヘシ

第五十一條第四項ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月間ハ前項但書ニ依リ證票ノ交付ヲ受ケサル者ニ之ヲ適用セス

〔參照〕

明治三十三年四月十日 逓信省令第六十二號ハ電信電話ニテ海外電報發受ノ件、同三十七年六月四日同第四十七號ハ外國電報ノ料金及其納付方ナリ

○内務省令第十六號

明治三十五年内務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月十二日

内務大臣 法學博士男齋平田東助

第二條第一號第二號ヲ左ノ通改正メ以下順次繰下ク

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

〔參照〕

内務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則(明治三十五年二月十八日)抄録

第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得

一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復権シタル者ハ此限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散者ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復権ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

四 禁治產者、準禁治產者

五 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

○内務省令第十七號

明治三十九年九月内務省令第二十七號醫師法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年七月十七日

内務大臣 法學博士男齋平田東助

第一條中「戶籍謄本」ノ下ニ「又ハ戶籍抄本」ヲ加フ

第三條第一項中「免許證」ノ下ニ「及戶籍謄本又ハ戶籍抄本」ヲ加フ

第九條ノ次ニ左ノ三條ヲ追加ス
 第九條ノ二 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
 第九條ノ三 醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ
 第九條ノ四 醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ但其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ
 第十五條中「科料」ニ改ム
 第十六條 第九條、第九條ノ二、第九條ノ三、第九條ノ四、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十二年法律第四十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

内務省令第二十七號醫師法施行規則(明治三十九年九月三日抄録)
 第一條第一項
 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍簿本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ
 第三條第一項
 醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ
 第十五條 第三條第一項、第四條第一項、第三項、第六條第二項第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十六條 第九條第十條第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○内務省令第十八號

明治三十九年九月内務省令第二十八號齒科醫師法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年七月十七日

内務大臣 法學博士男齋平田東助

第一條中「戸籍簿本」ノ下ニ「又ハ戸籍抄本」ヲ加フ
 第三條第一項中「免許證」ノ下ニ「及戸籍簿本又ハ戸籍抄本」ヲ加フ
 第八條ノ次ニ左ノ三條ヲ追加ス
 第八條ノ二 齒科醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
 第八條ノ三 齒科醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ
 第八條ノ四 齒科醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ但其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ
 第十四條中「科料」ニ改ム
 第十五條 第八條ノ二、第八條ノ三、第八條ノ四、第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十二年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

内務省令第二十八號齒科醫師法施行規則(明治三十九年九月三日抄録)
 第一條第一項
 齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍簿本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ

第三條第一項

齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

第十四號 第三條第一項第四條第一項第三項 第六條第二項 第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第九條第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○內務省令第十九號

病院醫院其ノ他診療所治療所ノ廣告ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年七月十七日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

第一條 病院醫院其ノ他公衆ノ需ニ應シ診療治療ヲ爲ス場所ノ設立者ハ業務上何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其ノ診療所、治療所ノ療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

前項診療所又ハ治療所ニ於テ診療治療ニ從事セシムル醫師又ハ齒科醫師ノ技能、療法又ハ經歷ニ關シテ亦前項ニ同シ但シ其ノ學位、稱號及專門科名ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 第一條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 設立者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス

設立者ハ其ノ代理人又ハ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

○大藏省令第四十三號

帝國鐵道會計現金受拂規則中左ノ通改正ス

明治四十二年七月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ必要アル場合ハ總裁豫メ其ノ額ヲ定メ出納官吏ヲシテ保管セシムルコトヲ得

〔參照〕

大藏省令第十九號帝國鐵道會計現金受拂規則(明治四十二年四月一日)抄錄

第三條 出納官吏毎日現金ノ受拂上殘金ヲ生シタルトキハ分任出納官吏ハ之ヲ所屬主任出納官吏ニ同納シ主任出納官吏ハ之ヲ金庫ニ預託スヘシ

出納員ノ取扱ニ係ル現金ハ毎日之ヲ所屬出納官吏ニ引繼クヘシ

○大藏省令第四十四號

鐵道院ニ於ケル鐵道、船舶、旅館並應舎ノ新營若ハ修繕工事請負ノ競争ニ加ハラムトスル者ハ會計規則第六十九條第一項ニ定メタル資格ノ外尙本令ノ定ムル資格ヲ具フルコトヲ要ス

明治四十二年七月十六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第一條 個人ニ在リテハ競争入札加入ノ際二年以來引續キ左ノ區別ニ從ヒ直接國稅ヲ納メタルコトヲ要ス

- 一 一口ニ付各自見積代金五千圓未滿 納稅年額二十圓以上
- 二 一口ニ付各自見積代金一萬圓未滿 納稅年額四十圓以上
- 三 一口ニ付各自見積代金五萬圓未滿 納稅年額七十圓以上
- 四 一口ニ付各自見積代金十萬圓未滿 納稅年額百圓以上
- 五 一口ニ付各自見積代金二十萬圓未滿 納稅年額百五十圓以上

六 一口ニ付各自見積代金二十萬圓以上 納稅年額二百圓以上

第二條 法人ニ在リテハ其ノ種類ニ依リ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 合名會社及合資會社ニ在リテハ出資額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルカ又ハ無限責任社員

ノ一八カ第一條ノ資格ヲ具フルコト

二 株式會社ニ在リテハ株金ノ拂込濟額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルコト

三 株式合資會社ニ在リテハ株金ノ拂込濟額ト出資額トノ總額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルカ

又ハ無限責任社員ノ一人カ第一條ノ資格ヲ具フルコト

四 外國會社ニ在リテハ規定ノ登記ヲ了シタルモノニシテ前各號ニ掲ケタル會社ト同種ノモノ又

ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ資格ヲ具フルコト

第三條 總噸數千噸以上ノ船舶製造ニ付テハ第一條又ハ第二條ニ掲ケル資格ノ外左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 總噸數千噸以上ノ船舶ヲ製造スルニ適當ナル工場ヲ有シ且同一噸數ノ船舶ヲ製造シタル經驗ヲ有スルコト

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第四十五號

明治三十七年五月大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則中左ノ通改正シ明治四十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月三十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第三十一條第一項中「現品ヲ引取ルヘシ」ノ下ニ「若シ十日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當保

管料ヲ徵ス」ヲ加ヘ但シ以下ヲ別項トシ「但シ政府ヨリ買受クル」ヲ輸出ノ爲買受クル葉煙草ノ代

加フ

金一回五千圓又ハニ改ム

同條第二項中「常時」ノ下ニ「葉煙草又ハ」ヲ「毎回ノ買受代金」ノ下ニ「葉煙草ハ五千圓製造煙草ハ」ヲ

同條第三項 削除

同條第四項中「製造煙草」ヲ「葉煙草又ハ製造煙草」ニ改ム

同條第五項中「第一項但書及ヒ第二項ノ場合」ヲ「第二項及第三項ノ場合」ニ改ム

本令中「煙草專賣局」ヲ「專賣局」ニ「煙草專賣局長」及「煙草專賣局長官」ヲ「專賣局長官」ニ「葉煙草收

納所」ヲ「專賣支局」ニ「葉煙草收納所長」ヲ「專賣支局長」ニ「煙草製造所」ヲ「煙草專賣官署」ニ改ム

〔參照〕

大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則(明治三十七年五月二十八日)抄録

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ煙草專賣局長

官ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ但シ政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回一萬

五千圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

輸出ノ爲常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債證券ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スル

迄代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金壹萬五千圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

前二項ノ國債證券ノ價格ハ明治三十八年勅令第二十號ニ規定セラレタル國債證券ニ就キテハ該勅令ノ規定ニ依リテ算定

シ其ノ他ノ國債證券ニ就キテハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ算定シ第二項ノ場合ニ於テ

ハ毎年四月之ヲ改算ス

製造煙草ノ代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ國債證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第一項但書及ヒ第二項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收済ノ日ヨリ起算シ三箇月以内ニ完納スヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セムトスルトキハ所管煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

○陸軍省令第十二號

馬匹調査及検査施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年七月二十六日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

馬匹調査及検査施行規則

第一章 調査

- 第一條 年齢^{算ハ年ヲ謂}四歳ノ馬ノ所有者ハ十一月一日調ヲ以テ其ノ馬ノ名稱、性、用役、體尺、毛色、別徵及種類ヲ同月十日迄ニ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ
 - 前項ノ馬ニシテ産地明瞭ナルモノハ併テ之ヲ届出ルモノトス
 - 第二條 外國又ハ本規則ヲ施行セサル地ヨリ馬ヲ牽入レタルトキ、官廳ヨリ馬ノ拂下ヲ受ケタルトキ又ハ徵發令第十四條ニ該當スル馬ニシテ徵發免除ノ資格消滅シタルトキハ所有者ヨリ其ノ馬ノ年齢及前條ノ事項ヲ十日以内ニ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ但シ年齢三歳以下ノ馬及前條ニ依リ届出ヲ爲スヘキ馬ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 第三條 前二條ノ馬ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所有者ヨリ十日以内ニ其ノ旨ヲ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ但シ第六號ノ場合ニ在リテハ新舊兩地ノ市町村長ニ届出ヲ爲スモノトス
 - 一 死亡シタルトキ
 - 二 名稱ヲ變更シ又ハ去勢ヲ行ヒタルトキ
 - 三 徵發免除ノ資格ヲ生シタルトキ
 - 四 失踪盜難等ニ依リ所在不明ト爲リ三月ヲ經過シタルトキ又ハ所在不明ト爲リタル馬ヲ回收シタルトキ
 - 五 現住ノ市町村外ニ飼養シ又ハ飼養地ヲ現住ノ市町村内ニ移シタルトキ
 - 六 所有者ト共ニ他ノ市町村ニ移轉シタルトキ
 - 七 賣渡贈與等ニ依リ馬ヲ手離シタルトキ
 - 八 買受受贈等ニ依リ馬ヲ牽入レタルトキ
- 前項第七號ノ場合ニ於テハ新所有者、第八號ノ場合ニ於テハ舊所有者ノ住所氏名並該馬ニ係

- ル第一條ノ事項ヲ届出ルコトヲ要ス
 - 第四條 市町村長第一條第二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ馬名簿^{第一號}ヲ調製スヘシ馬名簿ナキ馬ニ付牽入届アリタルトキ亦同シ
 - 第五條 市町村長第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ馬名簿ニ必要ノ記入訂正ヲ爲シ他ノ市町村ニ轉出シタル馬ニ在リテハ馬名簿ヲ轉出先ノ市町村長ニ送付スヘシ
 - 第六條 市町村長ハ左ノ區分ニ依リ馬名簿ヲ分類保管スヘシ但シ死亡シ又ハ徵發免除ノ資格ヲ生シタル馬及外國又ハ本規則ヲ施行セサル地ニ轉出シタル馬ノ名簿ハ此ノ限ニ在ラス
 - 甲 乙及丙ニ該當セサルモノ
 - 乙 所在不明ト爲リタルモノ
 - 丙 第二十三條ニ該當スルモノ
 - 第七條 町村長ハ毎年十一月一日調ヲ以テ馬調査表^{第二號}ヲ調製シ同月二十五日迄ニ郡長ニ差出スヘシ
 - 第八條 郡長ハ前條ノ馬調査表ニ依リ郡内ヲ通シタル馬調査表^{第二號}ニ通ヲ調製シ十二月十日迄ニ徵馬管區^{馬匹徵發事務細則}所管ノ師團長ニ差出スヘシ
 - 第九條 市長ハ第七條ニ準シ馬調査表ニ通ヲ調製シ毎年十二月十日迄ニ徵馬管區所管ノ師團長ニ差出スヘシ
 - 第十條 師團長ハ前二條ノ馬調査表ノ内一通ヲ十二月二十五日迄ニ軍馬補充部本部長ニ送付スヘシ
- 軍馬補充部本部長ハ徵馬管區別馬調査一覽表、全徵馬管區馬合計表及各徵馬管區馬調査表ヲ調製シ翌年一月三十一日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第十一條 師團長ハ隨時部下ヲシテ所管徵馬管區内ノ市町村ニ於テ保管スル馬名簿ヲ點檢セシムルコトヲ得

第二章 検査

第十二條 師團長ハ毎年左ノ委員ヨリ成ル検査班一箇又ハ數箇ヲ編成シ所管徵馬管區内ニ於ケル馬ノ検査ヲ行フヘシ

地方馬検査委員長 騎砲、輜重兵科佐官又ハ大尉一人

地方馬検査委員 騎砲、輜重兵科尉官、獸醫部士官一人又ハ二人

第十三條 馬検査場ハ通常検査ヲ受ケヘキ馬ノ所在地ヨリ一日間ニ往復シ得ル區域内ニ設クルモノトス但シ一地ニ多數ノ馬アルトキハ特ニ其ノ馬ノ所在地ニ検査場ヲ設クルコトヲ得

第十四條 師團長ハ豫メ検査ノ時期、検査スヘキ馬ノ資格年齢、體尺等ノ資格ヲ指ス、一日間ニ検査スヘキ概數、検査場ノ豫定位置其ノ他必要ノ事項ヲ關係郡市長ニ通達シ其ノ旨ヲ當該地方長官ニ通報スヘシ

第十五條 郡市長前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ馬検査下調表第三號ヲ指スヲ調製シ師團長ニ差出スヘシ

第十六條 師團長ハ前條ノ下調表ヲ參照シテ検査場ノ位置、検査ノ日割其ノ他必要ノ事項ヲ決定シ關係郡市長ニ通達スヘシ

第十七條 師團長ハ検査施行一月前之ニ關スル計畫ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十八條 郡長前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ必要ノ事項ヲ關係町村長ニ通達スヘシ

第十九條 町村長前條ノ通達ヲ受ケタルトキハ馬ノ出場日割ヲ定メ其ノ他必要ノ事項ト共ニ検査ヲ受ケヘキ馬ノ所有者ニ通知スヘシ

第二十條 町村長前項ノ通知ヲ爲シタル後新ニ牽入ヲ爲シタル馬アルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ其ノ所有者變更シタルトキ亦同シ

第二十一條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ前條ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十三條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十四條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十五條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十六條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十七條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十八條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十九條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十一條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十二條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十三條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十四條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十五條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十六條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十七條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十八條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第三十九條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十一條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十二條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十三條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十四條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十五條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十六條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十七條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十八條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四十九條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五十條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五十一條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五十二條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五十三條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五十四條 市長第十六條ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ都度所有者ニ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十六條 師團長ハ毎年検査終了後一月以内ニ検査ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三章 雜則

第二十七條 本規則ハ徵發令第十四條ニ該當スル馬及官廳所屬ノ馬ニ之ヲ適用セス
第二十八條 馬ノ所有者ハ本規則ニ依ル届出及検査ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ馬ノ管理人ヲ置クコトヲ得

前項管理人ハ馬所在ノ市町村ニ居住スル者ニ限ル

第二十九條 馬ノ所有者前條ノ管理人ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シ若ハ廢止シタルトキハ十日以内ニ其ノ住所氏名ヲ管理人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第三十條 馬ノ共有者ハ共有者中ヨリ一人ノ總代人ヲ定メ共有者連署ノ上其ノ住所氏名ヲ十日以内ニ總代人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ其ノ總代人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十一條 本規則中馬ノ所有者ニ關スル規定ハ馬ノ管理人及前條ノ總代人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 本規則ニ依ル届出ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 本規則中市トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區、市長トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在リテハ區長、郡長トアルハ北海道ノ郡ニ在リテハ支廳長、對馬ニ在リテハ島司、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戸長及之ニ準スヘキ者ニ該當ス

第三十四條 本規則中馬ノ性、用役、年齢、體尺、種類、毛色及別徵ノ記載方ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 性ハ「牡」騾又ハ「牝」ト記載ス但シ牡トハ去勢ヲ行ハサルモノ、騾トハ去勢ヲ行ヒタルモノヲ謂フ
- 二 用役ハ「乘馬」鞍馬又ハ「用役未定」ト記載ス但シ乘馬トハ乘用馬、鞍馬トハ馬車馬、荷馬

車馬及耕馬、馱馬トハ農馬及貨馱馬、用役未定トハ未タ一定ノ役務ニ服セサルモノヲ謂フ

三年齡ハ明治何年何歳ト記載ス但シ總テ算ヘ年ニ依ル

四 體尺ハ明治何年何尺何寸何分ト記載ス但シ警甲ノ最モ高キ處ヲ謂フヨリ地面ヘ垂直ニ測ルモノトス

五 種類ハ「洋種」雜種又ハ「和種」ト記載ス

六 毛色及別徵ハ附録ノ規定ニ依リ記載ス

第四章 罰則

第三十五條 第一條第二條第三條第二十九條又ハ第三十條ノ届出ヲ怠リタル者、第二十一條ニ違反シタル者及詐偽ノ行爲ヲ以テ検査ヲ免レ又ハ免レントシタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本規則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則ハ沖繩縣及北海道所屬ノ島嶼其ノ他町村制ヲ施行セサル島嶼除クニハ當分ニ之ヲ施行セス

本規則施行ノ際年齢四歳以上ノ馬ニ付テハ從前ノ馬匹現在届又ハ馬匹出入届ニ依リ市町村長ニ於テ第四條ノ馬名簿ヲ調製スヘシ

第一號書式(用紙美濃紙)

馬名簿		調製役場	
何郡何村役場印		受領年月日	
名 稱 「何々」	體 尺	年月日	何郡何村役場
		年月日	何郡何村役場
毛 色 「栗毛」	「明治何年何尺何寸何分」	年月日	何郡何村役場
		年月日	何郡何村役場
「明治何年何尺何寸何分」(検査)		保管 役場	

瘡	創傷ニ依ル瘡ヲ謂フ其ノ前際ニ在ルモノヲ特ニ冠膝ト謂フ
岩	筋肉ノ一部露ミテ皮上ニ陥凹ヲ呈スルモノヲ謂フ
烙印	頸、腕、肢等ノ一部ニ烙印アルモノハ部位ト烙印ノ原形ヲ併稱スルモノトス
右ノ外局所ノ刺毛、裂(裁)痕等ニシテ別徴ト爲ルヘキモノハ之ヲ記載シ又異毛、癩痕及岩陷ハ其ノ部位ヲ併記スルモノトス	

○司法省令第十四號
公證人法施行細則左ノ通相定ム

明治四十二年七月十二日

公證人法施行細則

司法大臣 子爵岡部長職

- 第一條 公證人司法大臣ノ指定シタル地ニ其ノ役場ヲ設ケムトスルトキハ其ノ位置及建物ノ構造ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ
- 役場ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク司法大臣ニ届出ツヘシ
- 第二條 前條ノ規定ハ役場ヲ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三條 公證人ハ其ノ役場ニ公證人某役場ト記載シタル表札ヲ掲クヘシ
- 第四條 公證人ノ納ムヘキ身元保證金ノ額ハ左ノ區別ニ從フ
- 東京市及大阪市ニ役場ヲ設クル者 金千圓
 - 人口十萬以上ノ地ニ役場ヲ設クル者 金七百圓
 - 人口三萬以上ノ地ニ役場ヲ設クル者 金五百圓
 - 其ノ他ノ地ニ役場ヲ設クル者 金二百圓

第五條 公證人ノ納ムヘキ身元保證金ハ現金ニ代ヘ國債證券、日本勸業銀行發行勸業債券及貯蓄

第六條 公證人期間内ニ身元保證金又ハ其ノ補充額ヲ納メサルトキハ所屬地方裁判所長ハ速ニ其

第七條 公證人法第二十條第一項ノ公告ハ地方裁判所之ヲ爲ス

第八條 公證人ノ職印ハ方六分トシ公證人何某ト彫刻スヘシ

第九條 公證人ノ作ルヘキ證書其ノ他ノ書面ノ用紙ハ某地方裁判所管内公證人役場ト刻シタル強

第十條 公證人法ニ依リ提出スヘキ印鑑證明書ニハ氏名、住所ノ外年齢ノ記載アルコトヲ要ス

第十一條 公證人法律行為ニ付證書ヲ作成シ又ハ認證ヲ與フル場合ニ於テ其ノ法律行為ノ有效ナ

第十二條 公證人法律行為ニ非サル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テ其ノ事實ニ因リ影響ヲ受

第十三條 法律行為ニ付テノ證書ノ再度ノ正本ノ交付ヲ請求スル者アル場合ニ於テ其ノ正本ヲ要

第十四條 公證人囑託ヲ拒ミタル場合ニ於テ囑託人ノ請求アルトキハ其ノ理由書ヲ交付スヘシ

第十五條 公證人役場ニハ證書原簿、認證簿及確定日附簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 受附簿

二 拒絕證書簿

第十六條 證書原簿、認證簿及受附簿ハ附錄第一號乃至第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十七條 公證人囑託ヲ受ケタルトキハ受附簿ニ受附月日、受附番號、件名及囑託人ノ氏名、住所ヲ

記載シ職務ノ完結後證書ノ番號又ハ登簿番號並手数料、日當及旅費ノ額ヲ記入スヘシ

第十八條 受附番號ハ一曆年毎ニ之ヲ更新スヘシ

第十九條 同時ニ數箇ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ハ一

通ヲ提出スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ受附番號ノ最少キモノニ其ノ證明書ヲ連綴シ其ノ他ノ囑託ニハ其ノ旨ヲ記

載シタル書面ヲ作り之ヲ連綴スヘシ

第二十條 證書原簿及受附簿ニ囑託人ノ氏名、住所ヲ記載スル場合ニ於テ囑託人多數ナルトキハ

當事者雙方各一人ノミノ氏名、住所及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十一條 證書ノ原本ハ番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ

囑託ニ關シ提出シタル書類ニシテ原本ニ連綴スヘカラサルモノハ之ニ表紙ヲ附シ件名及受附番

號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ

第二十二條 公證人ハ其ノ役場ニ附屬スル倉庫又ハ堅牢ナル建物内ニ書類ヲ保存スヘシ

第二十三條 公證人法第六十八條、第六十九條及第七十一條乃至第七十三條ニ依リ書類ノ授受ヲ

爲ス場合ニ於テハ目錄ヲ作り其ノ末尾ニ授受ノ事由及年月日ヲ記載シ授受者及立會官吏之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ目錄ハ作成ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ謄本ヲ所屬地方裁判所ニ差出スヘシ

第二十四條 公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ自己ノ役場ニ於テ前任者ノ事務ヲ取扱フコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第二十五條 代理者又ハ公證人法第七十二條ノ兼務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所ニ代理

者某又ハ兼務者某ナルコトヲ揭示スヘシ

第二十六條 後任者又ハ公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所

ニ公證人某ノ後任者又ハ公證人某ノ取扱ヒタル事務ニ付テノ兼務者ナルコトヲ揭示スヘシ但シ

後任者ノ爲スヘキ揭示ノ期間ハ一年トス

第二十七條 後任者ノ作成スル文書ノ番號ハ前任者又ハ兼務者ノ作成シタル文書ノ番號ノ順序ヲ

追ヒテ之ヲ記載スヘシ

第二十八條 地方裁判所長ハ公證人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬公證人ノ住所、族稱氏名、年齢及役場所在

地ヲ登錄スヘシ

第二十九條 公證人ノ死亡又ハ失職ノ場合ニ於テハ所屬地方裁判所長ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ

具申スヘシ

第三十條 公證人司法大臣ニ書面ヲ提出スル場合ニ於テハ所屬地方裁判所長ヲ經由スヘシ但シ

急ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ同時ニ地方裁判所長ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十一條 公證人事務取扱ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

第三十二條 收入印紙ヲ以テ手数料、日當及旅費ヲ區裁判所ニ納付スル場合ニ於テハ納付書ニ其

ノ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公證人法第三十六條第一號ニ依リ記載スヘキ證書ノ番號ハ公證人規則ニ依リ附シタル番號ノ順序

ヲ追ヒテ之ヲ記載スヘシ

附錄第一號

證書原簿

地方裁判所所屬
公證人 役場

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所所屬

考備	年月日	及氏名	ノ住所	囑託人	種證書ノ類	證書之類	證書之號	證書原簿											
								考備	年月日	及氏名	ノ住所	囑託人	種證書ノ類	證書ノ類	證書之號				

附錄第二號

認證書簿

地方裁判所所屬
公證人 役場

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所所屬

印者	署名捺	證書ノ類	及氏名	ノ住所	囑託人	認證書之類	認證書之號	認證書簿											
								印者	署名捺	證書ノ類	及氏名	ノ住所	囑託人	認證書ノ類	認證書之號				

附錄第三號

受附簿

地方裁判所所屬
公證人 役場

月日	受附番號	件名	囑託人姓名	手数料及旅費	備考
月 日	第 號				
月 日	第 號				
月 日	第 號				

月日	受附番號	件名	囑託人姓名	手数料及旅費	備考
月 日	第 號				
月 日	第 號				
月 日	第 號				

○司法省令第十五號
公證人法第十條第二項ニ依リ公證人ノ定員左表ノ通相定ム
本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年七月十二日

司法大臣 子爵岡部長職

公證人定員表

地方裁判所	區裁判所	定員
東京	區裁判所	二
八王子	區裁判所	一
東京	區裁判所	一
八丈島	區裁判所	一

水戸			千葉										横濱		父島		
下妻	龍ヶ崎	麻生	土浦	太田	水戸	北條	木更津	佐原	八日市場	一宮木郷	佐倉	松戸	千葉	小田原	横須賀	横濱	一
前橋			浦和							宇都宮				宇都宮			
靜岡	高崎	太田	中之條	沼田	前橋	大宮	熊谷	川越	幸手	越ヶ谷	浦和	佐野	栃木	大田原	真岡	宇都宮	二
長野			甲府				静岡				沼津	藤枝					
上田	伊那	飯田	福島	大町	上諏訪	松本	飯山	長野	谷村	甲府	掛川	濱松	吉原	下田	沼津	藤枝	一
京都			新潟										岩村田				
福知山	峰山	宮津	園部	木津	伏見	京都	相川	糸魚川	高田	六日町	柏崎	長岡	村上	新發田	三條	新潟	岩村田

廣島										富山					金澤						
庄	三	竹	吳	廣	杉	高	魚	富	飯	輪	高	七	大	小	金	小	致				
原	次	原		島	木	岡	津	山	田	島	濱	尾	聖	松	澤	濱	賀				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
松江										山口											
大	松	西	益	大	濱	今	木	松	船	赤	萩	柳	岩	徳	山	福	尾				
洲	山	郷	田	森	田	市	次	江	木	間		井	國	山	山	山	道				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鳥取					岡山					松山											
大	長	溝	米	倉	鳥	勝	津	笠	玉	新	高	片	岡	宇	今	西	八				
村	崎	口	子	吉	取	山	山	岡	島	見	梁	上	山	和	治	條	幡				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
福岡					佐賀					長崎											
小	柳	福	吉	久	飯	甘	福	伊	唐	武	佐	殿	福	武	佐	平	島				
倉	河	島	井	留	塚	木	岡	萬	津	雄	賀	原	江	生	世	月	原				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

神戶					奈良					大阪									
洲	柏	篠	明	伊	神	五	高	松	奈	富	岸	堺	枚	茨	池	大	舞		
本	原	山	石	丹	戸	條	田	山	真	田	和		方	木	田	阪	鶴		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山					大津														
撫	徳	新	御	田	妙	和	長	彦	今	八	水	大	村	豊	龍	社	姫		
送	島	宮	坊	邊	寺	歌	濱	根	津	幡	口	津	岡	岡	野		路		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
名古屋					高松					高知					徳島				
西	岡	半	津	一	名	觀	丸	三	高	中	須	赤	安	高	川	脇	富		
尾	崎	田	島	ノ	古	音	龜	木	松	村	崎	岡	藝	知	島	町	岡		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井					岐阜					安濃津									
大	武	三	福	高	御	大	八	岐	木	山	上	龜	四	松	安	新	豊		
野	生	國	井	山	嵩	垣	幡	阜	木	田	野	山	日	阪	濃	城	橋		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

熊本										大分									
天草	人吉	高嶺	山鹿	八代	宮地	御船	三角	淵本	豆田	玉津	中津	杵築	竹田	佐伯	白杵	大分	行	事	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
仙臺					那覇					宮崎					鹿児島				
石卷	古川	大河原	仙臺	八重山	宮古	那覇	高千穂	延岡	都城	低尾	宮崎	大島	水引	鹿屋	加治木	知覧	鹿児島		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形										福島									
遠野	花巻	盛岡	鶴岡	酒田	長井	米澤	新庄	山形	田島	若松	平河	白河	中村	郡山	福島	氣仙沼	登米		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森					秋田					盛岡									
八戸	五所川原	陸奥	弘前	野辺地	青森	湯澤	横手	大曲	花輪	大館	能代	本荘	秋田	水澤	磐井	宮古	盛岡		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

函館				江差				函館			
札	森	函	江	森	函	江	函	札	森	函	江
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
札幌				旭川				旭川			
小樽	稚内	増毛	浦河	小樽	稚内	増毛	浦河	小樽	稚内	増毛	浦河
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
室蘭				室蘭				室蘭			
網走	紗那	根室	岩内	網走	紗那	根室	岩内	網走	紗那	根室	岩内
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樺太				樺太				樺太			
マウカ	ウラジミ	ウラジミ	ウラジミ	マウカ	ウラジミ	ウラジミ	ウラジミ	マウカ	ウラジミ	ウラジミ	ウラジミ
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

○司法省令第十六號

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ノ納ムル手数料ニ關スル件左ノ通相定ム
 明治四十二年七月二十日
 司法大臣 子爵岡部長職

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ハ毎一件ニ付手数料三十錢ヲ納ムヘシ
 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十一年司法省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治三十一年七月十日 司法省令第十一號ハ本號ト同伴ナリ

○文部省令第十八號

鹿児島高等農林學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生及選科生ニ關スル規程ヲ定ムル
 コト左ノ如シ

明治四十二年七月七日

文部大臣 小松原英太郎

鹿兒島高等農林學校規程

- 第一條 鹿兒島高等農林學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 學科ハ分チテ農學科及林學科トス
- 第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

農學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	每週	教授	時數	每週	教授	時數	每週	教授	時數
倫理	-			隨時	隨時	隨時	隨時	隨時	隨時
作物	-			二	二	二	二	二	二
園藝				二	二	二	二	二	二
地質土壤及土地改良	二						二	二	二
肥料				二	二	二	二	二	二
農具							二	二	二
測量及製圖	-								
畜産				三	三	三	三	三	三
獸醫學大意									
養蠶	(三)=			(三)=					
農産製造							三	三	三

農業經濟及行政							三	三	三
殖民政策							二	二	二
法律及經濟	二								
物理及氣象	三			三			三	三	三
化學	四			四					
分析化學						六	六	六	六
動物及昆蟲	二			二	三	三	三	三	三
植物及植物病理	二			二	三	三	三	三	三
植物營養論						三	三	三	三
細菌學				二					
林學大意					三	三	三	三	三
教育學									
外國語	四			四			四	四	四
體操	二			二					
合計	(三)五			(六)六			(無定時)三六	(一)二六	(二)二六
實習	無定時			同上			同上	同上	同上

備考 教育學殖民政策及三年生ノ分析化學ハ志望者ニノミ之ヲ課ス。教授時數中括弧ヲ附スルモノハ實験ノ時數トス

林學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	1	1	1	隨時	隨時	隨時	隨時	隨時	隨時
造林及保護				(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3
森林數學及經理				(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3
森林利用及林產製造				(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3
森林土木				(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3
經濟學	2	2	2						
財政學				2	2	2			
森林政策及木材商況							(-)3	(-)3	(-)3
森林行政及現行法規							(-)3	(-)3	(-)3
法律及行政大意				2	2	2			
數學	4	3	3						
森林測量及製圖		(-)3	(-)3	(-)3	(-)3	(-)3			
物理及氣象	3	3	3	(-)3	(-)3	(-)3			
化學及分析	2	2	2	(-)3	(-)3	(-)3			
森林動物及昆蟲	2	2	2						

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
森林植物及樹病	(-)2	2	2						
地質及土壤	2	2	2						
狩獵									
農學大意									
外國語	6	6	6	5	5	5	4	4	4
體操	2	2	2						
合計	(-)6	(-)8	(-)7	(-)5	(-)6	(-)5	(-)7	(-)6	(-)6
行政事務見習									
實習及演習	無定時	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	無定時

備考 行政事務見習ハ第三學期中之ヲ課ス 教授時數中括弧ヲ附スルモノハ實験ノ時數トス

實習又ハ實験等ノ爲必要アルトキハ學校長ニ於テ臨時前項ノ每週教授時數ヲ増減スルコトヲ得

第四條 卒業者ニシテ既習ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスル者ハ研究生トシテ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ選擇シテ學修セントスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得

○農商務省令第三十一號
 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ營業ノ免許狀ニ關スル手数料左ノ通相定ム
 明治四十二年七月一日
 農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ營業ノ免許狀ニ關シ左ニ掲グル出願ヲ爲ス者ハ手数料

- トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
- 一 免許狀ノ更正願 每一件 金二十錢
 - 二 免許狀ノ書換願 每一件 金五十錢
 - 三 免許狀ノ再下付願 每一件 金五十錢
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第三十二號

種畜種付規則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月二日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 第一項第一號中「年齡滿十箇月以上」ノ下「牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ年齡滿十八箇月以上」ヲ加フ

第一條 第三條、第四條、第五條、第六條、第九條、第十條、第十三條及第十四條中「牝牛又ハ牝豚」ヲ「牝牛、牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊」ニ改ム

第一條及第十一條中「種牝牛又ハ種牝豚」ヲ「種牝牛、種牝豚、種牝緬羊又ハ種牝山羊」ニ改ム

第二條中「種牝牛及種牝豚」ヲ「種牝牛、種牝豚、種牝緬羊及種牝山羊」ニ改ム

第三條第三項中「牝豚ニ在リテハ五十日間」ヲ「牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ五十日間」ニ改ム

第六條第一項中「牝豚ニ在リテハ三十日以内」ヲ「牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ三十日以内」ニ改ム

第七條中「牝豚ニ在リテハ」ヲ「牝豚、牝緬羊又ハ牝山羊ニ在リテハ」ニ改ム

第九條中「種牝牛若ハ種牝豚」ヲ「種牝牛、種牝豚、種牝緬羊若ハ種牝山羊」ニ改ム

第九條 第十四條及第十五條中「牝牛若ハ牝豚」ヲ「牝牛、牝豚、牝緬羊若ハ牝山羊」ニ改ム

第十三條及第十四條中「仔牛又ハ仔豚」ヲ「仔牛、仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊」ニ改ム

第十四條及第十五條中「仔牛若ハ仔豚」ヲ「仔牛、仔豚、仔緬羊若ハ仔山羊」ニ改ム

第十四條中「仔豚ノ數」ヲ「仔豚、仔緬羊又ハ仔山羊ノ數」ニ改ム

附屬第一號様式ノ二中「種牝豚」ノ下「(緬羊)(山羊)」ヲ、「何種牝豚」ノ下「(緬羊)(山羊)」ヲ加フ

同第二號様式中「(豚)」ノ下「(緬羊)(山羊)」ヲ加フ

〔參照〕

農商務省令第十三號種畜種付規則(明治四十年五月二十一日)抄録

- 第一條 左ニ掲グル資格ヲ有スル牝牛又ハ牝豚ノ所有者又ハ管理者ハ種牛牧場ニ種牝牛又ハ種牝豚ノ種付ヲ出願スルコトヲ得
- 一 牝牛ニ在リテハ年齡滿二歳以上牝豚ニ在リテハ年齡滿十箇月以上ナルコト
 - 一 牝牛ニ在リテハ身幹四尺以上ニ達シ又ハ體格均稱宜シキモノナルコト
 - 一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト
 - 一 體格優等、體質健全ナルコト
- 前項ノ出願ヲ爲サントスル者ハ第一號様式ニ依ル願書ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ
- 第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ期日及場所ヲ定メ出願人ヲシテ牝牛又ハ牝豚ヲ索付ケシメ第一條第一項各號ノ事項ヲ検査シ検査ニ合格シタル牝牛又ハ牝豚ニ付種付合格證ヲ交付スヘシ
- 前項ノ期日及場所ニ牝牛又ハ牝豚ヲ索付ケサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ
- 種付合格證ハ牝牛ニ在リテハ百日間牝豚ニ在リテハ五十日間有效トス
- 種付ヲ受クヘキ牝牛又ハ牝豚カ種付合格證下付後第一條第一項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ種付合格證ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第六條 牝牛又ハ牝豚第一回ノ種付ヲ以テ受胎セサル場合ニ於テハ第一回種付ノ日ヨリ牝牛ニ在リテハ六十日以内牝豚ニ在リテハ三十日以内ニ於テ第二回ノ種付ヲ請求スルコトヲ得
- 第九條ニ依リ種付施行ヲ延期シタル日數ハ前項ノ期間ニ之ヲ算入セス
- 第三條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ種付合格證ノ有效期間ヲ經過シタルモノ、外牝牛又ハ牝豚ノ検査ヲ行ハス

第七條 種付ヲ受クル者ハ第一回ノ種付ヲ受ケムトスル際種付料トシテ牝牛ニ在リテハ一頭ニ付金三圓牝豚ニ在リテハ一頭ニ付金二圓ヲ納付スヘシ
前條ニ依ル第二回ノ種付ニ付テハ種付料ヲ要セス

○遞信省令第二十七號

工事(船舶ヲ含ム)請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ規定セル資格ノ外仍左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

明治四十二年七月八日

遞信大臣 男爵後藤新平

- 第一條 工事(船舶ヲ含ム)請負ノ競争ニ加ラントスル者ハ競争入札加入ノ際二年以來引續キ左ノ區別ニ從ヒ直接國稅ヲ納ムルコトヲ要ス
 - 第一 一口ニ付各自見積金額五千圓未滿 納稅年額十圓以上
 - 第二 一口ニ付各自見積金額一萬圓未滿 納稅年額二十五圓以上
 - 第三 一口ニ付各自見積金額五萬圓未滿 納稅年額五十圓以上
 - 第四 一口ニ付各自見積金額十萬圓未滿 納稅年額百圓以上
 - 第五 一口ニ付各自見積金額二十萬圓未滿 納稅年額百五十圓以上
 - 第六 一口ニ付各自見積金額二十萬圓以上 納稅年額二百圓以上
- 第二條 合名會社及合資會社ニ在リテハ拂込ヲ爲シタル出資額カ其ノ見積金額ノ二倍以上ナルカ又ハ合名會社ニ在リテハ其ノ社員ノ一人、合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ一人カ第一條ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス
- 第三條 株式會社ニ在リテハ拂込ヲ爲シタル株金額カ其ノ見積金額ノ二倍以上ナルコトヲ要ス
- 第四條 株式合資會社ニ在リテハ拂込ヲ爲シタル株金ト出資トノ總額カ其ノ見積金額ノ二倍以上ナルカ又ハ無限責任社員ノ一人カ第一條ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

第五條 民法第三十五條ニ依リ設立シタル社團法人ニ在リテハ其ノ準スヘキ會社ト同一ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

第六條 外國會社ニ在リテハ第二條乃至第五條ニ掲ケタル會社ト同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

第七條 沖繩諸島小笠原島及海外ニ於テ競争入札ヲ執行スル場合ニハ當分ノ内本令ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年五月遞信省令第二十二號ハ鐵道船舶並ニ隱合營業工事請負競争者資格ノ件ナリ

〔參照〕

明治三十三年八月十遞信省令第二十二號ハ鐵道船舶並ニ隱合營業工事請負競争者資格ノ件ナリ

○遞信省令第二十八號

明治三十三年四月遞信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則中左ノ通追加ス

明治四十二年七月十四日

遞信大臣 男爵後藤新平

第十四條 料金受信人拂新聞電報ハ之ヲ取扱ハス

○遞信省令第二十九號

佐世保、大連及芝罘間海底線ヲ經由シテ帝國ト在清國芝罘帝國郵便局トノ間ニ發著スル普通電報並帝國海岸局ノ媒介ニ依リ且佐世保、大連及芝罘間海底線ヲ經由シテ帝國船舶局ト在清國芝罘帝國郵便局トノ間ニ發著スル無線電報ニ關シテハ明治三十三年四月遞信省令第八號本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則ヲ準用ス但シ歐文電報ハ帝國政府官報ヲ除クノ外之ヲ取

扱ハス

本令ハ明治四十二年七月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月十五日

○遞信省令第三十號

大連芝罘間海底線ヲ經由シテ在清國芝罘帝國郵便局ト在韓國又ハ清國滿洲帝國通信官署トノ間ニ發著スル電報ニ關シテハ明治三十八年^六月^六遞信省令第四十號韓國內電報規則ヲ準用ス但シ歐文電報ハ帝國政府官報ヲ除クノ外之ヲ取扱ハス

本令ハ明治四十二年七月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月十五日

○遞信省令第三十一號

大連芝罘間海底線ヲ經由シテ在清國芝罘帝國郵便局ト在韓國又ハ清國滿洲帝國通信官署トノ間ニ發著スル新聞電報ニ關シテハ明治三十九年^{十二}月^{十二}遞信省令第六十一號新聞電報規則ヲ準用ス但シ第二條第一項ノ料金ハ五十字又ハ其ノ未滿每ニ金三十錢トシ第十五條ノ規定ハ之ヲ除ク

本令ハ明治四十二年七月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月十五日

○遞信省令第三十二號

郵便爲替規則、勸業債券購買媒介郵便規則、郵便貯金規則、郵便振替貯金規則及郵便電信電話官署現金受拂規則中「郵便爲替貯金管理所」トアルヲ「郵便貯金局」ニ「郵便爲替貯金管理支所」トアルヲ「郵便貯金支局」ニ「同支所」トアルヲ「同支局」ニ改ム

遞信大臣 男爵後藤新平

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月二十四日

○遞信省令第三十三號

明治四十二年^六月^六遞信省令第二十三號中左ノ通改正シ本日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月二十四日

「通信官署職員共濟組合規則」ヲ「郵便貯金局及通信官署職員共濟組合規則」ニ改ム

第一條中「通信官署」ノ上ニ「郵便貯金局」及「追加」

第二條中「郵便爲替貯金管理所」ヲ「郵便貯金局長」ニ改ム

第五條中「通信官署」ノ上ニ「郵便貯金局」及「追加」

第十七條第二項中「通信官署」ヲ「當該官署」ニ改ム

第三十三條中「遞信省」又ハ「通信官署」ヲ「遞信省、郵便貯金局」又ハ「通信官署」ニ改ム

遞信大臣 男爵後藤新平

遞信大臣 男爵後藤新平

○外務省令第六號

明治四十二年五月外務省令第五號外國在留帝國臣民登錄規則中左ノ通り改正ス

明治四十二年八月十六日

外務大臣 伯爵小村壽太郎

第十一條 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前外國ニ在留スル帝國臣民ハ明治四十三年九月三十日迄ニ本令ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スコトヲ要ス

〔参照〕

外務省令第五號外國在留帝國臣民登錄規則(明治四十二年五月七日)抄録

第十一條 本令ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前外國ニ在留スル帝國臣民ハ明治四十三年三月三十一日マテニ本令ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スコトヲ要ス

○内務省令第二十號

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用井ムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官東京府ニ於テハ警視總監ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以內ノ罰金情ヲ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ彰表物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス
本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年内務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年八月十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

〔參照〕

明治三十三年五月二日 內務省令第二十六號 八本號 同伴ナリ

○內務省令第二十一號

明治三十年三月三日 內務省令第四號 阿片法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年八月十三日

內務大臣 法學博士 勇爵 平田 東助

第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セムトスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ東京衛生試驗所ニ申出ヘシ但シ現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ 地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ附記シテ東京衛生試驗所ニ送付スヘシ

衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其ノ成績書ヲ添ヘ之ヲ東京衛生試驗所ニ送致スヘシ但シ五匁未満ノ納付品ハ試驗ヲ施スコトヲ要セス

第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若ハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第十條 第四條及第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
第十一條 第五條及第八條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕

內務省令第四號 阿片法施行規則(明治三十年三月三十日)抄錄

第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セントスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ內務省ニ申出ツヘシ 但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ 地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ付記シテ內務省ニ進呈スヘシ

衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其成績ヲ內務省ニ報告スヘシ

但五匁未満ノ納付品ハ試驗ヲ施スニ及ハス

第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ內務省ニ報告スヘシ

第十條 第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

第十一條 第五條第八條ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○大藏省令第四十六號

明治四十二年三月三十一日 大藏省令第十一號 專賣局出張所、工場、試驗場名稱位置中左ノ通改正ス

明治四十二年八月二十一日

大藏大臣 侯爵 桂太郎

竹原試驗場ノ次ニ左ノ如ク追加ス

三田尻試驗場 山口縣佐波郡中關村

○大藏省令第四十七號

明治四十二年三月三十一日 大藏省令第十一號 中左ノ通改正シ明治四十二年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月二十六日

大藏大臣 侯爵 桂太郎

專賣支局管轄區域表中

イ 三田尻專賣支局ノ欄 山口縣ノ次ニ「福岡縣門司市、小倉市、企救郡 東郷村、大里町、ヲ加フ

ロ 熊本專賣支局ノ欄 福岡縣ノ下ニ「門司市、小倉市、企救郡ノ内 東郷村、大里町、足立村、板櫃村ヲ除

クニヲ加フ

專賣支局出張所名稱位置中熊本專賣支局ノ欄 門司出張所ノ行ヲ削リ三田尻專賣支局ノ欄 菱海出張所ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

門司出張所 福岡縣門司市

○大藏省令第四十八號

鐵道院出納員現金取扱規則中左ノ通改正シ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月三十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第二條第二號中「及各管理局出張所」ヲ「各管理局出張所及北海道鐵道管理局管内各運輸事務所」ニ改ム

〔參照〕

大藏省令第二十號鐵道院出納員現金取扱規則(明治四十二年四月一日)抄錄

第二條 出納員ハ左ノ範圍内ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

一 計理部、各管理局、各出張所、各建設事務所、各出納事務所及各管理局出張所ヨリ派出仕佛ヲ要スル繰替拂金

○陸軍省令第十三號

馬匹徵發事務細則中左ノ通改正ス

明治四十二年八月十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第十四條 郡市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受ケタルトキハ其ノ指定ノ期日ニ於テ指定ノ馬數ヲ確實ニ差出シ得ヘキ準備ヲ爲スヘシ但シ郡長ニ在リテハ馬匹調査及檢査施行規則第七條ノ馬調査表ニ依リ徵發馬數ヲ町村ニ配當シ之ヲ町村長ニ逕達スルモノトス

第十五條 削除

第三十六條中「明治三十年陸軍省令第四號」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第三十一號馬匹徵發事務細則(明治三十二年十月二十六日)抄錄

第十四條 郡市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受ケルハ直ニ馬匹調査及檢査施行規則第四條ニ規定スル馬匹調査表ニ依リ徵發スヘキ馬匹ヲ町村ニ配當シ得ヘキ準備ヲナスヘシ
期日ニ於テ其指定ノ馬數ヲ差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ
第十五條 市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受ケルハ直ニ馬匹調査及檢査施行規則第三條ニ規定スル馬匹現在圖書又ハ馬匹出入圖書ニ依リ差出スヘキ馬匹ヲ豫定シ何時ニテモ迅速確實ニ師團長ノ指定スル期日ニ於テ其指定ノ馬數ヲ差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ
第三十六條 本令ハ明治三十年陸軍省令第四號馬匹調査及檢査施行規則ヲ實施セサル島嶼ニハ當分施行セス

○司法省令第十七號

産業組合登記取扱手續左ノ通相定ム

明治四十二年八月十六日

司法大臣 子爵岡部長職

産業組合登記取扱手續

- 第一條 産業組合登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 産業組合聯合會登記簿ハ附録第一號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第三條 産業組合中央會登記簿ハ附録第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第四條 産業組合登記見出帳ハ附録第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第五條 産業組合登記受附帳ハ附録第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ
- 受附番號ハ一个年毎ニ更新スヘシ
- 第六條 登記所ニハ登記簿、組合原簿、聯合會原簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 謄本抄本證明書交付帳
- 二 申請書囑託書通知書附屬書類綴込帳
- 三 受領證原符元帳
- 四 決定原本綴込帳

- 五 登記簿原本綴込帳
- 六 登記簿綴込帳
- 七 抗告書類綴込帳
- 八 印鑑簿
- 第七條 前條第一號乃至第七號ノ帳簿ハ一ノ年毎ニ別冊ト爲スヘシ
- 第八條 組合原簿ハ附録第五號乃至第七號離形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
聯合會原簿ハ附録第五號及ヒ第七號離形ニ準シ之ヲ調製スヘシ
- 第九條 組合原簿ヲ作成スルニハ美濃判大ノ紙料ヲ用ウヘシ
- 第十條 申請人ハ組合原簿ノ表紙ニ署名捺印スヘシ
組合原簿ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ理事又ハ監事カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル
- 第十一條 無限責任組合及ヒ保證責任組合ノ區域ヲ定メタル場合ニ於テハ其區域ニ屬スル行政區
畫又ハ大字若クハ字ノ名稱ヲ組合原簿ノ表紙ノ裏面ニ記載スヘシ
- 第十二條 組合原簿カ二冊以上ナルトキハ申請人ハ各冊ノ表紙ニ其冊數ヲ記載スヘシ
- 第十三條 組合原簿、聯合會原簿及ヒ印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ
受附帳及ヒ登記簿原本綴込帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ
決定原本綴込帳及ヒ抗告書類綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ
原本抄本證明書交付帳、受領證原符元帳及ヒ登記簿綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ
- 前二項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス
- 第十四條 産業組合法第九條第二項但書ノ場合ニ於テハ設立登記ノ申請書ニ地方長官ノ認可書又
ハ其認證アル原本ヲ添附スヘシ

- 第十五條 組合カ其主ナル事務所ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ
登記ヲ申請スルトキハ更ニ組合原簿ヲ差出スヘシ但組合原簿ニハ現存セル事項ノミヲ記載スヘシ
- 第十六條 産業組合法第六十六條ノ場合ニ於テ主ナル事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ申請
スルトキハ申請書ニ定款、總會ノ決議録又ハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面及ヒ地方長官ノ認可
書又ハ其認證アル原本ヲ添附シ且組合原簿ヲ差出スヘシ
- 第十七條 産業組合法第六十八條ノ規定ニ依リ組合カ其組織ヲ變更シタル場合ニ於テ主ナル事務
所所在地ノ登記所ニ其登記ヲ申請スルトキハ同時ニ組合原簿ヲ差出スヘシ
- 第十八條 裁判所カ清算人ヲ選任又ハ解任シタル場合ニ於ケル登記ノ申請書ニハ裁判ノ謄本ヲ添
附スヘシ
- 第十九條 登記ノ申請書ニハ登記事項ニ付キ總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議録、總組合
員ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ其同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 第二十條 産業組合法第二百二條第二項ニ依ル登記ノ囑託ニ付テハ登録稅ヲ要セス
- 第二十一條 無限責任組合原簿及ヒ保證責任組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其
申請書ニ變更シタル事項ノ記載アル用紙ヲ編綴セル組合原簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ但組
合員ノ加入ニ因ル組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
- 第二十二條 無限責任組合員ノ加入ニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請
書ニ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ノ外加入シタル組合員ノ加入ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
保證責任組合員ノ加入ニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ申請書ニ加入シ
タル組合員ノ保證金額ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 第二十三條 前條ノ場合ニ於テハ組合ニ加入シタル組合員ニ付キ追加組合原簿ヲ除ク紙ヲ差出ス

前項ノ場合ニ於テ加入シタル組合員カ多數ナルトキハ申請書ニハ組合原簿ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十條ノ規定ハ第一項ノ追加組合原簿ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前條ノ規定ニ依リ差出シタル追加組合原簿ハ前ノ組合原簿ニ編綴シ登記官吏其綴目ニ契印スヘシ

第二十五條 前三條ノ規定ハ組合員ニ非サル者カ無限責任組合員又ハ保證責任組合員ノ持分ヲ讓受ケタルニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 第二十三條及ヒ第二十四條ノ規定ハ産業組合法第六十六條ノ場合ニ於テ合併後存続スル無限責任組合又ハ保證責任組合カ組合員ノ増加シタルニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 第十九條ノ規定ハ組合原簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二十八條 組合カ産業組合法第十五條ノ第二項ノ規定ニ依リ登記所ニ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ通知書ニ大字若クハ字又ハ其名稱ニ變更アリタル事由及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第二十九條 登記官吏カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ受附帳ニ通知事項ノ要旨通知ヲ爲シタル組合ノ名稱受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ通知書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ但通知事項ノ要旨ハ登記ノ目的欄ニ通知ヲ爲シタル組合ノ名稱ハ申請人ノ氏名欄ニ之ヲ記載スヘシ

第三十條 組合カ其事務所ヲ移轉シタル場合ニ於テ産業組合法第十六條ノ規定ニ依リ同法第十四條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキ又ハ同法第六十六條ノ規定ニ依リ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘシ

第三十一條 主タル事務所ニ非サル事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ主タル事務所又ハ他ノ主タル事務所ニ非サル事務所アル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十二條 組合ノ理事又ハ監事カ任期滿了ノ後再選セラレタルニ因リ變更登記ノ申請アリタルトキハ新ニ選任セラレタルト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スヘシ

第三十三條 産業組合法第十五條ノ第二項ノ場合ニ於テハ登記簿ニ變更ノ登記ヲ爲シタルトキト雖モ其公告ヲ爲スコトヲ要セス

第三十四條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ組合原簿ノ表紙ニ登記番號受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第三十五條 組合原簿ハ各組合毎ニ各別ニ之ヲ保存スヘシ但有限責任組合原簿ハ之ヲ合綴スルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ合綴シタル帳簿ニ目錄ヲ附スヘシ

第三十六條 組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ前ノ組合原簿中相當部分ノ變更欄ニ其記載ヲ爲スヘシ

第三十七條 無限責任組合員又ハ保證責任組合員ノ脫退ニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ組合原簿中相當部分ノ變更欄ニ其記載ヲ爲シ脱退シタル組合員ノ氏名ヲ朱抹スヘシ

第三十八條 産業組合法第十五條ノ第二項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ無限責任組合原簿及ヒ保證責任組合原簿ノ表紙ノ裏面ニ行政區畫大字若クハ字又ハ其名稱ノ變更アリタルコト及ヒ其年月日ヲ記載シ其表紙ノ裏面ニ記載シタル行政區畫大字若クハ字又ハ其名稱ヲ變更スヘシ

第三十九條 前條ノ規定ニ依リテ大字若クハ字又ハ其名稱ヲ變更シタルトキハ産業組合法第十五條ノ二第三項ノ規定ニ依ル組合原簿ノ記載ノ變更ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十條 無限責任組合原簿又ハ保證責任組合原簿ノ甲部用紙中變更欄カ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其組合原簿ニ甲部ノミノ繼續用紙ヲ編綴シ變更欄ニ變更ノ記載ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙及ヒ繼續用紙中適當ノ場所ニ便宜ノ方法ヲ以テ交互參看ノ符號ヲ附記スヘシ

前用紙中他ノ變更欄ニ餘白アルトキハ其欄ニ記載スヘキ事項ニ付テハ仍ホ之ニ記載ヲ爲スヘシ

前三項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 無限責任組合原簿又ハ保證責任組合原簿ノ乙部用紙中或組合員ノ變更欄カ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其組合原簿ニ乙部ノミノ繼續用紙ヲ編綴シ之ニ其組合員ノ氏名住所等ヲ移シタル上變更欄ニ變更ノ記載ヲ爲スヘシ

前條第二項及ヒ第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 第四十條ノ規定ハ有限責任組合原簿ニ之ヲ準用ス

第四十三條 産業組合法第七十九條第一項但書ノ場合ニ於テハ登記ノ申請書ニ地方長官ノ認可書又ハ其認證アル謄本同條第二項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スヘシ

第四十四條 産業組合法第八十條第一項但書ノ場合ニ於テハ登記ノ申請書ニ地方長官ノ認可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スヘシ

第四十五條 登記官吏カ産業組合聯合會ノ登記ノ申請書ヲ受取リタルトキハ産業組合登記受附帳

ニ記入スヘシ

第四十六條 産業組合聯合會ノ登記及ヒ産業組合聯合會原簿ノ記載ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外産業組合ノ登記及ヒ産業組合原簿ノ記載ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十七條 第十八條乃至第二十條、第二十八條乃至第三十三條及ヒ第四十五條ノ規定ハ産業組合中央會ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十八條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十二條乃至第三十七條、第三十八條、第三十九條、第四十七條、第五十一條及ヒ商業登記取扱手續第六條、第七條、第九條乃至第二十條、第二十三條乃至第三十三條、第四十四條、第四十六條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及ヒ産業組合中央會ノ登記ニ之ヲ準用ス

附 則

第四十九條 本令ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 明治三十三年司法省令第二十九號産業組合登記取扱手續ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第五十一條 本令施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル組合カ産業組合法第十五條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルニ因リ組合原簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ更ニ本令ニ定メタル組合原簿ヲ差出スヘシ

前項ノ組合原簿ニハ變更前ノ出資ノ總口數及ヒ拂込ミタル出資ノ總額ヲ記載スヘシ

第五十二條 本令施行前ニ登記シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲スヘシ

第五十三條 本令施行前ニ調製シタル産業組合登記簿ハ既ニ登記ヲ爲シタルモノナルト否トヲ問ハス營分ノ内其儘之ヲ使用スルコトヲ得

附錄第一號

産業組合登記簿

庶裁判所

紙數表紙ノ除キ 枚

地方裁判所長

第 號										
二十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
住氏人清 所名ノ算	月由 日及 年	設期 及ハ 立之 事ハ 時	所名ノ 監 住氏事	六 出 金 口	五 ノ 知 月 目	四 目 的	三 事 務 所	二 組 織	一 名 稱	及年 月日 七及 十 明 治 年 月 日 登 記
備				豫		八 所名ノ理 住氏事			七 法ノ拂出 方込資	

更 變	更 變
更 變	更 變

更 變	更 變
更 變	更 變

附錄第二號

産業組合中央會登記簿

區裁判所

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

更	變	更	變
更	變	更	變

更	變	更	變
更	變	更	變

備	豫	一	十	九	六	五	四	三	二	一	號	第
備	豫	住氏人清 所名ノ算	清及七年 算	存立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算	積立 及六 算
備	豫	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登	明治年月日登
						八 所名ノ監 住氏事			七 所名ノ理 住氏事			

附錄第三號

產業組合登記見出帳

區裁判所

部	名簿 業組合ノ 名簿	登記簿 業組合ノ 登記簿	丁簿 業組合ノ 丁簿	登記簿 業組合ノ 登記簿	備 考

部	名簿 業組合ノ 名簿	登記簿 業組合ノ 登記簿	丁簿 業組合ノ 丁簿	登記簿 業組合ノ 登記簿	備 考

附錄第四號

產業組合登記受附帳

區裁判所

附錄第五號

有限責任何々組合ノ組合原簿

理事

監事

年月日	受附 審就附	登記ノ目的	申請人ノ姓名	備 考

更 變	出資 ノ 日數	稱名

更	變
更	變

附錄第六號

無限責任何々組合ノ組合原簿

理事
監事

更	變	更	變	出資ノ口數	稱名	甲部
更	變	更	變	出資ノ口數	稱名	甲部

附錄第七號

保證責任何々組合ノ組合原簿

理事
監事

更	變	組合員ノ氏名住所	更	變	組合員ノ氏名住所	乙部
更	變	組合員ノ氏名住所	更	變	組合員ノ氏名住所	乙部

更	變	出資ノ口數	稱名	甲部
更	變	出資ノ口數	稱名	甲部

更	變
更	變

乙部	氏名住所	氏名住所
保費金額	保費金額	保費金額
變	變	變

更	變	氏名住所	保費金額	更
更	變	氏名住所	保費金額	更

○司法省令第十八號

明治三十三年司法省令第二十號中「産業組合登記簿」ノ下ニ「産業組合聯合會登記簿及ヒ産業組合中
央會登記簿」ヲ加フ

本令ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣 子爵岡部長職

〔參照〕

司法省令第三十號(明治三十三年七月二十三日)抄録
産業組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條
乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

○文部省令第十九號

明治四十二年文部省令第十一號高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程中左ノ通改正ス
明治四十二年八月十九日 文部大臣 小松原英太郎

第五條第二項中第一部甲類ノ下ヲ

「英語法律科
政治科
獨語法律科
獨語政治科」

ニ第一部丙類ノ下ヲ

「獨語法律科
獨語政治科」

ニ第一部丁類ノ下

ヲ「佛語法律科
政治科ニ改ム
佛語文科」

〔參照〕

文部省令第十一號高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程(明治四十二年四月二十一日)抄録
第五條第一項及第二項
選拔試驗ヲ受ケントスル者ハ其ノ入學後修業セントスル部類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ部類ハ左ノ如シ

- 第一部甲類 (英語法律科
獨語法律科)
- 第一部丙類 (獨語法律科
獨語政治科)
- 第一部丁類 (佛語法律科
佛語文科)

○文部省令第二十號

明治三十三年文部省令第十三號高等學校大學豫科學科規程中左ノ通改正ス
明治四十二年八月十九日 文部大臣 小松原英太郎

第五條中第一部各學科每週授業時數表附記第三項ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ政治學科ニ志望スル者ノ外國語ノ授業時數ハ本人ノ志望ニ依リ前
項ニ依ルコトヲ得

○農商務省令第三十三號

獸疫豫防法第十五條ニ依リ當分ノ内清國、韓國、西伯利亞又ハ之ヲ經テ生牛ヲ輸入スルコトヲ停止ス但シ食用ノ爲ニスルモノニシテ檢疫ヲ受ケタル後直ニ檢疫官ノ指定シタル屠場ニ於テ屠殺スルモノ及韓國政府ニ於テ日本政府ノ同意ヲ得テ定メタル檢疫所及檢疫方法ニ依リ行ヒタル檢疫ノ證明書ヲ有スル生牛ハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月五日 農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省令第三十四號

種牝牛貸付規程左ノ通相定ム

明治四十二年八月十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

種牝牛貸付規程

- 第一條 種畜牧場長ハ本規程ニ依リ其ノ保管ニ屬スル種牝牛ヲ左ノ各號ニ該當スルモノニ無償ニテ貸付スルコトヲ得
 - 一 畜牛ノ改良蕃殖ヲ行フ道廳府縣種畜場
 - 一 產牛馬組合法ニ依リ一道府縣以上ヲ區域トシテ牧場及其ノ他相當ノ設備ヲ爲シ畜牛ノ改良蕃殖ヲ行フ組合又ハ組合聯合會
- 前項貸付ヲ爲スヘキ種牝牛ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ種畜牧場長之ヲ定ム
- 第二條 前條ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ道廳府縣種畜場ニ在リテハ地方長官ヨリ產牛馬組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ地方長官ヲ經テ組長ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ種畜牧場長ニ差出スヘシ
 - 一 貸付ヲ受ケムトスル種牝牛ノ種類、頭數及借受期間

- 一 貸付種牝牛ノ管理及飼養ノ方法並之ニ要スル經費ノ豫算
- 一 種付ヲ行ハムトスル牝牛ノ種類別見込頭數及之ヲ行フ場所
- 一 組合又ハ組合聯合會ニ在リテハ其ノ種畜ニ關スル道廳府縣種畜場規程第五條第三號乃至第六號ニ掲クル事項

- 第三條 前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ種畜牧場長ハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第四條 種牝牛貸付許可ノ通知アリタルトキ又ハ貸付期間ノ滿了若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ種牝牛ヲ返納スル場合ニ於テハ借受者ハ指定期日及場所ニ於テ之ヲ受領シ又ハ之ヲ返納スヘシ
- 第五條 種牝牛ノ貸付期間ハ二年以内トス但シ期間滿了ノ後繼續貸付ヲ受ケムトスル者ハ期間滿了ノ日ヨリ二月前ニ其ノ旨ヲ申請スヘシ
- 第六條 種牝牛ノ借受、管理、飼養、返納ニ關スル一切ノ費用ハ總テ借受者ノ負擔トス
- 第七條 借受者ニ於テ種牝牛ノ管理、飼養ヲ怠リタル場合其ノ他種畜牧場ニ於テ必要ト認ムルトキハ貸付期間内ト雖農商務大臣ノ認可ヲ得テ種牝牛ヲ返納セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ借受者ハ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第八條 貸付種牝牛ニ付失踪、斃死、盜難疾病其ノ他重要ノ事故アリタルトキハ借受者ハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ種畜牧場長ニ報告スヘシ但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添付スヘシ
- 第九條 借受者ハ種付臺帳ヲ備ヘ配合牝牛ノ種類、年齡、毛色、身幹、產地、特徵、血統、種付ノ年月日、受胎ノ有無及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ記入スヘシ
- 第十條 貸付種牝牛ニ配シタル牝牛ノ所有者又ハ管理者ヨリ産牘ノ血統證ヲ請求スルトキハ借受者ハ之ヲ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十一條 借受者ハ貸付種牝牛ニ依リ行フ種付ニ關スル規程ヲ設ケ種畜牧場長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規程ニハ種付スヘキ牝牛ノ資格標準及其ノ検査手續種付料ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ金額及徵收方法其ノ他種付ニ關スル必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第一項ノ種付ニ關スル規程ニシテ種付料徵收ノ規定アルモノニ付認可ヲ與ヘタルトキハ種畜牧場長ハ遲滞ナク其ノ借受者種付料ノ金額及徵收方法ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 借受者ハ毎年其ノ前年ニ於ケル種付ノ成績及其ノ狀況ヲ地方長官ヲ經テ遲滞ナク種畜牧場長ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第三十五號

產業組合法施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年八月二十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

產業組合法施行規則

第一條 信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第二條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第六條 總代會ハ組合ニ在リテハ千人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設ケルコトヲ得ス

第七條 總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設ケヘシ

第八條 產業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之ヲ選舉スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク產業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合會ノ種類別ノ數並出資口數ノ異動

- 二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額
- 三 損益ノ計算並借入金及其ノ償還
- 四 總會又ハ總代會ノ決議

五 事業ノ狀況

六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ數、貯貯金及貸付金ノ利率、產業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、生産組合ニ在リテハ生産シタル物ノ種目別ノ數量又ハ加工若ハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項、生産組合聯合會ニ在リテハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項

七 處務ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十二條 組合、聯合會又ハ中央會カ借入金ヲ爲サントスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ遲滞ナク報告スヘシ

第十三條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會又ハ總代會ノ決議、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十四條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款ヲ添附スヘシ

第十六條 組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十七條 組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脱退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ產業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 地方長官カ產業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 產業組合法ノ規定ニ依リ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條 本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル產業組合ニハ之ヲ適用セス

○農商務省令第三十六號

明治三十三年農商務省令第二號中左ノ通改正ヲ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月三十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

附 則